

3	張宗昌拳兵問題……………	1016
4	漢冶萍公司および南滿鐵道接管問題……………	1063

日本外交文書 昭和期Ⅰ第一部第三卷 日付索引

一 滿蒙懸案解決交渉

1 昭和4年1月4日 在奉天林(久治郎)総領事より 田中(義一)外務大臣宛(電報)

陸軍が鐵道交渉問題に關与せぬよう指導あり
たき旨稟請

泰 天 1月4日後發
本 省 1月5日前着

第七号(極秘)

四日陸軍次官ヨリ当地特務機關ニ対シ「一月四日開催ノ由ナル聯合省議會ニ於テ鐵道問題否決セラルルカ又ハ南方ニ移サルルニ於テハ帝國政府トシテ機宜ノ措置ヲ執ルノ已ムヲ得サルニ至ル事アルヘキ旨林中佐ヲシテ個人ノ資格ニテ張作相ニ懇切ニ説明セシムヘク本件領事滿鉄トモ聯絡ヲ取ルヘシ云々」トノ意味合ノ電報アリタル趣ノ処御承知ノ通鐵道問題ハ目下尚滿鉄ニテ折角折衝中ニ有之本官ヨリモ未タ支那側ニ対シ正式ニ本件ニ關スル帝國政府ノ意嚮ヲ伝ヘタル事之レ無キニ拘ラス顧問等ヨリ仮令個人ノ資格ナリト

スルモ外務省側ト何等ノ諒解モナク俄ニ政府ノ意嚮トシテ申入ルル如キハ甚タ面白カラスト存シ其ノ旨不取敢森岡少佐ヘ申伝ヘ置キタルカ鐵道問題カ未タ平和的交渉中ニアル際陸軍次官辺ヨリ何カト直接出先軍部ニ訓令セラルル事ハ其ノ筋合ニモ之レ無カルヘク外交系統ヲ紊ル顯著ナル事例ニシテ斯ノ如キ事例カ支那側ヲシテ常ニ乗セシムル処トナリタル弊害ニ付テハ御承知ノ通ナルニ付テハ陸軍側ニ対シ篤ト御申聞相成度夫レトモ右訓電ニ關シ委細本省ニテ御含ミノ上ノ事ナラハ其ノ旨折返シ御電報アリタシ

2 昭和4年1月7日 田中外務大臣より 在奉天林総領事宛(電報)

陸軍省軍務局長に林総領事との連絡緊密化を
申し入れた旨通達

本 省 1月7日後發

第二号(極秘)

貴電第七号ニ関シ

次官ヨリ

本件發電前陸軍省軍務局長ヨリ協議アリタルニ依リ貴官ト充分聯絡ヲ取ラシメラレ度キ旨ヲ述ベテ右發電ニ同意シ置キタル次第ニ付御承知ヲ乞フ

~~~~~

3 昭和4年1月9日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

鐵道問題に關して張學良が強行策にでられな

いは連合省議會員の反対のためとの鄭謙談

話について

奉天 発

本省 1月9日前着

第一六号

今八日藤村カ鄭謙ニ会见セシ機會ニ私見トシテ張學良ハ曩ニ日本側ニ対シ北京取極ノ鐵道問題実行ヲ約シ乍ラ之ヲ履行セサルニ於テハ其ノ誠意ヲ疑ハレ學良本人ノミナラス滿洲ニ於ケル兩國ノ交情ニ暗影ヲ残ス結果ヲ生シ面白カラサル旨ヲ告ケ何等カ解決ノ端緒ヲ得居ルヤト質問シタルニ対

シ鄭謙ハ張學良モ本問題ニハ相当苦惱シ居ルモ聯合省議會員ハ表面ニハ學良ノ意中ヲ汲ミ之ニ反対スル意志ナキモ之

ヲ議決トシテ發表スルコトハ民間ノ反対ヲ懼レ之ヲ躊躇シテ其ノ議事ノ進行ヲ避ケツツアリ若シ學良カ之ヲ強要セハ議員等ハ南方ニ通シテ學良反対ノ氣運ヲ醸成スル懼アリ學良ハ其ノ進退ニ窮シ居ル<sup>(始カ)</sup>末ナリ民間反対ノ趣旨ハ吉敦路

工事ハ僅々二百元ヲ要スル家屋建築ノ為ニ九百元ヲ要シ居ル事実ニ徴シ其ノ総額モ之ヲ類推シ得ヘク斯ク不經濟ナル鐵道ヲ開設スルモ終始缺員ヲ生シ直接間接國民ノ負担ヲ増加スヘシトノ結論ヲナシ居ルモノニシテ斯ル事実アル以上民間ノ反対ヲ説得シ又ハ聯合議會ヲ強要スルコト容易ニ非ス此ノ辺ニ付テハ日本側ニモ充分諒解ヲ請ハサルヲ得スト稱シ鐵道問題ノ解決ハ容易ナラサルヲ言外ニ諷シ居タル趣ナリ

~~~~~

4 昭和4年1月9日 在百草溝田中(繁三)分館主任より
田中外務大臣宛

東亜勸業公司の間島地方における土地買収計

画について

機密公信第六号

(1月17日接受)

昭和四年一月九日

在百草溝

分館主任 田中 繁三(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

東亜勸業公司ノ土地買収計画ニ関スル件

客月二十八日東亜勸業公司社員江種源市郎及井上權藏ノ兩名本官ヲ來訪シ同社が間島各地殊ニ当汪清県内ニ於テ土地ヲ買収シ之レヲ鮮人ニ年賦償還法ヲ以テ転売シ以テ鮮人ノ地上權獲得ヲ援助シ延テ間島ニ於ケル帝國ノ実權ヲ確保セントスル計画ナルニ付領事館ノ指導援助ヲ希望スル旨申出アリタリ同人等ハ翌二十九日ヨリ三日間管内延吉県哈蟆塘地方ヘ出張視察シ三十一日再度來訪セルニ付本官ハ同社今回ノ計画ニ関シ詳細質問シタル処『会社ハ先般改組ノ結果実質上滿鉄会社ノ経営ニ移リタルモノニシテ自然今回ノ事業計画モ滿鉄社長並幹部ノ意図ニ出ルモノニシテ該計画ニ関シテ勸業ノ社長タル田邊滿鉄理事及吉植専務ニ於テ朝鮮總督、同政務總監及内務局長ト協議シ其賛成ヲ得又鈴木間島總領事トモ打合済ノモノナリ』トノコトニテ又『投資豫

定金額及買収並転売方法』ニ関シテハ『投資豫定額』ハ本人等ニ於テ不詳ナルモ『出来得ル限りノ面積ヲ可成速カニ買収セヨ』トノ命ヲ受ケ居ルモノニシテ『買収方法』ハ『纏リタル面積ニ対シ相当資力アル鮮人ヲ出資名義人トシテ買収名義人タル所謂地方主人トノ間ニ商租契約(現ニ東拓会社ノ実行シ居ル我方一方ノ認証セル)ヲ締結セシムルコトトシ』次ニ『転売方法』ハ『営利ヲ目的トセズ原地価ニ金利ヲ加算セル程度ノ価格ヲ以テ之レヲ行フモノナリ』トノコトナリ

右ニ対シ本官ハ『勸業公司今回ノ事業計画ニ関シテハ間島總領事並本省ヨリ未タ何等ノ指示訓令ニ接シ居ラサルモ右計画実行方ニ関スル私見ハ『買収方法』トシテ大口ノモノヲノミ行ハントセバ極メテ例外ノ少数ノモノニ止リ滿蒙ニ於ケルガ如ク特權者對手ノ宏大ナル土地ハ獲ラレサルベク又大口ヲノミ目的トセバ如何ニ内密ニ行フモ支那側ノ注目ハ避ケ難ク尚又買収名義人トシテ相当資力アル確実ナル鮮人ヲ求ムルコトハ当地方ニ於テハ勿論他地方ヨリトスルモ困難ナルベク更ニ之レト所謂地方主人トノ商租契約ハ地方主人、支那側間ノ關係実状ヲ知ルモノノ不安トスルトコロ

ナリ」又「転売方法」モ「買受者タル鮮人ト地方主人、地方主人ト名義人、名義人ト会社トノ三回ニ上ル債権債務関係ノ実行ハ相当複雑ナル事情ヲ惹起シテ困難ナルベシ」故ニ「会社今回ノ事業ハ実行方法ノ如何ニ依リテハ徒ニ支那側ヲ刺激シ結果現ニ徐々ニ伸展シ居ル鮮人ノ土地権ニ対シ憂フベキ状態ヲ見ルコトナシト言ヒ難ク又実行モ困難ナルベシ」然ルニ「会社ハ投資金額ヲ豫定シ之レヲ現存ノ金融部ヲ通シテ投資スルコトトシ、表面ハ飽迄金融部從來ノ小規模ニシテ堅実ナル方法ニヨルコトトシ其間貸付制限額及期限等ニ臨機適応ノ処置ヲ施セバ支那側ノ注意ヲ避クルコトモ比較的容易ニシテ又（小口ナリト雖）事業ノ進捗モ速カナルベク結局ニ於テ本事業計画ノ目的達成ニ庶幾カラント思料ス、然レ共法人格ヲ有セザル金融部ト会社トノ関係及現ニ行ハレ居ル鮮人ノ土地所有権ノ形式上ノ不備、更ニ又這種事業ハ支鮮人双方ニ対シテ是非共内密タルヘキコト等ニ関シテハ尚更ニ充分ノ考慮ヲ要スヘキコト勿論ナリ」ト述べ「当館管内ノ土地関係調査未了ナレバ詳細ニ関シテハ其完了ヲ俟ツニアラサレバ語リ得ス」ト附言シ置キタリ右報告申進スルト共ニ本件ニ対シ本官ノ採ルベキ方針ニ関

シ請訓申進ス
追テ右兩人ハ三日当地ヨリ龍井村ニ赴キ同地ニ駐在シ他地方モ視察ノ上事業着手ノ豫定ナリトノコトナリ為念申添フ本信写送付先 間島総領事

5 昭和4年1月10日 田中外務大臣より
在奉天林総領事宛(電報)

鐵道交渉問題に關して滿鉄を側面から援助方訓令

本省 1月10日後発

第三号
是迄鐵道問題ニ付テハ専ラ滿鉄ニ於テ交渉ノ衝ニ当リ居タル処今日尚解決ノ緒ニ付カズ政府トシテモ之レ以上滿鉄ノミニ委カセ置キ難キヤニモ認メラルルニ付テハ今後貴信ニ於テ側面ヨリ滿鉄側ノ交渉ヲ援助スル意味ニ於テ之ト聯絡ヲ取り張學良其ノ他支那側適當ノ向ニ対シ機會アル毎ニ本件促進方精々尽力アリ度ク殊ニ最近多少有望トナリ来リタルヤニ認メラルル趣ニモアリ又易幟問題ニ関連シ帝國政府ノ感觸ニ付奉天側カ相当懸念シ奥尔ヘキ今日此ノ機ニ乘シ

テ支那側ヲ動カシテ本件解決ヲ遂クル様特ニ御配慮相成様致度シ

6 昭和4年1月11日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

東北三省代表が日本側要求の鐵道敷設の実行を決定したとの情報について

奉天 本省 1月11日 着 発

第一九号
往電第一六号ニ関シ

江藤カ十日學良ヨリ確カメタル処トシテノ報告其ノ他ニ依レハ昨九日夜張學良、常蔭槐、張作相ノ三省代表会合ノ結果愈鐵道(脱?) 実行スルコトナリ多分明十一日最後ノ保安会ヲ召集シ其ノ席上ニ三省議會長ノ外常任議員二名ツツ合計九名ヲ招キ鐵道(脱?) 実行方決定セルニ付各省議會ヲ説得スヘキ旨申渡スコトナリタル趣ナルカ唯右実行ニ付テ常蔭^(槐)ヨリ所謂既設鐵道ニ対スル条件変更方提出スヘシトノコトナルカ此ノ点ニ付テハ滿鉄側トシテハ交換条

件トセス別途ニ考慮スル方針ヲ以テ支那側ニ応酬シ居ル趣ナリ事情右ノ通ニテ未タ遽ニ樂觀ヲ許ササルモ形勢稍好転シ来レル模様ナリ

尚九日發南京電通ニ「張學良ヨリ南方政府ニ対シ鐵道問題ニ付請訓セリ云々」ノ電報アル処右ハ数日前張學良ヨリ蔣介石ニ対シ私電ヲ以テ「鐵道問題ハ実行スルノ已ムヲ得サル事情アリ又実行スル方利益ナル故三省聯合ノ責任ニテ愈実行スルコトニ決セルニ付右貴台(蔣) 限りノ内密御含迄ニ通知ス」トノ意味合ヲ打電セル由ニテ右ニ関シ學良ヨリ江藤ヘノ談ニ依レハ「南北統一セル以上形式上通知セサルヲ得ス唯右電文ハ単ニ通知ノ形ヲ採リ居ル故別段蔣介石ヨリノ返電ヲ豫期シ居ル積リニモアラス蔣モ亦返事ノ仕様無カルヘシ云々」ト語レル由御参考迄

吉林へ転電セリ

7 昭和4年1月14日 在局子街田中(作)副領事より
田中外務大臣宛

奉天總司令部から延吉道尹公署に対する滿鉄吉会鐵道測量阻止方訓令について

公信機密第一四号

(1月23日接受)

昭和四年一月十四日

在局子街

副領事 田中 作

外務大臣男爵 田中 義一殿

滿鉄会社ノ敦化、延吉、海林地方測地行動阻止方

訓令ニ関スル件

支那官憲ハ曩ニ吉会線敷設反對運動發生以來敦化局子街間旅行本邦人ニ對シ特殊ノ注意ヲ払ヒ兩地間自働車運行開始後モ変装日人ノ旅行ヲ嚴重監視スヘシト発訓セル処今回更ニ国民政府ノ電報ニ接セル奉天總司令部ハ吉林保安司令部ヲ通シ滿鉄会社ハ員ヲ派シ敦化ヨリ延吉ニ來リ海林等地方ニ沿ヒ路線ヲ勸測シ其意旨敦化ヲ延長シ吉会線ヲ完成セントスルニ在ル趣ナルカ右若シ事実トセハ国防主權ニ關係アリ外交部ヲシテ抗議セシムルモ地方ニ於テモ法ヲ設ケ阻止セサルヘカラス調査復命スヘキ旨当地延吉道尹公署ニ訓令シ來レリト右御參考迄報告ス

本信写送付先 在支公使、奉天、間島、吉林各總領事

8 昭和4年1月16日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

鐵道問題の早期解決に關し張作相の樂觀的見
通しについて

奉天 發

本省 1月16日前着

第五五号

往電第四八号末段ニ関シ

今十五日張作相ニ會見シ懸案ノ鐵道問題ハ夙ニ關係筋ニテ其ノ速成ヲ期シ居ル処支那側内部ノ故障ニ依リ未タニ解決ヲ見サルハ頗ル遺憾ニ堪エス最近楊、常ノ処分ニ依リ東三省ノ禍根一掃サレ内部的牽制ヲ免レタルハ該問題ノ解決ニ好影響アリト認メ既ニ張學良ニ對シ其ノ促進ヲ嚴談シ置キタル処該鐵道ニ直接最關係アル吉林ノ軍民兩長官ニシテ東三省第一ノ資望実力ノ所有者タル貴官カ大局ヨリ打算シ其ノ至急解決ニ尽力セラルル事ヲ切望スル旨申入レタル処作相ハ楊、常事件ハ自分カ長ク奉天ニ駐在シタリシナラハ斯ル始末ニ至ラサリシト思ハルルモ既ニ出来タル以上致方無シ

鐵道問題ハ中央政府ノ取極ニ對シテ地方責任者ハ之カ実行ヲ為スヘキコト異論ナキモ地元地方民ノ反對熾烈ニシテ既ニ南京政府ニ請願シ得ル事情アリ国民政府ノ意見ヲ徵スル必要ヲ生シタルモノニシテ學良ヨリ兩三日前鐵道問題解決ノ已ムヲ得サル事情ヲ詳細国民政府ニ具申シ昨十四日モ最初ノ政務委員會ニ於テ本問題ヲ討議シタル次第ニテ自分ハ該電報ノ返事ヲ待チ鐵道問題ヲ処理スヘク当地ニ滞在シ居ルモノナリト稱シ氣輕ニ之ヲ取扱フ口吻アリタルニ依リ本官ハ国民政府カ其ノ実行ニ故障ヲ申込ミ來レハ如何ニスルヤト反問シ斯カル場合ニ我方トシテハ断乎トシテ所信ヲ執ルヘシト警告ヲ与ヘタルニ作相ハ斯カル紛争ヲ來サシメサル様最善ノ力ヲ竭スヘキヲ以テ決シテ御懸念ニ及ハスト頗ル樂觀シ居タリ

昭和四年一月十九日

在局子街

副領事 田中 作

外務大臣男爵 田中 義一殿

滿鉄ノ鐵道豫定線測量阻止方訓令ニ關スル件

滿鉄ノ敦化、延吉、海林地方鐵道豫定線測量阻止方訓令ニ關シ本月十四日付機密第一四号拙信ヲ以テ報告ニ及ヒタル処今回右ニ關シ延吉道尹公署ヨリ警察厅长ヲ經テ各地分署ニ密訓シタル趣八道溝分署長ヨリ報告アリタリ

右御參考迄報告ス

本信写送付先 奉天、間島、吉林各總領事

10 昭和4年1月21日

田中外務大臣より
在奉天林總領事宛

在滿韓僑行政についての訓令

亜二機密第二一号

昭和四年一月二十一日

外務大臣男爵 田中 義一

公信機密第二七号

(1月26日接受)

中国側官憲による滿鉄測量阻止方の訓令につ
いて

9 昭和4年1月19日

在局子街田中副領事より
田中外務大臣宛

総領事 林 久治郎殿

奉天領事會議決議ニ関スル件

本件ニ関シ客年十月二十九日附機密公第八三四号貴信ヲ以テ御申報ノ処右決議中在滿朝鮮人問題ニ関スル事項ニ付テハ左記各項ノ趣旨ニ依リ御措置相成度ク尚同年八月三十一日附機密公第六四四号貴信御申越ノ件ニ付テモ前同断ト御承知相成度

記

一、在滿鮮人事務ヲ原則トシテ外務省ニ統一スル件
在滿鮮人ニ対スル撫育助長ト保護取締トハ密接相関聯シ截然區別シ得ヘキモノニ非サルヲ以テ前者ヲ朝鮮總督府ニ於テ後者ヲ外務省ニ於テ夫々切離シテ分担スル現在ノ仕組ハ理想的ニハ面白カラサル制度タルハ論無キ所ナリ然リトテ領事會議決議ノ如ク此際助長撫育方面ノ事務ヲモ本省ニ統一スルカ為メニハ根本ニ於テ大正十年本省總督府間協定ヲ翻ヘシ在外鮮人事務一切ヲ本省ニ於テ主管スルコトニ付總督府側ノ同意ヲ得サルヘカラサル処本件協定ハ相當根柢深キ因縁アルノミナラス元來在滿鮮人問題ハ鮮内行政ト極メテ密接ナル關係ヲ有シ且鮮人關係事

(欄外記入二)

務ニハ總督府内ニ於テ優秀ナル専門家ヲ多ク求め得ラルル等本制度ニモ相當ノ妙味無キニアラサルヲ以テ本件ニ関スル領事會議決議ノ實現ニ向ツテ研究ノ歩ヲ進ムルヲ可トスヘキモ今俄カニ之カ實現ヲ図ルハ未タ其ノ時機ニ非スト認メラル尚現在ノ如キ事務分掌ノ制度ノ下ニ於テハ在滿鮮人問題ニ関スル所謂根本方針ノ樹立ニ付多少遺憾ノ点アルヘキハ已ムヲ得サル所ナルモ此ノ缺陷ヲ補フ為ニハ一般方針ノ決定又ハ特定ノ問題ニ対スル対策決定ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ本省側ト總督府側トノ間ニ京城其他適當ノ場所ニ於テ定期的ニ協議ヲ開キ又ハ兩当局間ニ常設の連絡機關ヲ設クルカ如キ方法ニ依ルヲ可トスヘキニ付右ノ方針ニ依リ更ニ研究ヲ進メラレ度

二、在滿鮮人事務ニ関スル機關充実方ニ関スル件

在滿鮮人問題ニ関スル所謂根本策ナルモノハ畢竟如何ニシテ是等鮮人ヲ撫育助長シ以テ其ノ生活ノ安定ヲ得シムルヤニ帰着スヘキ処教育産業金融等各方面ヨリ見テ如斯根本策ヲ樹立スルモ滿洲ニ於ケル土地問題ノ解決ヲ見サル限り有効ニ実施セラル可キモノニ非サルヤ明ナリ是レ即チ客春本省ニ於ケル在滿朝鮮人問題協議會ニ於テ「在

滿鮮人問題ノ解決策トシテハ……滿洲内地ヲ内鮮人ニ対シ解放セシムルコトヲ以テ最も適當ト認ムルモ其ノ實現ニ至ル迄ハ大体從來ノ方針ヲ踏襲スルノ外無シト認ムル」旨決議アリタル所以ナリ又現在ノ儘ニテ助長撫育方面ノ施設ニ付更ニ積極の方策ニ出テムトスルモ右關係事務カ朝鮮總督府ノ主管スル所ナル以上本省ニ於テ徒ラニ機關ノ整備充実ヲ行フモ無益ニ終ハル次第ナルヲ以テ領事會議決議ノ如ク本省ニ朝鮮關係課ノ充実ヲ計リ在滿洲各主要領事館ニ專任機關ヲ配置スルカ如キ根本的建直シヲ行フハ前記土地問題ノ解決乃至ハ在滿鮮人事務ヲ本省ニ統一シタル上ニ讓ルヲ適當トスヘシ

但シ本省ハ保護取締方面ニ於テ重大責務ヲ分担ス而シテ此方面ニ付テモ前記鮮人問題協議會ニ於テ「当面ノ対策トシテ大体從來ノ方針ヲ踏襲スル場合ニ於テモ鮮人ノ保護監督ニ関スル機關ノ整備充実ヲ計ルノ要アリト認ムル」旨決議アリタル通り其ノ方策及施設ノ上ニ更ニ講究ヲ要スル餘地尠カラサルモノアリ且助長撫育事務ノ実行ハ直接本省ノ相關セサル所ナリト雖鮮人問題全般ヨリ見テ此方面ニ於テモ本省側ニ於テ研究シ且總督府側ト協調

スヘキ点決シテ尠カラサル次第ナルヲ以テ右ノ意味及程度ニ於テ本省及出先ノ關係機關ヲ今少シク整備充実スルノ必要無シトセス
右機關ノ整備充実ノ範圍ヲ考フルニ本省關係ハ暫ク措キ滿洲全般ニ付テハ奉天總領事館ノ外間島、哈爾濱、吉林各總領事館等ニ対シテモ相當ノ整備ヲ行フ要アル可シ而シテ如斯整備及充実ハ其ノ程度次第ニ依リテハ単ニ在外公館ノ人繰加減ニ依リ實現スルヲ得ヘキモ然ラサル場合ニハ新規事業トシテ豫算ニ計上スルヲ必要トスヘキニ付前記關係公館ニ於テハ前述ノ趣旨ニ基キ現状ニ於テ必要且最少限度ノ整備計画ヲ樹テ申報相成度

三、在滿鮮人狀況調査ニ関スル件

在滿鮮人狀況調査ニ付從來徹底セサル憾アリシハ事實ナルヲ以テ本省ニ於テモ最近実行可能ナル方面ヨリ漸次統一的調査ノ歩ヲ進ムルコトナリ既ニ哈爾濱、安東、奉天、間島、遼陽、百草溝、吉林ノ各館ニ於テ調査ニ着手シ長春、齊々哈爾、鐵嶺等ニ於テモ近ク開始ノ手筈ニシテ其他各館ニ付テモ必要ト認メラルモノハ追テ調査セシムル方針ナリ而シテ右ノ調査力完了シタル上ハ在滿鮮

人ノ狀況ヲ知ル上ニ於テ相当啓蒙ノ実ヲ挙げ得ヘキコトハ本省ノ期待シ居ル所ニシテ滿洲方面ニ於ケル支那官民ノ対日空氣及治安狀況ニ鑑ミ今日ノ場合右以上ニ徹底セル根本的調査ヲ行ヒ其ノ効果ヲ挙クルコトハ期待シ得サル所ナルヲ以テ目下ノ処此程度ノ調査ニテ満足シ調査ノ結果不満足ノ点アラハ再調査ヲ行ハシムル等漸次補足シテ相對的完全ヲ期スルノ外無シト認ム從ツテ領事會議決議ニ依ル比較的短期間ニ基本的調査ヲ行フ為メ奉天ニ暫行的調査機關ヲ設置スルカ如キ案ハ目下実行中ノ調査ノ結果ヲ見タル上考慮スルコト致ス可シ

四、奧地警察官充実方ノ件

奧地朝鮮人保護監督ノ為メ相当數ノ警察官増員ヲ行フコトハ本省ニ於テモ夙ニ其ノ必要ヲ認メ又朝鮮人問題協議會ニ於テモ右ノ趣旨ノ決議ヲ見タル所ナルカ故ニ昭和四年度豫算ニ於テ在滿居留民保護ヲ目的トスル警察官増員計畫ヲ樹テ新規要求ヲ為シタル場合該計畫中ニ右奧地朝鮮人保護監督ノ目的ヲモ包含セシメタル次第ナルモ其ノ承認ヲ得ルニ至ラサリシ結果來年度ニ於テハ其ノ目的ヲ達スルヲ得サルハ遺憾ナルモ今後本計畫ノ實現ニ向ツテ鋭

意努力ス可キハ勿論ナリ

以上

本信写送付先 哈爾濱、吉林、間島各總領事

牛莊、安東、鐵嶺、遼陽、長春、齊々哈

爾、赤峰、鄭家屯、滿洲里各領事

新民府、局子街、頭道溝、琿春、掏鹿、通

化、海龍、百草溝、帽兒山各分館主任

(欄外記入一)

本件ハ曩ニ高裁ヲ經タル所ニ從ヒ起草セルモノナリ

(欄外記入二)

此点高裁案ニハ記セサルモ吉田次官ノ御注意モアリ特ニ追記セル次第ナリ

11 昭和4年1月22日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

交渉不調の際には強行着工も辞すべきでない

意見見具申

付記一 一月十八日發齋藤(良衛)滿鐵理事より山本

(条太郎)滿鐵社長宛電報

江藤(豐二)に対する二週間内の鐵道問題解決着手を約する張學良談について

二 一月二十一日發齋藤滿鐵理事より山本滿鐵社

長宛電報

鐵道問題を政務委員會に図る必要なしとの申し入れに対する張學良の対応について

奉天 1月22日後發

本省 1月22日後着

第六八号(極秘)

(1) 一月十四日及十五日日本官張學良及張作相ト会见ノ後滿鐵側代表者等モ更ニ一層ノ努力ヲ以テ各方面ニ応酬シツツアル処其ノ後學良ニ對シ蔣介石ヨリ鐵道契約実行ハ已ムヲ得サルヘキモ之カ実行ハ出来得ル丈遷延スル方貴下ノ為得策ナリト回電(江藤カ學良ヨリ聞込ム)シ來レル由ニテ十九日午后政務委員會ヲ開キ鐵道問題ノ善後策ヲ討議シ主義トシテ滿鐵側ノ希望ヲ容レ奉天及吉林ノ交渉員外三名ノ交渉委員ヲ選任シ滿鐵代表ト条件ニ関スル商議ヲ為サシムルコト

ニ決定シタリトテ其ノ旨張作相ヨリ二十日往訪ノ齋藤理事ニ語リタルヲ以テ本官ハ齋藤ニ對シ条件ノ商議ハ既設鐵道契約ノ緩和ニ関スルモノニシテ現在ノ鐵道契約トハ別個ノモノナリ支那側ハ之ニ依リ更ニ時日ヲ遷延シ我方ヲ引摺ル積リト認メラルルヲ以テ支那側申出ノ委員トノ商議ハ本件交渉ト別個ノモノトシ誠意アラハ直ニ新鐵道ノ局長ヲ任命シ測量ニ著手スヘシ然ラハ我方モ好意ヲ以テ既設鐵道契約ノ緩和ノ商議ニ応スヘシトノ方針ヲ以テ進ムヘキ旨ヲ指示シ齋藤ハ之ニ同意シテ二十一日學良ヲ訪問シ右ノ趣旨ヲ以テ交渉ヲ為シタルモ學良ハ不取敢委員ト商議セラレタシト遁

レ局長任命及測量開始ニ對スル言明ヲ与ヘス

(2) 他方張作相モ亦委員出来タルヲ以テ今後ハ委員ト相談セラレタシトナシ二十一日夜發吉林ニ帰還セリ依テ本官ハ明二十三日學良ヲ往訪ノ上更ニ利害ヲ説イテ強ク契約実施ヲ迫ル豫定ナルモ諸般ノ情報ヲ綜合シテ判断スルニ學良等ニ果シテ本契約実施ノ誠意アリヤ疑ハシキモノアリ少クトモ今期我議會ノ形勢及南方ト我政府トノ關係如何ヲ見將來又來ル三月中旬ノ全國代表會議ノ終ル頃迄ハ何等カノ口実ヲ以テ遷延セントスルモノト認メラル從テ之ニ對シ我方トシテハ

ズルニ引摺ラルルニ甘ンスルカ然ラスンハ断乎タル態度ヲ示スノ必要アリ卑見ニ依レハ抑モ本件ハ詳細ナル契約迄成立シ居リテ条件等ノ交渉ヲ必要トスルモノニアラス単ニ契約実施ノ諾否ヲ聞クノ要アルノミニテ之ニ依リ學良ニ果シテ我國ト協調スルノ誠意アリヤヲトスルヲ得ル次第ナルヲ以テ本官ヨリ學良ニ即時実行ヲ迫リ肯セサルトキハ誠意ナキモノト認ムル旨ヲ宣シ

滿鉄側ノ代表者全部当地ヲ撤退セシメ陰ニ陽ニ庄迫ヲ加フルコトト致度シ而シテ庄迫ノ方法ヲ研究スルニ本件契約ハ工事請負契約ナルヲ以テ之ヲ実施セサリシ場合直ニ兵力ノ擁護ノ下ニ我方ノミニテ工事ヲ起スカ如キハ現在ノ國際關係ニ於テハ極不得策ナリ東三省ニ於テ今日條約上ノ根柢モアリ内外ニ聞エテ毫モ恥カシカラス而モ支那側當局ヲ苦シメルモノハ各地ニ散在セル商租地ノ經營ヲ開始シ支那側ニ於テ個人ノ商租地經營ヲ妨害スル場合ニハ実力ヲ以テ之ヲ排除スルニ在リ此ノ方法ニ依ル時ハ一面支那側ヲ庄迫スルト同時ニ土地問題解決ニモ直ニ好箇ノ影響ヲ及ホスモノト思考セラル尤モ本件強硬政策採用ノ場合ニハ東三省ニ於テ他省ノ排日運動勃発スルコトナキヲ保セサルモ南方ト我國

トノ關係ニシテ好転スル場合ニハ各別懸念スル程ノコトナカルヘシト思考ス
以上開陳セル卑見ノ実行ニ當リテハ滿鉄トノ關係頗ル緊密ナルモノアルヲ以テ特ニ滿鉄社長ノ意見御聴取ノ上御詮議アリタシ

(付記一)

1月18日前発
1月18日前着

十八日學良江藤ニ對シ左ノ通り語レリ。
南京政府ヨリ第二回目ノ回電アリ要旨ハ、「總司令ノ日本ニ對スル地位ト苦心トハ十分諒トスルヲ以テ貴方ノ意見通り取ラハレ差支ナシ、但シ南方對日關係ノ現狀ニ鑑ミ關係ノヨクナル迄遷延策ヲ取ラレタシ」ト云フニ在リ
此上南方ト電報ヲ往復ノ要ナシ只実行後南方ガグズグズ云ハザル様諒解ヲトルタメ至急コジヤクグヲ南京ニ聞キ合セ其ノ結果ヲ見ル積リナリ、又聯省議會ハ議ニ上スモ到底賛成決議ヲナス見込ナキヲ以テ彼等ハ賛成ハセズトモ反對セザル様十分諒解ヲトグベク其ノ上ニテ実行ニ着手スベシ此

等手續キ実行マデニハ約二週間ヲ要スベシ但シ二週間ノ約束ハ學良、江藤ノ約束トシ日本側ヘ示サヌ様セラレタシ」尚聯省議會繰縦ノ為メ奉天議會ノ反對者ノ主魁タル王議長ハ秘書ニ任命シ同シク反對主張者タル孫議員ハ南京ニ特派スルコトトシ色々懷縦ニ苦心シ居リト語レリ、小職等ハ今日迄一歩々々先方ヲ引キヅリキタリタルモ學良ハ屢々色々ナ新口実ヲ作りダン引キ延シ來タレルニツキ前記二週間ノ約束モアテニナラズ、元ヨリ觀シ難ク此ノ際ハ只ヒタ押シノ外ナシト存ジ小職モ同日王家楨ヲ經テ學良ニ對シ一日モ遷延シ難キ事情ヲ詳説シ右ヲ江藤ニ對スル談話ノ再考方ヲ求メ且ツ近ク學良ヲ往訪スル筈、尚總領事ヨリモ強ク押シテモロウ事ニ打合せ済、

(付記二)

1月21日後発
1月21日後着

二十一日小職學良ト会见、十九日政務委員會案即チ五名ノ委員ヲシテ条件ヲ研究セシムル案ニ付キ今更条件ノ研究ノ必要ナキコト審議シテモ新契約以上ノ讓歩出來難キ次第ヲ

前電作相ニ對スルト同様ノ趣旨ニテ述ヘタルカ學良ハ委員案ハ自分等ノ努力ニ依リ漸ク政務委員會ヲ通過シタルコト故変更ハ困難ナリ又支那人上下ノ對日感情ハ極メテ險惡ナル際故人民ニ對シ新鐵道ノ敷設条件カ公正ナルコトヲ知ラシメ且ツ新鐵道敷設ニ依リ既設鐵道ノ条件ヲ緩和シテ貰フ等ノ利益アルコトヲ知ラシムル必要上委員ヲシテ研究(外部ニハ滿鉄側と商議スルコトトセス)セシムルコトニ決定シタリ、委員ハ兩三日中全部出揃フニ付キ之ト会见セラレ度シト答ヘタルニ付キ小職ヨリ政務委員會ノ決定ヲ變更スル位ハ大概ノ交渉上有リ勝ちノコトナリ、又人民ノ反對ハ總司令ニ於テ納得セシムルノ義務アリ、既ニ成立シタル契約ノ義務履行ニ付キ人民ノ反對ヲ云々スヘキニ非ス、滿鉄株ヲ三省政府ニ持タセルコト等ハ人民ノ了解ヲ得ル最モ良キ道具ニ非スヤ、況ンヤ我等ハ支那側ノ公正ナル要求ハ之ニ応スヘシト言フニ於テオヤ、人民ノ反對ヲ理由トシテ一層重大ナル外交上ノ困難ヲ惹起スルハ採ラスト述ヘ學良ハ尚種々困難ナル事情ヲ繰リ返ヘシタルニ付キ困難ハ双方ニ在リ之ヲ言ヒ会ツテハキリ無シ、予ノ恐ルル所ハ滿鉄側カ從來温和ニ温和ニト交渉ヲ進メ來レルコトニ對シ近來日本

側ノ不滿ヲ増シ且ツ有力者間ニ支那側ノ遷延策ニハ甚數キ反感ヲ持チ此際交渉ヲ政府当局ノ手ニ移スヘシトノ強硬論スラアリ、此儘ニテ推移セハ延イテ總司令ニ対スル日本從來ノ同情消滅シ貴下ノ地位ニモ一大變動ヲ来スカ如キコト無シトセス、之等ノ点ヲ考ヘ慎重ニ考慮セラレ度シト述フ、學良ハ日本カ力テヤルトナラハ弱手ヲ引クヤモ知レスト言ヒタルニ付キソシナコトノ無キ様ニトテ小職等ハ苦心シ居レリ、此ノ難局ヲ避クルノ道ハ速ニ局長ヲ任命シ測量ヲ開始スルニ在リ、若シ支那側ニ何等カ希望アラハ公正ノモノナラハ必ス好意的考慮ヲ払フヘシ、此希望ニ対スル商議ノ問題ハ全然契約実行問題トハ切り離ササルヘカラスト強ク主張シタルニ學良ハ自分トシテハ測量開始ニハ断ツテ反対ニ非ス此事ハ何レ委員会ニ商議セシムヘシト答ヘタルニ付キ当方ハ委員トノ会見ヲ拒絶スルノ意志ニ非サルモ局長任命測量開始カ先決問題トナリ押問答ヲ重ネタルカ先方ノ明答ヲ得ルニ至ラス、尙對南方問題及聯省議會問題ニ付キ學良ハ作相ト略同様ノ談話ヲナセリ。

ノ轉換ヲ計ル意向ナリトセハ之甚數錯誤ナリ日本ノ滿洲ニ於ケル權益擁護ハ国民一致ノ輿論ニシテ現政府単独ノ方針ニ非ス又國民政府トノ交渉モ多少ノ波瀾アルモ之亦結局ハ落着ク形勢ニアリト説明ヲ加ヘ尙日本政府ハ斯ル既定約束ノ実行ヲ促ス外他意ヲ有セス又当然ナル主張ヲ極メテ穩健ナル態度ヲ以テ其ノ解決ヲ計リ居ルニ拘ラス其ノ局ニ当ル責任者カ故意ニ事件ノ解決ヲ遷延スル如キ態度ニ出ツルハ明カニ從來總司令ニ対シ日本政府ノ執リタル同情ヲ無視シ國際條約破棄ノ結果ニ陥リ其ノ影響頗ル懼ルヘキモノアルヲ申聞ケタル処

⁽²⁾ 學良ハ本人カ是迄其ノ「ベスト」ヲ尽シ鐵道問題ノ解決ヲ期シタル苦衷ハ既ニ諒知ノ通ニシテ國民政府ニ対シテハ過般來何回モ電報ヲ以テ本件解決ノ避クヘカラサル経緯ト自己ノ苦境ヲ訴ヘ其ノ諒解ヲ得ヘク万全ヲ期シ居ルモ之ニ対シテハ未タ何等回答ニ接セスト称シ國民政府ノ支持ニ依リ其ノ責任ヲ回避スルヤノ口調ヲ洩シタルニ依リ本官ハ改メテ鐵道問題ハ既ニ中央政府ノ調印アリ地方官ハ只該協約ト契約ノ実行ヲ計レハ足り今更中央政府ノ指令ヲ仰クハ鐵道ノ成行ト条理トヲ無視スル責任回避ニシテ全然誠意ナキ証

12 昭和4年1月23日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)
張學良への吉会・長大兩線の即時着工の申し
入れについて

奉天 1月23日後発
本省 1月24日前着

第七〇号
往電第六八号ニ関シ

本官ハ今二十三日午前十一時ヨリ約三時間ニ亘リ張學良ニ会见シ本官ヨリ齋藤理事等ノ報告ニ依レハ去ル十九日五名ノ委員ヲ選任シ条約其ノ他ノ研究ヲ為サシムル事ニ決定セル趣ナルカ卑見ニ依レハ吉会線及長大線ハ既ニ昨年五月十五日滿鉄トノ間ニ工事請負契約ヲ締結シ居ルモノナレハ右兩鐵道ニ関スル限りハ何等其ノ条件等ヲ考慮スル餘地ヲ有セス單ニ局長ヲ任命シ実測ヲ行ヒ起工セシムレハ足ルモノナルニ此ノ当然ナル措置ヲ執ラス新ニ委員ヲ任命シ既設鐵道契約条件ノ研究ヲ為サシムル如キハ名ヲ之ニ藉リテ其ノ実行ヲ遷延セシムルモノト疑ハレサルニ非ス万一日本ノ政情ヲ觀望シ將又國民政府對日本ノ新交渉ノ經過ヲ見テ局面

抛ナリト断スル外ナシト真向ヨリ其ノ不誠意ヲ責メタル処學良ハ再ヒ其ノ本人苦衷ノ水泡ニ帰スルハ残念ナルモ一方國民政府ノ意ニ叛キ他方人民ノ反對ヲ省ル事ナク日本側ノ申出ニ聽従スルハ不可能ナレハ日本トシテ欲スルナラハ実力ヲ用ヒテ其ノ所信ヲ断行セラレタシト捨鉢の言辞ヲ弄シタルニ依リ本官ハ責任アル地方長官トシテ斯ル不穩当ノ言ヲ弄スルハ頗ル不謹慎ナリトシテ其ノ無責任ヲ誠メスル事態ノ發生ヲ防止シ円滿ナル解決ヲ計ル事カ公人タルモノノ責任ナルヘシト説示セルニ

⁽³⁾ 學良ハ態度ヲ一変シ内密ノ話ナルカト前提シ最近國民政府ヨリハ外國關係ノ交渉事項ニハ地方官ノ干与ヲ禁スル旨ノ正式命令アリ右ハ特ニ東三省ノ為發シタルモノニ非スヤト疑ハルル処之ヨリ先妥協ニ先立チ蔣介石トノ間ニ或ル種ノ問題ハ当方ニテ処理ストノ諒解アルヲ以テ敢テ前述ノ命令其ノ儘ヲ遵奉セス極力円滿解決ヲ期シ居ル自分ノ誠意ヲ認メ吳レヨト哀願的ニ其ノ苦衷ヲ述ヘ此ノ上議論スルモ詮ナシト認メタルニ依リ本官ハ結局本問題ヲ飽迄解決セントスル誠意ヲ有シ且ツ成功セシムル見込アリヤト念ヲ押シタルニ日本側ニ多少ナリトモ讓歩ヲ乞ヒ是非実行セシメタキ考

ナリト曖昧ノ返答ヲ為シタリ
右不取敢

(往電第六八号北京、上海ニ転電シ吉林へ暗送セリ)
在支公使、上海へ転電シ、吉林へ暗送セリ

13 昭和4年1月24日 田中外務大臣より
在奉天林総領事宛

間島地方における東亜勸業公司の土地買収計
画につき内査の上回報方訓令

亜二機密第二六号

昭和四年一月二十四日

外務大臣男爵 田中 義一

在奉天

総領事 林 久治郎殿

間島地方ニ於テ東亜勸業公司土地買収計画ニ関ス
ル件

本件ニ関シ別紙写ノ通在百草溝田中分館主任ヨリ請訓シ来
リタル処右東亜勸業公司土地買収計画ニ関シテハ本省ハ何
等知悉セサルニ付テハ貴地東亜勸業公司ニ於テ左記各項ニ

就キ御内査ノ上御回報相成度シ
追テ本件ハ極秘扱トセラレタシ

記

- 一、今回東亜勸業公司カ間島地方ニ於テ土地買収ヲ計画シ
居レリトセハ其内容(買収方法、買収豫定面積並豫算、
買収セントスル地方名、鮮人ニ対スル年賦償還方法等)
- 一、右買収ニ従事セシムル者ノ氏名
- 一、右買収ノ為出張セシムル期間
- 一、其他参考事項

以上

(四文書)
昭和四年一月九日付在百草溝分館来信機密公信第六号写
添付ノコト)

14 昭和4年1月25日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

張學良の満蒙懸案解決に対する誠意疑わしき
旨報告

奉天 1月25日後発

本省 1月25日後着

第七七号(極秘)

(1) 一月二十三日張學良ト会见ノ模様ハ往電第七〇号ノ通ナル
カ昨年来張學良トノ数次ノ会见ニ依リ得タル本官ノ印象及
諸方面ノ情報ヲ綜合スルニ彼ニ目下懸案ノ鉄道二線ノ工事
契約ヲ実施スルノ誠意アリヤ頗ル疑ナキ能ハス只父作霖ノ
政府ニ依リ正式ニ調印セル契約ナルヲ以テ正面ヨリ之ヲ拒
絶スル理由ナキ為言ヲ左右ニ託シ或ハ聯合省議會ノ同意ヲ
要スト為シ或ハ他ノ既設借款鉄道ノ条件緩和ヲ懸引ニ使用
シ或ハ南京トノ意思ノ疎通ヲ云々シテ時日ノ遷延ヲ計リ在
再時ヲ過ス間ニ自己ノ地歩ヲ固メントスルモノニシテ東三
省ニ於ケル我国ト關係ノ重大ナルハ承知セサルニ非サルモ
彼ノ頭腦モ亦南方青年ノ利権回收熱ニ伝染シ機会タニアラ
ハ東三省ニ於テ露国ニ対シテハ勿論日本ニ対シテモ利権回
収ノ拳ニ出ツルヲ辞セサル下心アリ但シ現在ハ未タ其ノ時
機ニ非サルヲ以テ隱忍自重シ表面日本トノ協調ヲ標榜スル
モ少クトモ今日ヨリ以上ノ利権ヲ与フルナカラント努力シ
ツツアルモノノ如シ

(2) 過般楊宇霆ヲ銃殺セルカ如キ固ヨリ自己ノ地位ヲ脅カスモ
ノトシテ猜疑心ニ依リ行動ナリトハ言ヘ其ノ直接ノ動機ハ

鉄道問題ニ関シ楊力速ニ実施スヘキヲ強ク勸メタル結果ナ
ルハ想像ニ難カラス從テ我方トシテハ尋常ノ手段ヲ以テ土

地問題ハ勿論契約済ノ鉄道スラモ之ヲ実施セシムルコト容
易ノ業ニ非サルコトヲ覚悟セサルヘカラス我對策トシテハ
學良ノ思想ヲ改メシムルヲ以テ最善トスルモ今日迄ノ本官
等ノ努力ノ跡ヲ見ルニ右ハ殆ト絶望ノ状態ニアルヲ以テ茲
ニ已ムヲ得ス第二段ノ策タル往電第六八号末段ニ進言セル
通り學良ニシテ我ト協調ノ誠意ナキ限り之ヲ支持セサルノ
方針ヲ如実ニ示スタメ土地問題等ヲ利用スルヲ得策トスヘ
ク而シテ之カ実現ハ我政府ト南方国民政府トノ關係好転後
ニ於テスルヲ最好機会ト思考ス右御参考迄卑見開陳ス

15 昭和4年1月26日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

国民政府の鉄道問題への対応振りについて

奉天 1月26日後着

本省 1月26日後着

第八〇号

今二十六日劉哲カ藤村ニ内話セル鉄道問題ニ関スル支那側

ノ意嚮左ノ通

張學良ハ鐵道問題ニ対シ全然誠意ナキニアラサルモ国民政府ヨリハ滿蒙五鐵道ノ敷設協約及吉会、長大兩線ノ工事請負契約ヲ否認シ來レル為之ヲ独斷実行シ得ス目下国民政府ニ対シ其ノ立場ノ困難ナルヲ訴フルト共ニ請負契約中ノ利子低減及支那側ニ回収ノ容易ナル如ク既定契約ヲ改訂シテ国民政府ノ諒解ヲ得ル様国民政府側ト電報折衝中ナルモ国民政府ヨリハ未タ何等回電ヲ見ス楊、常ノ処分ニ依リ威力ヲ減シタル張學良ハ事毎ニ国民政府ニ乗セラレ居ル現狀ヨリ觀テ鐵道問題ニ関シ国民政府カ張學良ノ立場ヲ考慮スルヤ疑問ナリ云々

16 昭和4年1月26日

奉天機関より
南(次郎)参謀次長宛(電報)

国民政府に対し日本への妥協の必要を求める

張學良の電報について

奉 天 1月26日發

参謀本部 1月26日發着

奉電第三二号(極秘)

地問題ヲ強要スルコトスル方針ヲ採リ滿鉄代表カ直接交渉中ノ鐵道交渉ヲ昨秋來直接間接ニ援助スルコトシタル次第ナルカ昨秋以來張學良等ノ態度ヲ見ルニ表面上本官ヲ始メ本邦人ニ対シ支那人一流ノ甘言ヲ以テ日支協調ノ必要ナルコト東三省ニ於ケル兩國合作ノ精神ニ共鳴スルコトヲ説キツツアリト雖實際問題ニ當リテハ為ス所毫モ言フ所ニ副ハス日支協調ノ意思ヲ有セサルコト殆ト疑ナキカ如シ蓋シ學良ノ意中ヲ忖度スルニ南方支那青年ノ對外硬思想ニ感染シ加之或ル程度迄ハ列車爆破事件ノ恨ヲモ含ミ我所期要求ニ対シテハ何事ヲモ聴カサラントスル決心ヲ為シ居ルヤニ見受ケラレ

右ハ曾テ紐育「タイムス」特派員
(五字分ク)

ニ対シ又近ク

ハ(三字分ク)ニ対シ學良カ語レリト伝ヘラルル処トモ符合シ居

リ之カ為本官ノ土地問題交渉開始ニ対シテハ初ヨリ毫モ応諾ノ色ヲ示サス鐵道問題交渉ニ當リテモ學良、作相共ニ時ニ触レ折ニ触レ最モ簡單ナル方法ハ日本カ自ラ兵力ニ依リ吉会線ヲ敷設スルニアリ等ト口外スルコトアル所以ナリト察セラル而シテ學良カ之等對外策ヲ樹ツルニ當リ指導ニ當リツツアルモノハ何人ナリヤヲ見ルニ必スシモ張作相ニ非

張弧カ土肥原ニ語ル所ニ依レハ、張學良ハ二十五日附ニテ南京政府ニ対シ左ノ要旨電報ヲ發セリ

日本側ハ此上鐵道問題ノ解決ヲ遷延スルニ於テハ或ハ威カヲ以テ之ヲ強行シ兼ネマジキ形勢ニ在リ然ル時ハ全權利ヲ日本ニ与ヘサルヘカラサルニ至ルヘキヲ以テ此際比較的有利ナル条件ニ依リ之ヲ実行スルヲ得策トスヘシ

關東、北京、天津、朝鮮、哈市 濟

17 昭和4年1月27日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

滿蒙懸案への対策に関する意見具申

奉 天 1月27日發

本 省 1月27日發着

第八三号(極秘)

昨年九月末土地問題交渉ノ御訓令ヲ奉シ帰任シテ以來張學良ニ対シ数次土地問題交渉開始ヲ促シタルモ其ノ都度報告ノ通り言ヲ左右ニシテ我要求ニ応セス此ノ上交渉開始ヲ迫ルニハ多少ノ圧迫ヲ加フルニ非スンハ不可能ナリトノ見込ヲ以テ不取敢先ツ懸案中ノ鐵道交渉ヲ片付ケ然ル後更ニ土

ス作相ハ固ヨリ進ンテ日本ト協調セントスルモノニ非サルヘキモ最近ノ言動ヲ見ルニ必スシモ我權益ニ打撃ヲ加ヘントスルカ如キ意思ヲ有セス寧ロ日本ノ感情ヲ害シテハ東三省ニ立チ得サル所以ヲ或ル程度ニ理解シ居レリト想像セラ

ルル節アレトモ旧思想ノ保持者トシテ學良ヨリハ敬遠セラ

レ居ルカ如シ情報ニ依レハ目下學良ノ事實上ノ外交顧問ハ

羅文幹ニシテ現在ノ対日交渉ハ可ナリ羅ノ意見ニ影響セラ

レ居レリト伝ヘラルルカ相當信ヲ置クニ足ルカ如ク

此ノ儘ニシテ過キンカ學良ハ到底我經濟的發展ニ共鳴ノ実

ヲ示スコトナカルヘク茲ニ往電第六九号進言ノ如キ処置ヲ

執ルノ必要ヲ感スル次第ナルカ我方ニ於テ斷乎タル処置ヲ

執ル以上其ノ目的ハ僅ニ吉会、長大二線ノ解決ノ如キニ止

メス更ニ根本的ニ土地問題解決ヲ主眼トシテ進ムヲ得策ト

スヘク而モ其ノ処置タルヤ正々堂々條約ノ基礎ノ上ニ立ト

ラ實際ニ於テハ仮借スル処ナカラシムル為先ツ各地散在ノ

土地經營ニ依リ事端ヲ滋カラシムルヲ得策トシ支那側ニ於

テ之ニ対シ更ニ強硬ナル態度ヲ持スルカ如キ場合ニハ所有

手段ヲ以テ圧迫ヲ加ヘテ學良ヲ苦シメ東三省ニ於テハ日本

ト協調スルモノハ之ヲ支持シ協調セサルモノハ之ヲ支持セ
ストノ方針ヲ徹底セシメ度右ノ趣旨ヲ以テ往電第六九号及
往電第七七号進言ニ及ヒタル次第ナリ

18 昭和4年1月29日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛

朝鮮総督府に対し東亜勸業公司援助に際して
は奉天総領事館との連絡を密にせられたき旨
の要請について

公第一一三号

(2月4日接受)

昭和四年一月二十九日

在奉天

総領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

昭和四年一月二十九日附朝鮮政務総監宛朝第二一号写送付

件 名

東亜勸業株式会社補助金交付方ニ関スル件

(別紙)

朝第二一号

昭和四年一月三十日

在奉天

総領事 林 久治郎

朝鮮総督府政務総監 池上 四郎殿

東亜勸業株式会社補助金交付方ニ関スル件

一月二十二日附貴府支出官発行当地東亜勸業公司宛金拾五
万円仕払通知書第三三三二二号接到ノ処右ハ本年度同公司ニ
対スル貴府補助金ト認メ同公司ノ請求ニ依リ別紙領収証ト
引換ニ交付致置キタルニ付御了承相成度尚東亜勸業公司ニ
対スル貴府ノ御方針ニ就テハ平素当館ニ於テ援助スル上ニ
モ相互連絡保持上ニモ御差支ナキ限り補助指令書等ハ当館
經由ノ上交付相成様希望致度又例年貴府ノ補助条件ハ甚タ
簡單ナル為同公司ノ鮮人施設ニ対シ当館ヨリノ意見ヲ申入
ルルニ多少不便ヲ感スル嫌アルニ付可成詳細ニ亘リ補助条
件ヲ指示相成様致度御参考迄関東庁本年度補助条件別紙^(省略)写
送付ス

本信写送付先 外務大臣

19 昭和4年1月30日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

鉄道問題に關しては関税交渉解決等による在
地対日感情緩和を待つて解決を図らんとする
のが張學良の意向との張弧談について

奉 天

発

本 省 1月30日後着

第九一号

往電第八四号ニ関シ

其ノ後張弧ヨリ深澤ヲ通シ本官ヨリ學良ニ対シ今一度強硬
ナル交渉ヲサレ度キ旨申越アリタルヲ以テ本官ハ二十三
日ノ会见ニ於テ殆ト最後の口吻ヲ用ヒタルヲ以テ其ノ必要ナ
シト拒絶シ置キタル処三十日答訪ノ際張弧ハ鉄道問題ニ関
シ最近學良ノ意思ハ從來ノ如ク本問題ヲ無責任ニ他ニ委譲
セントスルモノニハアラス唯中央ヨリノ申出モアリ今俄ニ
解決セントスルハ多少中央ノ面目ヲ失スル虞アレハ南方ニ
於ケル関税交渉其ノ他ノ解決ト相俟チ地方ノ対日感情緩和
セラルルヲ俟チ解決セントスル積リナリト既ニ再度自分
(張弧)ニ言明シタレハ引続キ學良ニ勸告スル考ナリト述

ヘタレハ凡ソ何時頃解決ノ見込ナリヤト質シタルニ関税交
渉解決後山東問題解決前ナルヘシト答ヘ尚張作相ノ意思如
何ト質セルニ作相ハ從來責任觀念ニ乏シク自ラ表面ニ立ッ
コトヲ回避スル性癖アレハ結局學良ヲ表面ニ立テ自分モ之
ニ賛成スルノ態度ヲ執ルニ至ルヘシト述ヘタリ不取敢

20 昭和4年1月31日

田中外務大臣より
在奉天林総領事宛(電報)

鉄道問題解決策の実施は国民政府との関係改
善後としそれ迄は日本側土地商租の実態把握
方訓令

本 省 1月31日後8時5分発

*第二一号

鉄道問題ニ関スル屢次ノ貴電ニ関シ氣運ヲ促進スル一方法
トシテ結局貴電第六八号末段ノ如キ手段ヲ試ミサルヘカラ
スト考ヘ居ル次第ナルカ其ノ時機トシテハ貴見ノ通南方ト
ノ関係一応好転スルヲ待テ得策ト信スルニ依リ差当リテハ
各地ニ散在スル商租地ノ経営並支那側ノ妨害排除ノ具体的
方法等ニ関シ豫メ詳細御考究置相成度即チ商租地ノ経営ト

云フモ差当り経営ヲ開始セシムル見込アル商租地如何、当事者ニ於テ資本ヲ出シ率先シテ事業ニ着手スヘキヤ、当初ヨリ実力ノ援護ニ依リ着手セシムルヤ、或ハ支那側ノ妨害生スルニ及ヒ其ノ程度ニ応シテ保護ノ手段ヲ講スルヤ等ハ当方トシテモ先以テ承知シ置キタキトコロナルニ付御研究ノ結果ヲ至急御回報アリ度シ

21 昭和4年1月31日

在奉天林総領事より
田中外交大臣宛(電報)

満蒙懸案解決に關して誠意なき張學良に對する
今後の日本側の対応方につき意見具申

奉 天 1月31日後発
本 省 2月1日前着

第九七号(極秘)

一、張作霖横死後ノ東三省政局ニ對シテハ帝國政府既定ノ御方針ニ從ヒ今日迄張學良ヲ守リ立テ同人ヲ中心ニ政治ノ安定ヲ計ルト共ニ鐵道、土地等諸懸案ノ交渉ニ當リ來レル処本官トシテハ諸勢力對立ニ依ル政治不安定ノ狀況ニ鑑ミ懸案交渉上ニ於テモ機宜ニ応シ寛嚴兩様ノ手段ヲ

ル排日運動尚熾烈ナル点

等ニ鑑ミ特ニ慎重ノ考慮ヲ要ス是等ノ諸点ヨリ考察スルニ大正十五年對張警告問題發生當時閣議ノ決定ヲ得タル陸軍其ノ他正式顧問ノ撤退滿鉄ノ軍需輸送停止京奉線「クロス」ノ切斷等ノ手段ハ當時ニ於テコソ支那側ニ對シ一大打撃タリシトハ雖モ今日ニ於テハ帝國ノ決意ヲ示ス以外ニ幾何ノ實質的効果アリヤ疑無キ能ハス又敦老、長大兩線ノ自力敷設ノ如キハ鐵道兩端並ニ線路自体ヲモ我方ノ勢力下ニ有シタル往時ノ安奉線ト面目ヲ異ニシ大部隊ノ兵力使用ヲ覺悟セサル限り実行ノ見込無キハ明ニシテ当地方陸軍側専門家モ此ノ点ニ付大体ニ於テ本官ト所見ヲ一ニス

三、從テ本官トシテハ累次往電稟請ノ通條約上ニ基礎ヲ有スル土地問題ヲ中心トシテ左記ノ方法ニ依リ懸案ノ解決ヲ期スル事ト致度シ

(一)⁽³⁾日支協調ノ誠意ニ付今一応張學良ニ對シ嚴肅ナル反省ヲ促シタル上誠意ノ実証トシテ鐵道問題ノ即時解決ヲ要求シ且同人ノ態度如何ニ依リ對學良關係ノ將來ニ關シ日本政府ニ於テ大ニ考慮スル処アルヘキ旨ヲ嚴重申

併セ用ヒ以テ一面學良ノ地位確立ニ資スルト共ニ他面同人ノ地位確立後懸案ノ解決ヲ促進スルニ尽瘁シ來レルモ過去數ヶ月ノ經過殊ニ南北妥協ノ實現並ニ楊常殺害後ニ於ケル學良ノ態度ニ顧ミルニ累次往電所報ノ通同人ニ日支協調ノ精神並ニ對日諸問題実行ノ誠意ナキコト殆ト疑ナシト考ヘラルルヲ以テ我方トシテ諸懸案ヲ解決シ以テ東三省ニ於ケル帝國ノ地位ヲ保持スルカ為ニハ此ノ際張學良ニ對シ相當ノ圧迫ヲ加ヘ我ト協調ノ誠意ナキ限り之ヲ支持セサルノ方針ヲ如實ニ示スノ外ナカルヘク今ヤ漸ク局面展開ノ時機ニ迫レルモノト信ス

二、此ノ間ニ処シ帝國ノ執ルヘキ措置ト其ノ時機如何ニ就テハ

(一)東三省ノ事態カ往年張作霖ノ関内進出當時ト事情ヲ異ニシ関内トノ間ニ事ヲ構フルノ可能性少ナク表面少クトモ目下軍備ノ縮少財政ノ整理等ニ力メツツアル点
(二)⁽²⁾張作霖爆死事件以來世界ノ視聽カ滿蒙ニ集中シ列國殊ニ英米兩國カ我方ノ對滿政策ニ對シ周到ナル注意ヲ払ヒ居ル点

(三)帝國ト南方トノ關係未タ軌道ニ復セス支那本土ニ於ケ

伝フルコト

(一)各地散在ノ本邦人關係商租地中現地保護可能ノモノニ付土地經營ヲ開始シ支那側ノ妨害ニ對シテハ実力ヲ以テ之ニ応シ事端ヲ繁クスルコト

(二)時宜ニ依リテハ一月四日附機密公第二号稟請ノ不逞鮮人討伐ヲモ併セテ実行シ事端ノ發生ニ資スルコト

(三)事態ノ推移ニ応シ正式顧問ノ撤退軍事輸送ノ停止京奉線「クロス」ノ切斷兵工廠ニ對スル石炭其ノ他諸材料供給ノ停止等ノ措置ヲ執ルコト

(四)場合ニ依リ滿鉄ノ鐵道ノ測量隊ノ編成ヲ了シ自力ヲ以テ懸案兩鐵道ノ測量ニ著手スルコト

(五)學良反對ヲ目的トスル諸種ノ運動ハ總テ之ヲ放任スルコト

(六)本件実行ノ時機ハ支那本土ニ及ホスヘキ影響ヲモ考慮シ南方トノ懸案一段落ヲ告ケタル場合ヲ選フコト

四、⁽⁴⁾本件強行手段実行ニ當リテハ現地保護ノ為差當リ警察官使用ノ意向ナルモ事態ノ推移ニ伴ヒ臨機兵力ノ使用ヲ必要トスルコト推察ニ難カラサルヲ以テ經營ヲ開始スヘキ土地ノ選定ニハ充分ノ注意ヲ要スヘク目下鋭意研究中

ナリ尚東三省ニ於テ最モ多ク商租地ヲ有スル東亜勸業ノ
専務吉植ハ本官トノ数次ノ会見ニ依リ土地経営開始ニ関
スル当方ノ意向ニ全然同意シ居レトモ山本滿鉄社長ノ注
意ニ依リ決行ヲ躊躇シ居ル次第ナルヲ以テ本件御詮議ニ
当リテハ同社長ノ意向ヲモ徴セラルコトト致度ク尚本
件御詮議ノ上ハ滿鉄陸軍関東庁等出先各機関トノ間ニモ
成ルヘク早目ニ打合ヲ遂ケ置キタキニ付本官トシテ心得
ヘキ点アレハ至急御回示アリタシ

在上海芳澤公使及北京へ転電シ在滿各領事へ暗送セリ

22 昭和4年2月4日 在吉林川越(茂)総領事より
田中 外務大臣宛

吉敦鉄道奶子山支線開通について
(2月14日接受)
公第九六号
昭和四年二月四日

在吉林

総領事 川越 茂〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

吉敦鉄道奶子山支線開通ニ関スル件

勸業公司農場耕作者庄迫ニ関スル件

三源浦附近大牛溝在住鮮人宋周鎬ノ語ル処ニヨレハ在三源
浦正義府柳河地方総管ハ東亜勸業公司カ大牛溝ニ有スル東
山農場水田二百餘天地ハ倭敵ノ所有ニ係ルヲ以テ之レガ耕
作ヲ為サス荒廃セシムベシトノ命令ヲ下シ鮮農小作人ニ対
シ耕作ヲ禁止シ背命ノ徒ハ殺戮スヘシト威嚇シ居レル為メ
同地方鮮農ハ何レモ困憊シ居レル趣ナリ

右報告ス

写送付先 奉天総領事、滿鉄社長

24 昭和4年2月15日 在奉天林総領事より
田中 外務大臣宛

京奉、奉海両鉄道の貨客連絡運輸問題について
機密公第一七六号
(2月22日接受)
昭和四年二月十五日

在奉天

総領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

京奉、奉海両鉄道貨客聯絡運輸開始ニ関スル件

吉敦鉄路局ニ於テハ鉄道收入ノ増加ヲ計ル為メ客年十一月
十七日より蛟河奶子山炭坑間(一〇、三營業軒)支線ノ建
設ニ着手シタルカ最近工事竣成シタルヲ以テ一月三十一日
試運転ノ上二月二日より營業ヲ開始セリ右支線ハ貨車ノミ
ヲ運転シ専ラ奶子山炭坑ノ運炭ヲ目的トスルモノナルカ旅
客ノ便利ヲ計ル為メ三等旅客運賃ヲ徴シ右貨車ニ便乗セシ
ムル由ナリ

右報告ス

本信写送附先 北平 奉天

23 昭和4年2月7日 在海龍坂内(彌代記)分館主任より
田中 外務大臣宛

柳河地方における東亜勸業公司所有地の韓僑
小作農に対する中国側官憲の威嚇について
公第七三号

昭和四年二月七日

在海龍

分館主任 坂内 彌代記〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

京奉、奉海両鉄道貨客聯絡運輸問題ハ奉海鉄道建設當時ヨ
リ屢次両者間ニ於テ研究協議セラレタル処ナルカ支那側ニ
於テハ打通線ノ開通ト相俟チ奉海沿線廻り貨物ヲ右連絡
線ニ依リ營口ニ集中シ大連ノ繁栄ヲ奪ハントスル計画ニ基
ケルモノニシテ滿鉄側ニ於テモ相当注意ヲ払ヒ居ル次第ナ
ルカ右聯絡協定ハ客年十一月中成立セルモノノ如ク約六百
「メートル」ノ連絡線敷設工事ノ竣工ト同時客年十二月二
十六日より正式連絡運輸ヲ開始スルニ至レリ尚ホ目下取扱
ノ現状ヨリ看ルニ一車扱貨物ハ京奉線所屬車輛ニテ直通シ
小口扱貨物ハ總テ奉海線奉天駅ニテ積替ヲナシ奉海奉天
駅、京奉瀋陽駅間客貨接続ハ京奉鉄路側ニテ接続列車ヲ運
転シ居リ未タ円滑ナル運転連絡ヲ見サルカ将来奉海線客貨
車輛ノ充実トモニ滿鉄側ニ相当影響ヲ及ボスヘキモノト
見ラレツアリ滿鉄側入手京奉、奉海鉄道聯絡運輸協定草
案並時間表添付右不取敢報告ス

本信写送付先 在支公使

25 昭和4年2月18日

在奉天林総領事より
田中 外務大臣宛(電報)

張學良が鐵道反對運動激成方吉林省教育庁長
に依頼した旨の峰旗談について

奉天 2月18日後発

本省 2月19日前着

第一三六号（極秘）

最近三日間吉林ニ歸リ本十八日来奉セル峰旗カ本官ニ内話
スル処ニ依レハ元吉林省教育庁長劉樹春ハ峰旗ニ対シ極秘
ナリトテ昨秋来奉ノ折學良ハ自分（劉）ニ対シ鐵道反對運
動激成方依頼シタルモ自分ハ元来建設派ノ方ナレハ之ヲ聞
流シ置キタルカ右學良ノ態度ニ鑑ミルニ日本側ニ於テ強硬
ナル態度ヲ取ラサル限り鐵道問題ノ解決ハ不可能ト思考ス
ル旨ヲ洩セル趣ナリ

吉林ニ転電セリ

26 昭和4年2月21日

田中外務大臣より
在間島鈴木（要太郎）総領事宛

間島地方における東亜勸業公司の土地買収計

画に對し意見上申方訓令

付記 二月十二日付在奉天林総領事より田中外務大

昭和四年二月十二日

在奉天

総領事 林 久治郎（印）

外務大臣男爵 田中 義一殿

間島ニ於ケル東亜勸業公司ノ土地買収計画ニ関ス

ル件

本件ニ関シ一月二十四日附亜二機密第二六号貴信御来示ノ
趣敬承同公司ニ付取調ヘタル処左記ノ通りニ付右ニ御了承
相成度ク尚本件計画ハ大仕掛ニシテ容易ニ支那側ニ発覚セ
ラレ易ク土地問題根本解決ニ障礙ヲ来ス虞アルノミナラス
邦人側ノ土地既得権ニモ累ヲ及ホスナキヲ憂慮セラルル
ニ付計画ノ内容及実行方法等ニ付慎重ノ考究ヲ要スル次第
ト存ス御参考迄申添フ

記

一、本件計画ノ由来

本計画ハ客年四月東亜勸業公司組織変更セラレ事実上満
鉄ノ傍系会社ト成リシ以来山本満鉄社長ニ於テ蒙古及間
島方面ノ土地権取得ノ一方法トシテ先ツ間島方面ニ於テ
土地ヲ買収シ之ヲ鮮人ニ与ヘ自作農化センコトヲ企図シ

臣宛機密公第一五八号公信

間島地方における東亜勸業公司の土地買収計

画の内実について

亜二機密第三二号

昭和四年二月二十一日

外務大臣男爵 田中 義一

在間島

総領事 鈴木 要太郎殿

間島ニ於ケル東亜勸業公司ノ土地買収計画ニ関ス
ル件

本件ニ関シ在百草溝田中分館主任ヨリ機密公信第六号ヲ以
テ照会越タルニ付在奉天林総領事ヲシテ内査セシメタル処
別紙写ノ通回答ニ接シタリ本件ハ貴地方ニ於ケル重大事項
ニシテ充分講究ノ要アルヘキモノト認メラルルニ付豫メ貴
見承知致度此申進ス
本公信写送付先 百草溝分館主任

（付記）

機密公第一五八号

（2月18日接受）

満鉄重役会議ノ議ヲ經テ其実行ニハ東亜勸業ヲシテ当ラ
シムルコトト成リタル結果東亜勸業吉植専務ニ於テ昨年
八月頃ヨリ之ニ着手シタルモノニシテ田中総理、山梨朝
鮮総督、鈴木間島総領事及関東庁側トハ既ニ諒解アル趣
ナリ

二、買収方法

買収方法ハ先ツ間島在住歸化鮮人ヲシテ支那側ヨリ土地
ヲ買収ラシメ其土地ヲ更ニ東亜勸業ニ於テ我官憲ノミノ
認証ヲ以テ該買受歸化鮮人ヨリ商租スルト共ニ万一事態
紛糾ノ場合ニハ直ニ支那人又ハ歸化鮮人名義ニ書キ換フ
ル準備トシテ他ニ空白名義売買契約書ヲモ徴シ置ク由ナ
ルカ勸業公司側ニ於テモ大仕掛ナル土地買収ナルヲ以テ
支那側ノ発覚ヲ虞レ細心ノ注意ヲ以テ計画ヲ進メ若シ形
勢不穩ト認ムルトキハ直ニ中止ノ決心ナル旨申シ述ヘ居
リ吉植専務モ昨秋二回間島ニ赴キ鈴木総領事ト聯絡シ從
業員ノ人選其他一般ニ涉リ其指揮ヲ仰クコトニ打合せ済
ナリトノコトニテ十二月初旬ヨリ基礎調査ニ着手シ三月
末迄ニハ第一期調査ヲ終ヘ買収ニ取り掛ル豫定ナリト

三、買収豫定面積及預算

本件買収経費ハ全部満鉄ヨリ東亜勸業ヲ通シテ支出スルモノニシテ総経費五百万円ヲ豫定シ居リ（形式上東亜勸業ヨリ年利六分支払）買収土地面積ニハ豫定ナク経費ノ許ス限リノ面積ヲ買収セントスルモノナルモ先ツ二年間内ニ二万町歩ヲ買収シ度キ希望ナリトノコトナリ

四、買収セントスル地方

間島一帯殊ニ敦化ト會寧間鐵道豫定線附近ヲ主眼トシ現在ニ於テハ龍井村、明月溝、倒木溝、百草溝、琿春方面ニ調査ヲ進メツツアリ

五、鮮人ニ対スル年賦償還方法

最短八年最長十五年ノ期限ヲ以テ鮮農ニ耕作セシメ現在ノ小作料ヲ以テ年賦償還セシムル方法ニ依ルモ粃ヲ以テ償還セシムルヤ現金ヲ以テ支払ハシムルヤニ付テハ未タ決定セス

六、買収従事員

東亜勸業奉天本社員江種源市郎及井上權藏ノ兩名目下間島ニ在リテ基礎調査中ナルカ近ク土地買収ノ任ニ当ルヘキ者ヲ派遣スヘク現ニ満鉄ト人選協議中ナリ

七、買収ノ為メ出張セシムル期間

カ解散後學良ハ土肥原ヲ招致シ秘書長王樹翰ト共ニ其ノ模様ヲ語リテ曰ク結局各地ヨリノ反対電多キニ鑑ミ一兩日中ニ決スルコト困難ナルニ就キ今少シク状況ノ推移ヲ待チ何等カノ打開策ヲ講スルコトナレリ云々ト表面ノ理由以上ノ如キモ同日委員会直後學良カ張弧ヲ招致シ密談セル処ナリトテ張ノ語ル処ニ依レハ其ノ真因ハ同日汪榮寶公使ヨリ田中内閣ハ議會終了直後総辭職ヲナスヘシトノ電報来リ居ル為本問題ノ解決ヲ瀕死ノ田中内閣ニ於テナスヨリモ寧ロ次期内閣ニ於テ解決スル方得策ナリトノ意見多数ナリシニ依リシモノニシテ案ノ内容ニ何等反対無ク從來ニ比シ好転シツツアルコト確實ナルモ結局上記ノ結果ヲ見ルニ至リシモノナリト。

關東濟

28 昭和4年2月25日

奉天機關より
南參謀次長宛（電報）

張學良側の鐵道問題解決を次期内閣成立後に延期せんとする意図に対する松岡の非難と張學良の弁明について

第三項所述ノ通り二年間ニ大体買収ヲ完了スル豫定ナルヲ以テ買収員ノ出張期間モ之ニ準スル筈ナルモ買収完了後ト雖本計画各種ノ事務アルヲ以テ是カ為メ特ニ社員ノ駐在ヲ必要トスヘシ

27 昭和4年2月24日

奉天機關より
南參謀次長宛（電報）

松岡、張學良會談の結果および鐵道問題解決を次期内閣成立後に延ばさんとする張學良側の意向について

奉 天 2月24日後発

參謀本部 2月25日前着

奉第五八号（極秘）

鐵道問題ハ一時停頓ノ状態ナリシカ過日来張弧及土肥原ノ斡旋ニ依リ松岡副社長ト學良トノ間ニ逐次意志ノ疎通ヲ見、終ニ二十日松岡、學良氏密談ノ結果吉敦線延長ノ実行ヲ機トシ他ノ借款問題改訂ノ交渉ニ応ス可キ条件ノ下ニ契約ニ基キ直ニ局長ヲ任命シ測量隊ヲ派遣スル事ニ略々諒解成リ之ヲ二十三日ノ政務委員会ニ提出シ協議スル処アリシ

奉 天 2月25日後発

參謀本部 2月25日後着

奉第六〇号（極秘）

一、奉電第五十八号ノ如ク鐵道問題カ政務委員会ニ於テ不結果ニ終リシコトニ對シ松岡ハ張弧ヲ通シ學良ニ對シ更ニ左ノ如ク言ハシメタリ

本問題ニ關シ斯ノ如ク曖昧ナル態度ヲ以テ遷延セラルル事ハ独リ松岡個人ノ不面目ナルノミナラスヤガテ兩國間ノ大問題トナリテ現ハルルニ至ルヘシ田中内閣ハ決シテ世間伝フルカ如キ基礎薄弱ナルモノニ非ス且此際日本ニ對シ好意ヲ示シ置クハ将来何人ノ内閣タルトヲ問ハス必要ナルヲ以テ其辺充分考慮セラレ至急断行セラレ度

二、右ニ對スル學良ノ言ナリトテ張弧ノ談左ノ如シ

松岡ニハ大イニ同情スルモ目下南方政府ニ於テモ田中内閣ノ存続ヲ疑ヒ濟南交渉モ停頓セル情況ニシテ又当方面ノ民心モ一般ニ田中内閣ニ快カラサルヲ以テ今暫ク猶豫セラレ度此ノ情態ノ多少緩和スルニ至ラハ必ス断行スヘシト

三、尚土肥原ハ松岡ノ依頼ニ依リ本二十五日學良ニ會見シ

其真意ヲ確カムル筈ナリ
関東済

29 昭和4年2月26日

奉天機関より
南参謀次長宛(電報)

松岡、張学良会談での取り決め事項の実施に
関する土肥原、張学良会談について

奉 天 2月26日後発

参謀本部 2月26日後着

奉電第六一号(極秘)

一、奉電第六〇号ノ如ク二十六日土肥原ハ學良ト会見シ彼ノ真意ヲ確メタルニ彼ハ前日ノ政府委員会ニ於テハ鉄道問題ハ必ス有利ニ進展スルモノト信シ可決セル場合ノ通電(張弧起案)迄用意シ非常ナル決心ヲ以テ臨ミタルモ會議中種々豫測セサル事故(汪榮寶ノ田中内閣ニ関スル電報)發生シ爾來四囲ノ情況ハ焦ルニ從ヒ不良ナル有様(恐ラク南方ニ於ケル濟南交渉ノ決裂等ヲ指スナラン)ナルヲ以テ此形勢ノ緩和スルニ非サレハ斷行シ得サル情況ナリ云々ト依テ更ニ豫想斷行期日ヲ問ヒタルニ彼ハ自

己ノ信用ニ関スルヲ以テ今明言スル能ハスト答ヘタリ
二、松岡副社長ハ張弧等ニ依頼シ吉林及哈爾濱ニ至リ張作相及張景惠ヲ説得シ學良ニ実行ヲ促サシメ又更ニ三月上旬帰京ノ途次學良ト会見シ其結果ニ基キ善後ノ決心ヲナスノ企圖ヲ有シアリ

関東スミ

30 昭和4年3月2日

奉天機関より
阿部(信行)陸軍次官宛(電報)

張景惠、張作相の鉄道問題に対する意向について

奉 天 3月2日後発

陸軍省 3月2日後着

奉電六三号(秘)

一、學良ハ一日夜急遽土肥原ヲ招致シ鉄道問題ニ関シ近ク更ニ松岡副社長ニ会見シタク尚日本ハ一体真実ノ処何ノ程度迄讓歩シ得ルヤ其腹ヲ知リタシト語リシヲ以テ土肥原ハ其事ニ関シテハ張弧ヲ通シ松岡ト疏通セラレテハ如何ト答ヘタリキ

張弧ハ先般来吉林及哈市ニ於テ作相及景惠両氏ノ意圖ヲ確メタルニ彼等ノ各個ニ語ル処左ノ如シ

(イ)張景惠曰ク、昨年来作相ノ反対セルハ楊一派ノ裏面的活動ヲ知レルカタメニシテ楊、常亡キ今日既ニ何等反對スル理由ナク作相方面ノ關係ハ余ニ充分ノ自信アリ尚現在南ニ派遣セル二名ノ代表ハ単ニ鉄道問題ノ經過ヲ説明セシムルニ止マリ他ニ何等任務ナク尚彼等ヨリノ爾後ノ報告總ヘテ良好ナリ尚本件ニ就テハ先ツ貴官速ニ歸奉シ斷行ノ端緒ヲ得ルコトニ努メラレタシ

(ロ)作相ハ曰ク、本問題解決ニ同意ナルモ自ラ之ヲ提言スルハ日本トノ間ニ暗キ關係アルヤニ誤解セラルル虞アルヲ以テ敢テ之ヲ為ササルモ學良トシテハ一度之カ斷行ヲ決意スルニ於テハ何時ニテモ之ヲ支持尽力スヘシ省民ノ反対ノ如キハ確實ニ武力ヲ以テ鎮圧スヘシト明言シ尚之ニ関シ詳細ナル弁法ハ近ク景惠ト共ニ赴奉シ會議決定スヘシ云々

31

昭和4年3月8日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

濟南事件解決を機に日本政府が東三省において断固たる方針に出るべきとの意見具申

奉 天 3月8日後発

本省 3月8日後着

第一九六号(極秘)

昨年六月以来張學良ハ本官ヲ始メトシ本邦要人ニ接見ノ砌ハ必ス東三省ニ於ケル日支協調ヲ説キタルモ其ノ後ノ交渉經過ニ徴スルニ右ハ誠意ニ出テタル言ナリヤ頗ル疑ハシキハ既ニ屢次電報ノ通ニシテ全ク一片ノ口頭禪ト看做サルルヲ以テ本官ハ彼等ノ常套手段タル偽言ニ翻弄セラルルヲ避クル為去ル一月二十三日(往電第七〇号)學良ニ会見ノ際強ク鉄道問題其ノ他ニ関スル彼ノ不信ヲ詰リ彼ニシテ聴カスレハ東三省ニ於ケル日支協調ヲ破ルノ責ヲ負ハサルヘカラサルヲ告ケテ別レ爾來一ヶ月半彼ニ面会セス滿鉄当事者其ノ他ニ対シテモ成ルヘク同様ノ態度ヲ執ラシムル様努メ居リタル処學良ハ本官等ノ態度硬化ヲ見ルヤ手ヲ代ヘテ張弧並ニ從來直接關係シ居ラサリシ土肥原ヲ使用シ在大連ノ松岡副社長操縦ヲ企テ先月二十一日同副社長ヲ当地ニ呼出シ甘言ヲ振播キ更ニ今回副社長上京ノ途次再ヒ不得要領ノ

接見ヲ与ヘテ鉄道問題ヲ誤魔化シ居レル処

如何ニ無誠意ノ彼トテモ漸次契約期限ノ切迫シ来ルコトト
我議會ノ無事終了ノ見込漸次明白トナルニ懸念ヲ始メタル
モノト見エ最近ニ至リ頻リニ本官トノ会見ヲ希望スルカ如
キ様子ヲ示シ出セルモ本官ハ彼ニシテ誠意ヲ如実ニ示ササ
ル限リ会見スルノ必要ナク若シ強テ之ヲ欲スレハ自ラ当館
ニ来訪スヘント伝ヘテ相手ニ為シ居ラサルカ議會終了シ濟
南事件解決シ我政府力愈東三省ニ於ケル対策上活動ノ自由
ヲ得タリト見ルニ至ラハ或ハ鉄道契約実施ニ著手スルコト
ナキヲ保セサルモ之トテモ尚疑ハシキモノアリ依テ帝國政
府トシテハ近ク濟南問題解決ヲ機トシ豫テ稟電ノ通東三省
ニ於テ断乎タル御方針ニ出テラルル様御決心アランコトヲ
切望ス

32 昭和4年3月8日

奉天機関より
南参謀次長宛(電報)

松岡、張学良会談で測量隊の派遣につき合意
したとの報告

行セシメ別ニ交通委員会ヨリ測量隊派遣方発令スルコトト
セリト(土肥原情報)

34 昭和4年3月17日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

張学良より張作相へ吉会鉄道測量方申し送り
の事実無しとの吉林総領事報告

奉天 3月17日後発

本省 3月18日前着

第二二五号

吉林発本官宛電報第六号

大臣発本官宛電報第六号(本官発貴官宛電報第五号)ニ関
シ

早速林顧問ノ手ニテ張作相及熙参謀長ニ就キ吉会線測量ニ
就キ奉天ヨリノ命令若ハ申送ノ来否ヲ探リタルモ昨十六日
迄ノ処全ク其ノ様子ナク一面田邊吉敦技師長ニ対シテモ吉
敦局長ニ対スル同様命令ノ有無問合セタル処是亦未タ右ニ
付命令ヲ受ケタル様子ナシトノコトナリ
就テハ右命令又ハ申送ナルモノノ発セラレタル日取並ニ其

奉電第六八号(極秘)

松岡副社長ハ七日張學良ニ面談セリ鉄道問題ハ実現ノ意志
アルコト確實ナルカ如キモ条件ニ就キ尚折り合ハサル点ア
リテ未タ解決ヲ見ルニ至ラサルモ取敢ヘス測量隊ヲ派遣ス
ルコト丈ケハ承諾セリト

関東、北京スミ

33 昭和4年3月11日

奉天機関より
阿部陸軍次官宛(電報)

測量隊派遣の発令方法に対する張学良意向に
ついて

奉天 3月11日後発

陸軍省 3月11日後着

奉電第七三号(極秘)

張弧ハ昨十日張學良ニ召致サレ鉄道問題ヲ熟議ノ結果吉敦
鉄道局長ニ直接ニ突然命令スルハ誤解ヲ生スルコトアル可
キヲ以テ學良ヨリ作相宛詳細ナル説明的書信ヲ張廷樞ニ携

ノ内容等確ト御突止ノ上電報アリタシ尚張作相ハ明十八日
当地發貴地ヘ向フ筈
大臣へ転電アリタシ

35 昭和4年3月18日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

松岡、張学良会談における張学良の約束の履
行は疑しき旨の報告

奉天 3月18日後発

本省 3月18日後着

第二二八号

本官発吉林宛電報第五号

貴電第六号ニ関シ

先般松岡副社長學良ニ会見ノ際學良ハ滿鉄側ヨリ測量隊派
遣方文書ヲ以テ申越アレハ自分(學良)ヨリ吉敦局長ニ同
隊派遣ヲ命スルト共ニ學良ヨリ張作相ニ右ニ反対セサル様
申送ルヘキ旨約シタル趣松岡ヨリ聞知シタルモ本件鉄道交
渉ニ関シテハ從來幾度カ此ノ手ニ乗セラレタルコトアルヲ
以テ本官トシテハ學良ノ真意ニ疑ナキ能ハス暫ク成行ニ注

意シ居タル次第ノ処學良ハ張作相ニ対シ何等カ申送りタルコトハ事実ナルカ如キモ其ノ内容等不明ニシテ測量隊ト謂フモ契約面ニ規定ノ滿鉄側測量隊ニアラスシテ支那側ノ測量隊ナルモノ如シ未タ本件交渉ニ一進展ヲ劃セルモノトハ認ムルヲ得ス
大臣へ転電セリ

36 昭和4年3月20日 在間島鈴木總領事より
田中 外務大臣宛

間島地方における東亜勸業公司の土地買収計画に
関し意見上申

機密第三〇三号 (3月29日接受)

昭和四年三月二十日

在間島

總領事 鈴木 要太郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

間島ニ於ケル東亜勸業会社ノ土地買収計画ニ関スル件

本件ニ関シ意見申出ヘキ旨客月二十一日付亞二機密第三二

キハ疑ナキ所ナリ而シテ在朝鮮人ハ其数四十万ニモ達スルヲ以テ支那側ニ於テ如何ニ排斥セントスルモ不可能ナリ故ニ間島ヲ中心トシテ集团的ニ接壤地域ヨリ各方面ニ發展スルニ於テハ第二ノ間島第三ノ間島ヲ構成シ遂ニ東部滿洲ニ一種ノ朝鮮国ヲ見ルニ至ルモ難カラズ之カ發展ニハ土地ノ所有權ヲ獲得スルヲ第一トス而シテ間島地方ニ於テハ歸化鮮人ハ自由ニ土地ノ所有權ヲ獲得スルヲ得(和龍県ノ如キハ歸化ヲ要セズ)又歸化ハ殆ント自由ニナシ得ラルルヲ以テ鮮人發展ニハ好適地ト云フヘシ
三、間島地方ハ南滿各地ニ比シ地価未タ低廉ナルノミナラズ朝鮮ト接続スル地帯ナルヲ以テ支那人ノ發展セサル以前ニ土地ノ所有權ヲ獲得シ將來ノ發展ヲ計ルハ最も要ノ儀ト思ハル故ニ東亜勸業ノ計画ハ当地方トシテハ最も機宜ヲ得タルモノト認メラル只如何ニシテ之ヲ実行スルヲ得ヘキハ頗ル困難ノ問題タルノミ即チ支那側ヲ刺激セサル最善ノ方法ヲ取ラサルヘカラズ此点ニ関シテハ同会社当地出張員ニ対シ戮力注意ヲ与ヘ居レリ然シ何時迄テモ秘密ニ実行シ得ヘキモノトハ思ハレズ必ス支那官憲ニ於テハ察知スルニ至ルヘキモ滿鉄ハ已ニ敦化地方ニ於

号貴信ヲ以テ御訓令ノ趣敬承大要左ニ申進ム

一、昨春小官帰朝ノ際当地民会金融部ニ対シ滿鉄ヨリ資金融通方ニ付交渉ヲ試ミタルハ御承知ノ通りノ次第ナル処當時東亜勸業会社ハ東拓ヨリ分離シ滿鉄專屬トナリタル為メ同会社ヨリ融通スルコトトナリタルヲ以テ右ノ用務ノ為メ昨年十月吉植專務当地ニ来リタル際間島方面ニ於ケル土地買収ノ計画アル旨ヲ聞キタル処客年末小官再ヒ帰朝ノ節吉会線問題ニ付山本滿鉄社長ト会谈シタル際同社長ヨリモ間島方面ニ於テ土地買収ノ計画アル旨談話アリタルガ其後滿鉄側ニ於テ右ノ計画漸次進捗シタルモノト見エ東亜勸業ヨリ二三ノ社員当地ニ来リ又滿鉄ヨリモ一二ノ派遣員来看シ調査ニ着手セリ是ヨリ前滿鉄ニ於テハ吉会鉄道沿線附近ニ於ケル土地ヲ買収スル計画ヲ立テ二三年前ヨリ着手シ敦化附近ニ於テ已ニ勘カラサル土地ヲ買収シタル趣ナリ

二、間島ニ於ケル朝鮮人ハ漸次其ノ地歩ヲ堅メ今ヤ間島軍春四県下ニ於ケル土地ノ六割強ハ朝鮮人ノ所有ニ歸シ益増進シツツアリ之カ保護指導宜シキヲ得バ十年ヲ出デスシテ間島ハ領土權ハ支那ニ在ルモ實際ハ我カ有トナルヘ

テ相当廣大ナル地積ヲ買収シ支那側ニ於テモ大体知り居ルニモ拘ラズ餘リ問題トナラズ時々地方官ニ対シ外國人ニ土地ヲ賣買スヘカラサル旨ノ訓令ヲ發スル位ノ程度ニ止マレリ故ニ仮令多少感知セラルルモ巧ニ行動ヲナスニ於テハ相当実行ノ可能性ヲ有スルモノト認メラル而シテ当地方ハ朝鮮人ヲ名義人トスルヲ以テ何等カ問題ノ起リタル際ハ帝國臣民トシテ之ヲ保護シ得ヘキヲ以テ便宜勘カラズ

四、支那側ノ注意ヲ避クル為メ之ヲ民会金融部ヲ通シテ行動セシムルモ一方法ナルモ民会ハ多数ノ集合体ニシテ種々ノ人物混入スルヲ以テ本件計画ノ如キ秘密ヲ保タシムルコトハ絶対ニ不可能ナルノミナラズ一朝失敗ヲ招キタル時ニハ東亜勸業ノ卷添トナリ民会金融部ヲモ苦境ニ陥ラシムル虞アリ而シテ金融部ニ少額ノ資金ヲ融通セシメ極テ小口ニ發展セシムル方法ニ関シテハ別ニ成立シ居リ同会社ヨリ二十万円ヲ投資セシムルコトニ已ニ決定シ近ク実行ノ筈(前記第一項滿鉄ニ対スル交渉ノ結果)

五、本件実行ノ為メ現ニ徐々ニ伸展シツツアル鮮人ノ土地所有權獲得上ニ支障ヲ来スコトナキヤハ大ニ考究ヲ要ス

ル所ニシテ朝鮮人自作農ノ買収シ得ル如キ小口ノモノハ買収セズ又已ニ朝鮮人ノ發展シタル密集部落地方ハ之ヲ避ケ可成間島接壤地方ニ於テ大口ノモノヲ買収セシムルヲ適當ト思ハル

六、同会社ハ目下間島延吉県地方ニ於ケル支那人地主ト交渉中ナルガ已ニ十餘箇所ノ買収ヲ了シ其ノ価格約三十万円ヲ支出シタルヤニ聞及ヘリ而シテ右ハ単ニ支那人地主ト名義人タル帰化鮮人トノ間ニ於ケル売買契約ニ止マリ支那人官憲ノ承認ヲ經タル名義書換ノ手續ヲ了シ居ラス名義書換ニ當タリ支那人官憲ニ於テ容易ク之ヲ受理スルヤ否ヤ頗ル疑問ニシテ帰化鮮人ノ背后ニ日本ノ大会社アルコトヲ感知シ困難ナル問題ヲ惹起スルヤモ計ラレサルニ付同会社ニ於テハ當分其儘トシ適當ナル時期ヲ見定メ支那人官憲ニ対シ相當懷柔手段ヲモ試ミ書換ヲ実行セシメントスル計畫ナルモノノ如シ

之ヲ要スルニ本件ハ我カ対滿發展上最モ機宜ヲ得タル計畫ナルモ之カ遂行ニハ相當困難アリ其局ニ當タル者ニ於テ巧妙ニ立廻リ支那人側ヲ刺激セサル様臨機適応ノ措置ヲ取ルニ於テハ相當ノ成果ヲ挙クルコト必スシモ難カラサルモノト

ヘカラストナシ之ヲ回収省有トスルニ決定シタルカ吉敦側ニ於テハ本支線省有ハ不得已トスルモ之カ營業ヲ同局ニ委託方請願スル処アリ省政府ニ於テモ之ヲ諒トシ目下海吉路局ヲ代表トシ吉敦路局トノ間ニ辦法商議中ナルカ結局建設資金ハ省政府負担トシ營業ハ吉敦路局ニ委託シ収益ヲ配分スルコトトナル模様ナリ

右報告ス

本信写送附先 北平、奉天

38 昭和4年3月22日 在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

鐵道懸案解決の遅れに対する田中首相の理解
を求める張學良談について

奉天 本省 3月22日前着

第二三九号(秘)

三月二十一日日本官帰朝挨拶ノ為張學良ヲ往訪セル処學良ハ特ニ内密ニ話シ度シトテ他ノ列席者ヲ退席セシメ王家楨通訳ニテ貴總領事帰朝ノ曉ハ田中首相ヨリ東三省ニ於ケル事

認メラル

本信写送付先 奉天總領事、百草溝分館主任

37 昭和4年3月21日 在吉林川越總領事より
田中外務大臣宛

吉林省政府による吉敦鐵道奶子山支線の省有
化に対する吉敦鐵路局の対応について

機密公第一九四号 (3月29日接受)

昭和四年三月二十一日

在吉林

總領事 川越 茂(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

吉敦鐵道奶子山支線省有ニ関スル件

吉敦鐵路局カ奶子山支線(一〇・三營業軒)ヲ建設シ二月二日ヨリ營業ヲ開始シタル次第ハ二月四日附拙信公第九六号報告ノ通りナル処当初吉敦路局ニ於テハ省政府ノ内諾ヲ得タルノミニテ正式許可ヲ得サルママ工事ニ着手完成シタルモノナルカ過般ノ省政府委員會ニ於テ吉敦鐵道ハ外債ニ依リ建設サレタルモノナレハ本件支線ヲ同局ニ管理セシム

情ニ付種々ノ諮詢アルヘキコトト存セラルルカ自分ハ東三省ニ於テハ日支飽ク迄親善ナル關係ヲ維持スル必要アリト考ヘ又田中首相カ自分ヲ支持セラルル御方針ナルコトニ對シテハ常ニ感謝シ居ル次第ナルカ目下滿鉄トノ間ニ懸案トナリ居ル鐵道問題ニ對シテモ自分ハ必ス之ヲ成立セシメサルヘカラスト為シ居ルモ幾多困難ノ事情アリテ今直ニ之ヲ實現シ兼ヌル状態ナルコトヲ諒察セラルル様伝ヘラレタシト述ヘタルヲ以テ本官ハ東三省ニ於ケル日支ノ關係ハ非常ニ重大ニシテ兩者相協調スルニ非スムハ此ノ重要關係ヲ持續スルコト困難ナリ從テ昨春本官着任以來政府ノ方針ヲ体シテ飽ク迄貴總司令ヲ助ケ日支協調ノ為ニ努力シ来リ

在滿日支人間ノ親善モ次第ニ其ノ歩ヲ進メツツアリト信セラルル処貴總司令カ既ニ兩國間ニ調印セラレタル鐵道契約ノ実行ニ躊躇セラレ居ル為我方ニ於テハ貴總司令カ果シテ我ト協調ノ精神ヲ有スルヤ否ヤ疑ナキ能ハサル状態ニアリ貴總司令ハ一部人民ノ反對ヲ以テ躊躇ノ口実ト為シ居レルモノニ依リ日支国交ヲ害スルカ如キハ正義ノ上ヨリ云フモ又利害得失ノ上ヨリ言フモ頗ル妥當ヲ缺キ殊ニ若シ日本側カ強硬手段ヲ執ルトキハ貴總司令ノ地位ヲ好転セシムルコ

張學良ノ我方ニ対スル態度ハ從來兎角誠意ヲ缺キ種々ノ懸案解決ニ当ツテモ瞞着の態度ヲトリツツアルハ累次報告ノ通ナルカ最近我議會モ会期終了ニ近付キ又吉会鉄道契約期限モ切迫スルニ絡レ我方ノ態度ニ対シテ可成リ深甚タル注意ヲ払ヒツツアリテ本官カ最近五十有餘日間學良ニ会见ヲ避ケ来レルニ対シテモ種々ノ手段ヲ以テ接近ヲ試ミ来リ居リシ処往電二三九五号⁽⁷⁾本官ノ往訪ニ対シテハ學良ハ可成リ重要視シ本官カ十二時頃訪問スヘキコトヲ約束シ居タルニ十一時頃ヨリ多数ノ来客ヲ拒絶シテ本官ヲ待チ受ケ初会见ニ於テハ特ニ慰撫ナル態度ヲトリ甘言ヲ以テ応待シ頻リニ自分ニ誠意ナキニ非サルコトヲ弁疏シ約三十分ノ会食後二時間以上ニ亘リ密談シタル次第ナルカ諸般ノ状況ヨリ見ルニ最近學良ハ我方ノ態度變化ニ特ニ注意シ本官ノ帰朝ヲ可成リ重大視シ居ルモノノ如クナルモ満鉄ノ測量開始ニ対シテハ尚明白ナル回答ヲ与ヘス只自分ノ苦衷ヲ訴フルノミニテ此ノ儘ニテハ本鉄道交渉ハ円満ニ解決シ得ルヤ頗ル疑ハシキモノアリ就テハ契約期限モ漸次切迫セルヲ以テ支那側ノ意嚮如何ニ拘ラス満鉄ヲシテ契約第二条第二項ニ依リ速ニ測量ヲ開始セシムル様御詮議アラムコトヲ希望ス

トアリト考フルカ如キコトアラハ夫ハ日支兩國ノ国交ヲ害シ又貴總司令一個人ノ為ニモ頗ル執ヲサル処ナリト述ヘタルニ學良ハ実ハ自分ハ契約実施ノ意向アルモ政務委員會ヲ始メ自分ノ部下ハ殆ト皆反對ナルヲ以テ今之ヲ実施スルハ自分ノ地位ヲ危クスル結果トナル懼アリ就テハ何等カ南京政府ニ対シテ日本側ヨリ諒解ヲ求メ呉レ間敷キヤト問ヘリ依テ本官ハ南京政府云々ノ如キハ問題ニアラス部下ノ反對ノ如キモ本鉄道契約カ支那ニ如何ニ有利ナルカヲ知ラシメハ直ニ之ヲ緩スヘキヲ得ヘキニ依リ契約ヲ公開スルコトヲ考量シテハ如何ト問ヘルニ

⁽³⁾ 學良ハ契約公開モ一方法ナルモ更ニ何等カノ好手段ナキヤト問ヘルヲ以テ本官ハ契約ヲ直ニ実行スル以外ニ好手段ナシ元来本契約ニ依レハ満鉄ハ調印後速ニ測量ヲ為ス義務アルモ円満進行ヲ望ム精神ヨリシテ先ツ貴總司令ノ了解ヲ求メ来リシ次第ナリ而モ今ヤ契約期間漸次切迫シツツアリ從テ満鉄トシテハ近ク測量ヲ開始セサルヘカヲサル次第ナルカ右測量ヲ開始セハ貴總司令ハ之ニ対シ如何ナル態度ヲ採ラルルヤト反問セルニ満鉄カ測量ヲ開始セハ地方民ノ反對起ルノ虞アリト言ヘルニ付本官ハ右測量ハ契約ニ從テ為ス

モノニ付地方民ノ反對アル時ハ總司令ニテ之ヲ鎮圧シ測量隊ヲ保護スルノ義務アルヲ以テ其ノ決心アリタシト述ヘタルニ學良ハ夫ニ對シ曖昧ナル返事ヲ用ヒ自分ハ其ノ点ヲ心配シ居ル者ニテ近ク張作相来訪ノ節商議セムトシツツアリト述ヘタリ依テ本官ハ鉄道契約ノ期限切迫シ居リ執レノ途測量ヲ開始セサルヘカヲサルヲ以テ其ノ保護方ヲ考究セラレ方針決定セハ直ニ齋藤理事ニ伝フル様セラレタシ躊躇シテ決セサルニ於テハ遂ニ貴總司令ニ於テ我ト協調スルノ意思ナシト断スルノ外ナク帰朝ノ上田中首相ニ對スル報告モ此ノ趣旨ヲ以テ為スヘシト語リテ引取レリ

吉林へ暗送セリ

39 昭和4年3月22日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

中国側の意向に拘らず満鉄による吉会線測量
開始方意見具申

奉天 発

本省 3月22日前着

第二四〇号

吉林へ暗送セリ

40 昭和4年3月24日

奉天機関より
南参謀次長宛(電報)

張學良の測量開始要請に対する張作相の対応
について

奉天 3月24日後発

参謀本部 3月24日後着

奉電第八三号(極秘)

張作相ノ許ニ測量隊派遣ニ関スル學良ノ書簡ヲ携行セル洪維國ノ言ナリトテ聞ク処ニ依レハ其内容ハ日本側ニ取リテ本問題ハ切迫シアルコト及一般ノ情況上測量隊派遣ノ必要ヲ説キ吉教局長ニ命令セラレ度旨ヲ述ヘタルモノナリシカ作相ハ之ニ對シ口答ニテ省内ニモ若干ノ反對者アリ又未タ南京政府トノ十分ナル諒解モ無キニ非スヤ強テ之ヲ実行セントセハ支那側ヨリ測量隊ヲ出シ民間ノ反響ヲ窺フ位ニ止メテハ如何トノ返事ナリシト

41 昭和4年3月(29)日

在奉天森島(守人)総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

濟南事件解決後の鐵道問題に対する張學良の
対応につき変化なしとの林総領事宛報告

奉天 発
本省 3月29日後着

第二五五号(極秘)

林総領事へ

濟南事件解決ヲ機トシ鐵道交渉ニ対スル張學良ノ態度ニ變化ナキヤ注視中ノ処諸方面ノ情報ヲ綜合スルニ今日迄ノ如何等變化アルヲ認メ得ス往電第二四〇号御稟請ノ通測量ノ強行以外鐵道問題解決ノ途ナシト認メラルルニ付御指示ニ基キ折角当館滿鉄並關東軍側トノ間ニ具体案打合中ノ処滿鉄側ニテハ契約期限並技術上ノ都合上遅クモ四月十日前後ニハ測量ニ着手スルヲ要シ且之カ為ニハ人員ノ編制材料ノ取纏等相当ノ準備期ヲ要スル趣ニテ政府ノ御方針成ルヘク早日ニ承知シタキ旨齋藤理事ヨリ申越アリタルニ付今日迄御詮議ノ模様等御内報ヲ得ハ幸甚ナリ

42 昭和4年3月30日

在奉天森島総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

齋藤理事との会談の際における鐵道問題解決
交渉経緯に関する張學良の発言について

付記 四月二日付在滿鉄奉天公所鎌田(彌助)より

山本滿鉄社長宛

張學良談話要領

奉天 3月30日前発
本省 3月30日前着

第二五六号(至急、極秘)

往電第二五五号林総領事宛拙電ニ関シ

一、張學良ハ数日以来齋藤理事トノ会談ヲ回避シ居タルカ如ク同理事ハ濟南事件解決ニ関スル非公式情報ノ当地接到以来本二十九日始メテ同人ニ会談シ得タル次第ナルカ同理事カ(一)鐵道契約実行ニ関スル學良ノ責任(二)測量強行ニ関スル林総領事ト學良ノ会談(三)契約所定ノ期限並(四)松岡副社長ニ対スル學良ノ誓約ニ関シ同人ヲ詰問セルニ対シ學良ハ夫々左ノ通明言セル趣ナリ

(一)東三省ニ於テハ張作相ハ固ヨリ自分ニ於テモ本件契約

実行ノ責任ヲ執ルヲ得ス從テ如何ニ自分ニ交渉ヲ重ネラルルモ所詮問題ノ解決ハ不可能ニシテ元來本件契約ハ當時ノ中央政府タル北京政府カ締結シタルモノナルヲ以テ今日ニ於テハ現在ノ中央政府タル南京政府ニ交渉セラレタク南京政府ヘ交渉セラルルモ恐ラク成功ノ見込ナカルヘシ

(二)⁽²⁾林総領事ヨリ測量強行ニ付話合アリタルモ濟南問題解決ニ関シ偏ニ日支親善ニ留意セル日本トシテハ強行測量ノ如キハ実行シ得ヘキ立場ニアラサルヘク測量ノ強行ハ日本ニ執リ不利益ヲ齎ス事コソアレ何等ノ利益ナシト信ス測量強行ノ結果排日運動發生ニ至ルモ自分トシテハ手ノ下シ様ナキニ付右ニ承知アリタシ

(三)五月十五日ノ契約上ノ期限迄ニハ本件解決ハ絶対ニ望ナシ

(四)松岡副社長ニ対シテハ張作相ニ命令ヲ出シテ契約ヲ実行スヘキ旨約束等為シタル事ナシ

尚齋藤理事ハ學良カ張弧並ニ土肥原ニ対シ鐵道交渉問題ノ難關ハ濟南事件ノ未解決ニ存スル旨述ヘタル事アルヲ指摘シ學良ノ態度ヲ難詰シタルニ対シ學良ハ濟南

問題ト鐵道問題トハ全然別個ノ問題ナル旨ヲ明言シタルノミナラス齋藤理事カ難去^{難カ}ニ際シ今日会见ノ主点ハ前記(一)乃至(三)ノ三点ニ存スルト思考スル処

⁽³⁾右ニテ相違ナキヤト確メ且右ノ次第東京ヘ報告シ然ルヘキヤト念ヲ押シタルニ対シテモ學良ハ全然之ヲ肯定シ事實ナル以上致シ方ナキ旨回答セル趣ナリ

二、張學良ハ御通知ノ通鐵道交渉促進方ニ関シ從前數回本邦側關係者ニ対シ濟南事件ノ解決ヲ云々シタル事アルモ右ハ林総領事ヨリ屢次電報ノ通日本側ヲ引摺ルノ口実タリシニ過サリシ事明カニシテ學良ニ本件契約実行ノ誠意ナキ事前記齋藤理事トノ会談ニ鑑ミ今ヤ一点ノ疑ヲ容ルルノ餘地ナシト信ス契約期限切迫セル今日ニ及ヒテハ本件鐵道問題解決ノ為ニハ測量並ニ工事ノ強行以外其ノ方途ナキ事林総領事稟請ノ通ニシテ当館ニ於テハ目下關係各機關ト実行上ノ諸点ニ付切角打合せ中ニシテ近ク具体案取纏メ稟請ニ及フ所存ナルモ契約期限ノ關係並ニ往電第二五五号所報ノ次第モ之アルニ付此ノ際政府ニ於テ一日モ速ニ測量強行ニ御方針決定アラム事切望ニ堪ヘス

在上海芳澤公使及北平ニ転電シ吉林ニ暗送セリ

奉天 4月2日

二十九日(三月)午後四時齋藤理事ト共ニ張總司令ヲ訪問セリ總司令ノ談話要領左ノ如シ

松岡副社長ノ書面ヲ拝見シタカ副社長ハ過日会見シタ時ノ話ヲ多少誤解シテ居ラルル様ニ考ヘラレル、予ハ命令ハ発スルカ張作相ハ承知スマイ又其レニ就テ予ハ責任ヲ負ハナイト云フタノテ決シテ張作相ニ対シ是非測量ヲヤラナケレハイケナイト云フ命令ヲ発スル約束ヲシタノテハナイ副社長カ其意味ヲ取違ヘテ居ラレハシナイカ本問題ニ就テハ洪維國ヲ二回モ吉林ニ派遣シテ居ル作相ハ本問題ノ為ニ非常ニ不快ナ感シヲ拘イテ居ルト云フコトテアル、予ハ初メカラ故意ニ解決ヲ邪魔シ又破壊スル意志ハ毫モナイ何トカシテ解決セント百方法ヲ講シテ居ルカトウシテモ名案カナイノテアル誰カ聡明ナ人デモ出テ適當ナ弁法ヲ案出シテ呉ルレハヨイ、有体ニ云フカ本問題ハ初メカラ保安会テモ聯合商議會テモ又張作相テモ責任ヲトルモノカナイノテアル、仮リニ予カ今此処テ全責任ヲ負フテ解決スルトシテ翌日ハ直チニ四方八方カラ包

ハ測量着手ノ前ニ人民ニ対シ「吉会線問題ヲ解決スル時ハ他ノ鐵道ノ契約ヲモ改訂シ得第一利息ヲ輕減シ其他色々利益カアルカラ得策タ現在ノ儘テハ収入ハ少ナク利息ハ年々増加シ遂ニハ破綻ノ外ナイノテアル」ト言ツタ様ナ塩梅式ニ宣伝モシ又説得モスレハ人民ノ反対ハ容易ニ緩和シ得ルト思フカ然シ之モ断定ハ出来ナイ松岡副社長ノ意見テハ本鐵道ノ工事開始ト同時ニ他鐵道ノ契約改訂ノ交渉ニ応スルト云フコトテアツタ予ハ副社長ノ言葉ハ信用ハスルカ人民ヲ説得シテ後ニ仕事ニ着手スト云フ当方ノ希望トハ大ナル隔リカアルカラ餘リ云フコトヲ避ケタノテアル予ノ意見トシテハ先ツ第一着ニ支那側タケテ測量ヲシテ問題カナイ時ニ更ニ第二段ノ方法ニ移ルト云フ行キ方カ妥当ト思フカ其レニシテモ人民ハ吃度反対スルニ違ヒナイ況ンヤ總領事カ言ハレタ様ニ日本側ノミテ測量ヲ強行スル様ナコトハ一層人民ノ反感ヲ激成シ或ハ意外ノ変事ヲ醸サントモ限ラナイ其場合予トシテ如何ナル処置ヲ取ルカ其辺モ未タ考モ付カナイ訳テアル又日本政府トシテモ折角急イテ濟南事件ヲ解決シ置キナカラ本問題ノ為ニ再ヒ排日ノ種子ヲ播キ濟南事件ノ解決ヲ無

毘攻撃ヲ受ケテ現位置ヲ犠牲ニセナケレハナラヌコトハ明瞭テアル、過日政務委員會テモ本問題ニ関シ衆議ニ諮ツタカ誰モ予カ責任ヲトルコトニ賛成スルモノハナイ寧ロ阻止シタクライテアル最初契約ニ簽字スル時ニ常陸槐カ忌避シテ趙鎮ヲシテ調印ヲ代行セシメタコトカラ推シテモ明カニ責任迴避テアル之ヲ見テモ此様ナ問題ニ何人モ責任ヲ負フコトハ喜ハナイ何ヨリノ証拠タ結局本問題ハ南京政府カ責任ヲトル以外ニ方法ハナイノテアル其為ニ目下虛景貴及吉林鍾交渉員ヲ南京ニ派遣シテ居ルカ政府ガ一向受付ケテ呉レナイハカリテナク二人ノ者ヲ相手ニモシナイカラ困ツテ居ル元來本問題ハ北京テヤツタコトテ予ノ預ラナイ所テアル其レヲ予ニ逼ラルルコトハ少シク無理タ一番良イ方法ハ南京政府カ当方ヘ命令ヲ発シテ呉レルコトタ支那側トシテハ餘リ有利ナ条件テモナイ様タカ長イ間ノ懸案テアツタ濟南案モ兎モ角片付イタカラ此機會ニ南京政府ニ向テ日本カラ口添ヲシテ貰イタイノテアル、左モナクハ此際本契約ヲ全部公開スルコトアルソレト今一ツハ何カ有利ナ条件ヲ附スルコトテアルカ其方ハ先日松岡副社長ノ話テ困難ノ様タ畢竟当方ノ希望

意味ニ終ラシメル様ナコトハ恐ラクヤルマイト信スル二、三日中ニ張作相モ出奉スルテアラウ又契約期限ノ五月十五日迄ニ本問題ヲ解決スルコトハ目下ノトコロ見込ハ立タナイ云々(了)

43

昭和4年4月1日

在奉天森島總領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

濟南事件解決における日本側讓歩が東三省官

憲に与えた影響について

奉天 4月1日後発

本省 4月1日後着

第二五九号(極秘)

往電第二五六号ニ関シ

濟南事件ノ解決ニ付テハ同電所報學良ノ齋藤理事ニ対スル所言ニ依リテモ明カナル如ク当地支那側官辺ニ於テハ一般ニ同事件解決ノ為ニ多大ノ讓歩ヲシタル日本ハ東三省ニ事ヲ釀シ以テ同事件ノ解決ニ依リ漸ク軌道ニ復セントスル日支關係ヲ逆転セシムルコト無カルヘシト多寡ヲ括リ居ルカ如ク交渉雜件ニ対スル支那側態度ノ硬化セルコト最近特ニ

顯著ナルモノアリ現ニ王交渉員ハ往電第二四九号復州粘土問題交渉ノ為往訪セル清野ニ対シ軍隊ヲ派遣スルトモ警官ヲ派遣スルトモ勝手ニセラレタシト多寡ヲ括リタル口吻ヲ洩ラセル趣ナリ尚王家楨ハ三十日電通早川ニ対シ鉄道問題ノ交渉ハ南京政府ニ一任スルコトニ決定シ居ル処芳澤公使ハ右ノ点ニ付王正廷ニ対シ色良キ返事ヲセラレタル旨南京側ヨリ學良ニ電報アリタリト内話セル趣ナルカ右ハ南京閣下宛電報第三一六号王ニ対スル同公使ノ所見ヲ指スニアラスヤト思考セラル(早川ノ点極秘ニ願度シ)

(上海ヨリ南京へ転電アリタシ)

44 昭和4年4月(2)日 在奉天森島総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

中国側の対土地商租政策は日本側の許容範囲
のものとの熙洽参謀長談について

奉天 本省 4月2日後着

第二六一号

張作相去ル三十一日来奉シタル処表面鉄道問題ノ為ト称シ

第四二一号(至急、極秘)
芳澤公使ヨリ

上海 4月3日後発
本省 4月3日後着

奉天閣下宛電報第二五六号ニ関シ

満洲鉄道問題解決ノ為測量及工事施行ノ方途ニ出ツル事ハ申ス迄モ無ク其ノ各方面ニ及ホス影響真ニ甚大ナルモノアルヘク殊ニ帝國政府ノ満洲ニ於ケル将来ノ地位ハ勿論日支国交ノ全局並ニ國際關係全般ニ及ホス影響ハ特ニ重大ナルヘキヲ以テ左ニ卑見開陳スルニ依リ篤ト御考慮ヲ煩ハシタシ

一、本件交渉ニ対スル張學良ノ態度ハ終始一時逃レノ応酬ヲ事トシ何等誠意ノ認ムヘキモノナキハ勿論ナルモ一面彼力時々吐露セル述懐ナルモノヲ伝聞スルニ客年張作霖横死事件以来日本側ニ対シテ深ク疑惑ヲ懷キ其ノ後此ノ事件カ日本ノ議會及新聞紙上等ニ於テ公然論議セラレタルニ拘ラス今尚事ノ真相明カニセラレサル為彼ノ疑惑乃至怨恨ハ益々深メラレタルヤニ察セラルル折柄頻リニ日本側ヨリ鉄道問題解決ヲ強要セラルルカ為彼ハ益々反抗

居ルモ實際ハ対南態度決定ノ為近ク当地ニ開催ノ軍事會議ニ出席ノ為ナルカ如ク側近者ノ観測ニ依レハ鉄道問題ニ関シテハ最近ノ経緯ニ鑑ミ内心安心シ居ル趣ナリ

尚熙参謀長ハ林中佐カ最近熾烈ヲ極メ居ル吉林省内ニ於ケル日鮮人驅逐ノ不利ナルヲ説示セルニ対シ支那側ニ於テハ単ニ家主又ハ地主タル支那人ヲ压迫シ間接ニ日鮮人驅逐ニ当リ居ルニ止マリ直接日鮮人ニ手ヲ触ルルヲ差控ヘ居ル為何等問題ヲ惹起スルコトナカルヘク右ノ程度ナラハ日本トシテモ致方ナカルヘシト語レル趣ニテ同地方ノ雰囲気モ亦往電第二五九号所報ノ事態ト異ルナキヤニ思考セラル

上海ヨリ南京へ転電アリタシ

往電第二五九号吉林へ暗送セリ

北平、上海へ転電シ吉林へ暗送セリ

45 昭和4年4月3日 在上海重光(葵)総領事より
田中外務大臣宛(電報)

鉄道問題に関する林総領事の強行策は日中関
係の一層の悪化をもたらすものとの芳澤公使
意見具申

的態度ニ出テ来レル事察知スルニ難カラス右ハ独リ學良一人ノ間ニ止ラス恐ラク満洲方面要人連ノ心底ニ横ハル処ナルヘシ

云フ迄モナク鉄道建設ノ如キ問題ニ付交渉ヲ為ス場合ニハ相手方ノ感情ヲ良好親善ナラシメテコソ始メテ其ノ目的ヲ達シ得ヘキ筈ナルニ拘ラス先ツ以テ感情ノ融和ヲ計ルコトナク単刀直入強行手段ニ移ルカ如キハ決シテ目的ヲ達成スル所以ニ非サルヘク殊ニ本件ノ如キ他国々有鉄道ノ請負契約ナル場合ニアリテハ仮令幸ニシテ左シタル故障ナク測量及工事ヲ一応完了シ得ルトスルモ

之カ為対日感情ヲ甚シク悪化セシメ将来鉄道ノ運行果シテ可能ナルヘキヤモ頗ル疑問ト云ハサルヘカラス加之事態ノ如何ニ依リテハ其ノ波及スル処独リ鉄道ノ問題ニ止ラス東三省ニ於ケル日支人間ノ經濟關係並ニ重大ナル我權益ニモ累スル事トナリ他ノ諸懸案ノ解決ヲ困難ナラシムヘキハ勿論延テハ旅大及満鉄回収問題等ヲモ誘発スルニ至ルヘキヲ恐ル

二、次ニ之ヲ日支關係全局ヨリ見ルモ今ヤ濟南事件ノ解決ニ依リ国交漸ク常道ニ復サントシ今後他ノ諸懸案解決ノ

望モ加ハルト共ニ両国民間ノ感情追々友好氣運ニ向ヒ又
排日排貨運動モ速ニ終熄セシムルノ必要アル折柄滿洲ニ
於ケル我高圧手段ハ忽チ事態ヲ逆転セシムヘク殊ニ反日
排貨運動ハ久シキニ亘ル実行ニ依リ殆ト全国的ニシテ且
組織的トナリ之ニ依リテ私利ヲ營ミツアルモノ鮮カラ
サル実情ニ想到スル時ハ事態ノ逆転乃至一層ノ悪化ハ容
易ニ之ヲ想到シ得ヘシ斯テハ濟南事件ノ解決ノ如キモ結
局無意味ニ終ルモノト云ハサルヘカラス
將又国民政府トノ關係ニ付テ考フルモ第三次代表大会モ
兎モ角終了シテ同政府ノ地位ハ差向キ動搖ノ模様無ク現
下ノ武漢方面トノ抗争モ大勢上中央ニ有利ニ打開シツツ
アルカ如ク觀測セラルルカ故ニ少クトモ今後当分ハ帝國
政府トシテモ国民政府ヲ對手トシテ各般ノ交渉折衝ヲ為
スノ必要アルニ拘ラス此ノ際若シ不幸ニシテ日支關係再
ヒ惡化スル事トモナラハ
日本ハ既往ニ於ケルカ如ク国民政府ニ對スル關係ニ於テ
獨リ孤立ノ立場ニ陥リ既ニ同政府ヲ正式承認セル列強ヨ
リ事毎ニ我カ對支政府乃至施設ノ掣肘又ハ妨害ヲ受クル
ノ実情ヲ続クル事トナリ之カ為帝國ニ於テ国民政府及支

那民衆ヲ指導シ治安ノ維持ト經濟的開發ヲ助長スヘキ我
カ根本政策ニ背弛スルノ結果ヲ招クニ至ルヘキヲ恐ル
三、更ニ又國際關係全般ヨリ云フモ日本カ滿洲ニ於テ多數
ノ在留民ト特殊重大ナル權益トヲ有スルコトハ今日列國
ノ認ムル処ニシテ從テ日本ノ同方面ニ對スル方策カ時々
強硬ニ亘ル事アルモ列國ハ少クトモ之ヲ看過シ來レル事
亦事實ト云ヒ得ヘキモ他國ノ領土内ニ於テ其ノ國ノ意ニ
反シ實力ヲ以テ鐵道ノ請負工事ヲ遂行スルカ如キハ戰時
ハ兎モ角トシテ平時ニ際シ列國ヲシテ良ク納得セシメ得
ヘシトハ考ヘラレス寧ロ列國ノ我ニ對スル疑惑ハ轉シテ
支那ニ對スル同情トナリ為ニ世界ノ輿論ヲ刺戟シ國際關
係ニ於ケル帝國ノ公正ナル態度ニ甚大ナル累ヲ及ホスヘ
キハ想像ニ難カラス斯ル重大ナル犠牲ハ果シテ滿洲ニ於
ケル一、二鐵道ノ建設ヲ以テ償ヒ得ヘキヤ頗ル疑問ト云
ハサルヘカラス
四、之ヲ要スルニ滿洲鐵道ノ工事強行ハ今日其ノ時機ニ非
サルモノト云フヘク寧ロ日支國交ノ一層好転スルヲ待チ
適當ナル方法ニ依リ目的達成ヲ計ルコト最モ得策ナルヘ
キヲ信ス

北京、南京、奉天へ転電セリ

46 昭和4年4月4日

在奉天森島總領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

懸案鐵道の強行建設の必要につき意見具申

別電

四月四日發在奉天森島總領事代理より田中外
務大臣宛第二六九号

懸案鐵道強行建設案

奉天 4月4日後發

本省 4月4日後着

第二六八号(極秘)

往電第二五六号ニ関シ

滿鐵並ニ軍部側トモ協議ノ上大要別電第二六九号ノ通懸案
鐵道建設強行案(同案本四日郵送済)立案シタル処元來本
件鐵道契約ハ往年支那側ニ於テ打通、奉海兩線ノ敷設ニ依
リ我カ条約上ノ權利ヲ毀損シタル際之カ代償ノ意味合ヲ以
テ締結セラレタルモノナルノミナス往年数次ノ条約上ヨ
リ云フモ將又建設請負契約ノ明文上ヨリ云フモ我方ニ於テ
当然支那側ニ對シ契約ノ実行ヲ要求シ得ル次第ニシテ日本

側トシテハ良好親善ナル關係裡ニ本件解決ヲ計ルカ為今日
迄百方手ヲ尽シ來レル実情ナルモ東三省ノ現状ヨリ觀測ス
ルニ急速ニ相手方ノ感情ヲ良好親善ナラシムルカ如キハ不
可能事ニ屬スト云フヘク加之ニ南北妥協後國權回收熱漸ク
擡頭ノ氣運ニアル東三省ニ於テ此ノ際理義明白ナル我方ノ
權利ヲ漫然放棄スルカ如キハ徒ニ國權回收ノ氣勢ヲ助長ス
ル所以ニシテ我方ニ對スル輕侮ノ念ヨリ他ノ諸懸案ノ解決
ヲ困難ナラシムルハ勿論延テ旅大回收滿鐵回收論ヲ誘致ス
ルニ至ルヘキ事東支鐵道ニ對スル支那側最近ノ遣口ニ照シ
略疑ヲ容レス
將來ニ於ケル我方ノ權益擁護並ニ滿蒙發展上ニ一大禍根ヲ
貽スモノト思考セラルルノミナス承認ノ有無ハ暫ク別問
題トシ一旦中央政府タル北京政府ト締結セル契約ヲ全然放
棄シ同一問題ニ付更ニ南京政府ト協議ヲ重ネルカ如キハ南
京政府トノ今後ノ折衝ニ惡例ヲ貽スモノト云ハサルヲ得ス
尚建設強行ヲ斷行スルトセハ固ヨリ兵力ノ現実使用ヲ要ス
ル最惡ノ場合ヲ想像セサルヘカラサルモ安東、牛莊等ニ於
ケル不當課税阻止ノ經過ニ鑑ミルニ我方ニ於テ斷乎タル決
意ヲ示ストキハ或ハ容易ク支那側ノ屈從ヲ得ヘキヤニモ思

考セラル

尤モ南方トノ関係漸ク軌道ニ復帰セムトスル今日ニ於テハ本件鉄道問題ノ交渉ニ付テモ南方政府ヲ相手ニ話合ヲ進ムルコト一応ノ理由ナキニアラサルヘキモ右ハ五月十五日迄ニ起工ニ着手スルニアラサレハ契約自体失効ニ至ル点ニ鑑ミ事実上本件契約ヲ放棄スルニ等シク全然新ナル基礎ノ下ニ新ニ交渉ヲ開始スルノ結果ニ立至ルヘシ若シ幸ヒ南京政府トノ間ニ何等妥結ニ到達シ得タリトスルモ右ニ付更ニ東三省側ノ了解ヲ得ルノ至難ナルコトハ既往ニ於ケル本件鉄道交渉ノ経過ニ鑑ミ容易ニ想像シ得ル処ニシテ結局南方政府ト東三省トノ間ニ相互ニ責任ヲ転嫁シツアル間ニ支那側自身ノ手ニ依リテ鉄道敷設ノ運ニ至ルナキヲ虞ル尤右ニ付テハ折角御詮議中ノコトト拝察スル処契約ノ規定通五月十五日迄ニ一部ノ起工ヲ開始スルカ為ニハ遅クトモ長大線ニ付テハ四月二十日迄ニ又吉敦延長線ニ付テハ老図及敦老兩線ノ各一部起工ノ關係上四月十五日迄ニ測量開始ノ命令ヲ出スコト必要ナル趣ニ付至急御詮議相仰度満鉄穂積參事別電具体案説明ノ為五日当地発東上ノ筈ナリ別電ト共ニ在上海芳澤公使、北平ニ転電ス

上海ヨリ南京ヘ転電アリタシ

(別電)

奉天 4月4日後発
本省 4月5日前着

第二六九号(極秘)

一、強行建設ハ契約並警備等ノ關係ヲ考慮シ懸案五鉄道中長大、吉敦延長(老図、敦老兩線)及延海ノ三線ニ限定ス前二者ハ契約ノ關係上ニ依リ又延海ハ吉敦延長ト併セテ警備シ得ルノ便アルニ依ル

二、長大、吉敦延長ノ兩線ハ契約上五月十五日迄ニ起工ヲ要スル關係上建設工事ヲ二期ニ分チ

第一期ニ於テハ(長大線ニ於テハ大体四月二十日ヨリ二十日間吉敦延長ニ於テハ大体四月十五日ヨリ三十日間)工事方法ノ変則ナルト否トヲ問ハス長大、吉敦兩線一部ノ測量並工事ヲ強行シ以テ契約上ノ起工義務ヲ履行シタル上

第二期(測量期間四個月工事期間一個年半)工事ニ移リ全線ノ測量並工事ヲ完了ス但シ延海線契約ハ交通部ノ承

認ヲ得ス單ニ張作霖ノ承認ニ係ルモノタルノミナラス前

二線ト異リ契約起工期限ノ定メナキヲ以テ第一期中ニ一部ノ測量ヲ為スニ留メ第二期(二年半)ニ至リ全線ノ測量並工事ヲ為ス尚第一期工事ハ地坊方面ニ於テハ老図、敦老、延海ノ順序ニ依ル

三、警備及保護ハ先ツ警官ヲ以テシ已ムヲ得サル場合軍隊ノ力ニ依ルコトトシ之カ為豫メ所要ノ兵力ヲ長春及上三峯ニ準備ス

保護警官(測量並工事保護ニ当タルモノ)警備警官(応急ノ場合ニ出動スル為必要地点ニ準備シ置クモノ)所要数及使用期間左ノ如シ

第一期工事期間

(一)吉敦延長線(a)保護警官老図、敦老各七十名計一四〇(b)警備警官百(老図線工事中ハ上三峯ニ駐在セシメ老図線ノ一部起工ヲ終ヘ敦老線ノ測量ニ移ル際老頭溝、龍井村ノ二ヶ所ニ各五〇宛配置ス)(a)(b)トモ所要期間四十日

(二)延海線(a)保護警官五〇(b)警備警官五〇(局子街ニ駐在)(a)(b)トモ所要期間四十日

(三)長大線(a)保護警官七〇(b)警備警官九〇(長春駐在)第二期工事期間

(一)測量期間(八十日)(イ)地坊方面(吉敦、延海兩線)(a)保護警官二五〇(老図三組、敦老延海各一組計五組ノ測量隊ヲ編成シ各組ニ五〇名宛配置ス)(b)警備警官一六〇(地坊三〇、延吉五〇龍井村三〇老頭溝五〇)

(ロ)長大線(a)保護警官一五〇(測量隊三組前項同様)(b)警備警官五〇(長春駐在)

(二)工事期間

(一)保護並ニ警備警官ヲ合シ一工区ニ二十名ヲ配置ス

(イ)吉敦、二四〇(老図、敦老各六工区分期間一年半)

(ロ)延海、一〇〇(五工区分、期間一年半)

(ハ)長大、一八〇(九工区分、期間一年半)

之ヲ要スルニ警官ハ第一期工事期間タル三十乃至四十日間ニ於テハ地坊方面ニ三四〇名長春方面ニ一六〇名ヲ要ス第二期工事期間ニ於テハ測量期間タル最初ノ八十日間ハ地坊方面ニ四一〇名長春方面ニ二〇〇名ヲ要シ又工事開始後ニ於テハ地坊方面ニテハ最初ノ一年半ニ三四〇名其ノ後ノ一年間ニ一〇〇名ヲ要シ長春方面

八一八〇名ヲ一年半必要トス

四、労働者数ハ老図線敦老線五千延海線一万長大線八千ノ
豫定ニシテ支那人使役困難ノ場合ニハ鮮人ヲ使用スル事
必要ナルヘキニ付朝鮮總督府側ニモ時宜ニ応シ打合セヲ
要ス

五、敦老、老図、延海各線ノ建設強行ノ為警備聯絡ノ必要
上天図線ヲ我方ニテ管理スルヲ要ス(以上)

尚右鉄道建設強行ト前後シ林總領事進言ノ通商租權ノ経営
開始ニ決定セハ上述以上ニ多数ノ警官及軍隊ヲ要スヘク支
那側ニ威圧ヲ加フルノ意味ニ於テ奉天ニ兵力ヲ集中シ又ハ
交代兵ノ帰還期ヲ延期スル事モ考慮ニ値スヘシ

47 昭和4年4月6日 田中外務大臣より
在奉天森島總領事代理宛(電報)

林總領事帰国中に現地での立入った交渉を避
けるようにとの林總領事よりの依頼

本省 4月6日後発

第五九号(極秘)
林總領事ヨリ

之ヲ決定サセルヘカラス右奉天発閣下宛第二六九号ノ鉄道
建設強行案ノ如キハ決シテ此ノ際採納実行セラルヘキ方策
ニ非スト信ス事頗ル重大ナルカ故ニ重ネテ申進ス
在支公使、南京ヘ転電セリ

49 昭和4年4月(6)日 全滿洲日本人大会本部より
吉田(茂)外務次官宛(電報)

滿蒙懸案の實力解決方に関し請願

(編注) 本省 4月6日 着

(電報番号欠)
第 号

張作霖死後茲ニ十箇月若シ我ニ於テ確固タル方針ト決意ト
ヲ有シタランニハ滿蒙問題ノ積極策遂行上幾多ノ機会ヲ有
シタルニカカハラス東省ノ政權首腦者ニ対スル觀測ト対策
トヲ誤リタル為メ終ニ何等ノ得ル処ナカリシハ我当路ノ重
大ナル失政ト云ハサルヘカラス特ニ鐵道問題ノ継続交渉ニ
於テ其相手方タル張學良ヨリ最近アラユル侮辱ノ態度ト言
辭トヲ以テ全然拒絶セラレ今ヤ帝國ノ国威ヲ失墜シ權益ヲ
喪失スベキ重大ナル局ニ陥リタルハ在滿邦人ノ挙ヲ悲憤痛
恨ニタエサル処ニシテ之レニ吾人カ最近二三年來絶叫シ

大臣宛貴電第二五六号等ニ関シ本官上京後上司其他ト折角
(折衝力) 交渉中ノトコロ種々ノ事情ノ為メ多少詮議ニ暇取ルヘキヲ
以テ此際貴官ニ於テ各方面トアマリ立入りタル接洽ヲナス
ヲ避ケ外部ニ対シテハ絶対ニ秘密ヲ保チ居留民有志ヲ興奮
セシムルカ如キコトナキ様御注意アリタシ

48 昭和4年4月6日 在上海重光總領事より
田中外務大臣宛(電報)

鐵道建設強行案に反対する芳澤公使の意見具申

上海 4月6日後発
本省 4月6日後着

第四四六号(至急、極秘)

奉天発閣下宛電報第二六八号及第二六九号ニ関シ
芳澤公使ヨリ

本問題ニ関スル卑見ハ往電第四二一号ヲ以テ詳細稟申シタ
ルニ付篤ト御考慮ヲ迎ヘ居ルコトト存スル処申ス迄モナク
滿洲ニ於ケル我經濟的發展ハ極メテ望マシク所有機会ヲ捉
ヘ之カ進捗ヲ計ルヘキコト勿論ナルモ其ノ方法及程度ニ至
リテハ其ノ時ニ於ケル我對支關係并ニ政策ノ全般ヨリ見テ

来レル實力ヲ以テスル權益擁護ノ準備ト決断トヲ缺キタル
当然ノ帰結ニ外ナラス政府ハ宜シク從來ノ失敗ニ鑑ミ所謂
對滿積極策ノ遂行ハ直ニ南支貿易ノ消長ニ再ヒ影響スルノ
懼アリトスルカ如キ俗論ヲ退ケ滿蒙ニ於ケル既得權益ノ懸
案タル鐵道土地各箇ノ具体問題ヲ引提ケ断固トシテ實力解
決ノ一途ニ出ラレムコトヲ望ム、

編注 発信地・日時不明

50 昭和4年4月7日 在奉天森島總領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

鐵道問題との関連で十間房陸軍用地問題への
対処法について林總領事宛請訓

第二七四号(極秘)

林總領事ヘ

奉天 4月7日後発
本省 4月7日後着

大臣宛本官宛電報第五九号ニ関シ
居留民側ニ於テハ東方會議以來ノ政府ノ方針殊ニ直接利害

關係ヲ有スル関稅問題ニ對スル政府ノ態度等ニ鑑ミ大体ニ於テ政府ノ御方針ニ信賴ト期待トヲ有スルガ如ク未タ何等動搖ノ模様ヲスラ見ス本官トシテ閣下御帰任ノ遅延ニハ種々ノ事情アルコトト推察シ滿鉄並ニ軍部ト往電第二六九号鐵道建設強行案ヲ協議シタル以外一切立入りタル折衝ヲ避ケ將來当館ノ立場ヲ羈束スルコトナキ様留意シ居ル次第ナリ從テ十間房陸軍用地問題ニ就キテモ滿鉄ヨリ送付ノ金円ヲ此ノ際李聘三ニ交付スル時ハ當館トシテハ從前ノ経緯ニ鑑ミ滿鉄ノ工事強行ヲ承認セサルヲ得サル破目ニ立至ルノ虞アルヲ以テ李ニ對シ金円ヲ交付スルト否トハ大局上ニ於ケル政府ノ方針決定ニ待ツヲ得策ト認メ本件解決ヲ一日延シトシ居ル処李ヨリハ本月十日迄ニ解決不可能ナラハ問題ヲ打切り止メ度旨申越ノ次第モアルニ付何分ノ儀御指示ヲ得度

51 昭和4年4月7日

齋藤滿鉄理事より
松岡(洋右) 滿鉄副社長宛(電報)

大倉組からの情報により強行姿勢での鐵道問題解決策が頓挫している状況について

態度ヲ以テ応酬シ滿鉄側ハ寧ロ之レカ執来シニ苦心シ居ル体ニテ應對スルヲ得策ト思考ス

編注 発受地不明。

52 昭和4年4月8日

田中外務大臣より
在奉天森島總領事代理宛(電報)

十間房陸軍用地問題は予定通りの解決を図る旨の林總領事通達

本省 4月8日後3時発

第六〇号

林總領事ヨリ

貴電第二七四号末段ニ関シ

十間房陸軍用地ノ件ハ豫定通り解決方取計ハレ度シ

53 昭和4年4月8日

在局子街田中副領事より
田中外務大臣宛

間島地方における非帰化朝鮮人による土地購入禁止を図る中国側の方策について

(電報番号欠)
第 号

(編注)
4月7日後発
4月8日前着

我方ハ日本政府ガ何時強行手段ヲ決行スルカ解ヌトノ態度ニテ先方ヲ釣リ作相ヲシテ學良ニ説カシムル方針ニテ張弧ハ別電小職ト打合セノ趣旨ニテ作相ニ談ジ込ミタル所作相ハ始メ大ニ憂慮シ居リタルガ昨日ヨリ作相ノ態度一変シ万事ハ學良ノ意ニ從フノ外無シトテ張弧ノ忠言ニ耳ヲカサザルニ至リ學良モ亦大倉組トノ關係ヲ利用セバ日本側ノ了解運動容易ナリトノ意味ヲ周ニ洩シタル由ナリ右ハ一日大倉組(河野)ガ學良ニ對シ日本政府ハ絶対強硬態度ニ出スルコト無シト先ケタル為メ學良モ作相モスツカリ安心シタルニ依ルコト明白トナレリ、當學良ハ大倉男ノ招待ヲ受ケ近日渡日ノ豫定ナリシ周大文ニ日本側ノ了解運動ヲ委嘱シタル由ナルガ張弧ハ政府ガ自分ノ努力ヲ差置キ大倉組ニ交渉ヲ依頼シタルモノト推シ甚數不快ヲ抱クモノノ如ク二筋ノ交渉ニ不平ヲ漏ラシ居ルニ付政府ニサル事アル可キ筈無シトテ充分弁明シ置キタルガ夫レハ兎モ角トシテ周大文出京ノ際ハ申上ル迄モナキ義ナルカ政府側ハ極メテ強硬ノ

公信第一〇三号

(4月16日接受)

昭和四年四月八日

在局子街

副領事 田中 作〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

朝鮮人ノ土地購入ニ對スル支那側對策ニ関スル件

最近間島各地朝鮮人ニシテ土地ヲ購入スルモノノ激増シカ名義書替ヲ当地県公署ニ願出タルモノ多數ニ上リツツアル趣ニテ知事ハ右ヲ以テ帰化者ノ名義ヲ藉リ居リ而モ其ノ背後ニハ日本人ノ援助アリ手先トナリ土地買収ニ着手シ居ルモノトシテ客月二十五日之カ對策ヲ交渉員ト協議ノ結果今後非帰化朝鮮人ノ出資ニ係ル帰化朝鮮人名義ノ土地買入ハ一切嚴禁シ執照書替願ハ受理セサルコトニ限定シ本法ハ近ク省政府ノ承認アリ次第實施ノ豫定ナリト本件ニ関シ當館署長ヨリモ同様報告アリ

此段報告ス

本信写送付先 間島、奉天、吉林各總領事

54 昭和4年4月8日

在局子街田中副領事より
田中外務大臣宛

間島地方における東亜勸業公司による土地買収進捗状況について

機密第一〇四号

(4月16日接受)

昭和四年四月八日

在局子街

副領事 田中 作〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

東亜勸業会社ノ間島ニ於ケル土地入手ニ関スル件
在奉天東亜勸業株式会社ハ客年九月末ヨリ間島ニ於ケル土地入手ヲ計劃シ當時吉植専務取締役來間視察ノ結果社員数名ヲ派來シ爾來実地調査買入ニ著手中ナル処該計劃ハ比較的大規模ニシテ会社ハ表面何等関与セズ支那側ノ感知セサル極メテ目立タサル方法ヲ以テ總テ鮮人名義ヲ以テ入手シツツアルガ一方豫テ土地入手ノ背後ニ日本側資本ノ援助アルコトヲ感知シ居ル支那官憲ハ最近鮮人ノ土地買入名義書換出願者俄ニ激増シタルヨリ終ニ既報ノ通り一種ノ防止策ヲ実施セントシツツアリ旁々会社入手ノ土地中ニハ相當面

日本ノ態度如何ニ付不安ノ念ヲ抱キ居タル支那側ニ於テモ意ヲ安ンスルニ至レル趣土肥原ヨリ聞知セル処同公使ノ真意ハ恐ラク本邦側ニ於テハ鐵道問題ニ対シ公正ナル態度ヲ以テ終始スヘキコトヲ説明スルニアリタルコトト推察スルモ既ニ林總領事力張學良トノ最后ノ会見ニ於テ滿鉄側測量隊ノ派遣ニ言及セラレ居リ
(2)且現ニ張弧其ノ他ノ關係支那人カ日本側ノ強硬政策ヲ諷示シ或ハ張學良ノ意ヲ翻サント最後ノ努力ヲ尽シツツアル此ノ際他地方ニ於テ右ト相背馳スルカ如キ態度ヲ示スハ徒ニ東三省官憲ヲシテ政府ノ方針ニ付疑惑乃至誤解ヲ抱カシムルノ虞アリ且右ハ政府ニ於テ本件鐵道問題ノ解決ヲ南京政府ニ委スルコトニ決定セラレタルニ於テハ兎モ角モ同問題ヲ南京政府ヨリ切り離シ地方的ニ解決セムトスル政府從來ノ御方針ニ變更ナキ限り目下瀕戸際ニ立テル本問題解決ノ為ニ尽シツツアル關係各機關ノ努力ヲ覆ヘスニ等シク何ノ途鐵道交渉上ニ有利ナル影響ヲ及ホス所以ニ非スト思考セラルルニ付關係ノ向ニ対シ政府ノ御方針ヲ徹底セラレムコト切望ニ堪ヘス

積ノ学田ヲ含ミ該田ニ関スル新旧規定適用如何ノ問題モアリ将来支那側ニシテ若シ該計劃ノ内容ヲ探知スルニ於テハ更ニ積極的防止手段ニ出ヅルモノト觀測セラル
右御参考迄報告ス

55 昭和4年4月(11)日

在奉天森島總領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

強行姿勢による鐵道問題解決を図りつつあるなかでの芳澤公使等の反対意見は現地における解決努力の障害であるとの意見具申

奉天

発

本省 4月11日後着

第二八〇号

往電第二五九号末段ニ関シ

目下鐵道問題ニ関シ南京出張中ノ吉林交渉員鐘毓ヨリ最近張作相ニ宛テ芳澤公使ハ同人ニ対シ鐵道問題ニ関シテハ日本ハ穩健ナル態度ヲ以テ終始スヘク決シテ無暴ナル行動ニ出ツルコトナカルヘシト語ラレタリトノ趣旨ノ電報アリタル為前頭往電王正廷ニ対スル同公使ノ談話ト相關聯シ豫テ

56 昭和4年4月12日

在奉天森島總領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

中国側十間房陸軍用地返還要求の対応策について林總領事への報告

奉天

4月12日後発

本省 4月12日後着

第二八五号(至急)

林總領事へ

大臣発本官宛電報六〇号ニ関シ

十間房陸軍要地ニ付テハ李聘三ノ外馮雲芳其ノ他一二ノモノ該土地ノ權利者ナリト稱シテ最近關係日本人ヲ通シ滿鉄及当館ニ対シ種々申出ノ次第アリタルニ付為念地券其ノ他ニ依リ原權利關係ヲ審査シタルモ何分ニモ陸軍ニ於テ戰時没収以來二十數年ヲ經過セルコトト我方ニ於テ權利者ノ正否ヲ審査決定スルハ事実上不可能ナリ從テ本件土地ニ関シテハ豫定ノ通

(-)支那側交渉署ヨリ従前數回公文ニテ李聘三ヲ以テ權利者ナリトシテ該土地ノ返還ヲ要求シ來レルコトアルニ付我方トシテハ右交渉署側ノ主張ニ立脚シ李ヲ正當權利者ト

認ムルノ立場ヲ執リ満鉄側ヨリ李ニ対シ五万五千円ヲ交付スルコト尚今後右土地ニ付權利ヲ主張スルモノアルトキハ交渉署ノ公文ヲ基礎トシ總テ之ヲ撥附ケルコト

(二) 我方ニ於テハ該土地ニ関シ従前ヨリ戦時没収地ナリトノ主張ヲ一貫シ来レル次第ニ鑑ミ満鉄ヨリノ金円交付ニ際シテモ土地賠償代金以外ノ名義ヲ用ヒ且今後支那側ヨリ李ト満鉄トノ関係ニ付何等申出アル場合ニハ当館トシテハ右当事者間ノ取計ニ係リ何等関知セストノ理由ヲ以テ戦時没収ノ主張ヲ維持スルコト

(三)⁽²⁾ 李ヨリ金円ノ引替ニ

(イ) 李ヨリ日本側ヘ交付セル地券ノ本物ナルコト

(ロ) 李ハ従前右土地ニ関スル權利ヲ他ニ譲渡シタルコトナキコト

(ハ) 満鉄トノ間ニ本件解決ノ上ハ李ハ本件土地ニ関スル主張ヲ一切放棄シ将来支那側ハ元ヨリ如何ナル方面ニ対シテモ問題ヲ提起セサルコト

ノ三点ニ付一札ヲ取付クルコトニ依リテ李トノ間ニ於ケル永久ノ懸案ヲ解決スルコトニ決定シ御来示ニ基キ本年十二月李ニ金円交付ノ豫定ナリシ処本日中西課長ヨリ本件解決ノ

上ハ満鉄トシテモ成ルヘク早目ニ右土地ニ婦人病院及朝鮮普通学校建築ノ方針ナルカ右工事ニ際シテハ従前ノ行懸リヨリ見ルモ支那側ニ於テ妨害ヲナスコト必然ニシテ勢ヒ現地保護ヲ必要トスヘキ処右ノ場合領事館側ニ於テ現地保護ノ御意向ナルコトハ林総領事御出発前ノ御話ニ依リテ承知シ居ルモ満鉄社長力強力使用ニ依ル遂行ヲ承認セラルルヤ否ヤ為念請訓致度キニ付社長ノ回訓到達迄金円交付方差控ヘ相成度キ旨申越シアリタルニ付

李⁽³⁾ニ対スル折衝ヲ両三日引延スコトセリ従前ノ例ニ鑑ミルモ工事遂行ノ際強力ヲ以テ支那側ノ妨害ヲ阻止スルノ必要アルヘキコト推察ニ難カラサル処李トノ話合順調ニ進行シ来レル此ノ機会ヲ逸セハ本件解決ノ好機再来ヲ期シ得ルヤ疑ハシク且李トノ関係解決ノ上ハ成ルヘク速ニ工事ニ着手セサレハ支那側官憲トノ折衝ニ不利ヲ来スヘシト思考セラルルニ付(一)成ルヘク速ニ本件工事ニ着手スルコト(二)支那側ノ妨害ハ強力ヲ以テ之ヲ阻止スルコトノ二点ニ付山本社長ト御懇談ノ上満鉄本社ニ対シ領事館ト打合ノ上適當ノ機ニ工事着手方許可アル様至急御配慮願タシ為念本官ヘモ御協議ノ結果何分ノ儀御回示相願タシ

57 昭和4年4月15日 在奉天森島総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

鐵道問題解決に關して張學良の日本に対する
讓步要請事項について

奉天 4月15日後發
本省 4月15日後着

第二八六号
往電第二五六号ニ関シ

張學良ハ十四日離任挨拶ノ為往訪セル土肥原ニ対シ大要左ノ通話レル趣ナリ

鐵道契約ヲ結局実行セサル可カラサルコトハ自分(學良)

トシテ覚悟シ居ルモ自分單獨ニテ本件ノ責任ヲ取ル時ハ必然現在ノ地位ヲ捨テサルヘカラサル結果ニ立至ルヲ以テ自分限リニテ責任ヲ取ルヲ得ス從テ目下南京政府ニモ代表ヲ派遣シ一部ノ責任ヲ取ル様種々懇談セシメ居ル次第ナルモ南京ニ於テハ全然之ヲ相手ニシ居ラサル実情ナルニ付日本側ニ於テモ自分ニ対シ契約ノ実行ヲ容易ナラシムルカ為左ノ三点ニ付考慮ヲ願ヒタシ

一、既設借款鐵道ノ条件緩和ヲ外部ニ対シ明白ニ言明スル

コト

二、南京政府ヨリ學良ニ対シ東三省限リニテ鐵道契約ヲ実行シ差支ナキ旨通報アル様日本側ヨリ同政府ニ非公式ニ勧誘スルコト

三、日本ハ濟南事件ニ於テスラ多大ノ讓步ヲ見タル次第ニモアリ本件鐵道ニモ讓步ノ餘地アリト信スルニ付多少ノ讓步ヲスルコト

上海ヨリ芳澤公使ヘ御転報ヲ請フ

58 昭和4年4月15日 在奉天森島総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

鐵道問題に關しては中央政府命令を遵守せよ
との国民政府訓令について

奉天 4月15日後發
本省 4月16日前着

第二八八号(極秘)

往電第二八六号ニ関シ

当館ニ於テハ兩三個月以来満鉄並ニ軍部ト費用分担ノ上司令長官公署電信係ヲ買収シ同所取扱ノ秘密電報ヲ入手シ居

ル処十三日南京政府ヨリ張學良宛鉄道問題ニ関シテハ凡テ中央政府ノ命ヲ遵守スヘク地方的ニ解決スヘカラサル旨電訓アリタルコト確実ナリ
上海ヨリ芳澤公使へ転報アリ度シ
北平、上海へ転電シ吉林へ暗送セリ

59 昭和4年4月18日 在奉天森島総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

日本側土地商租に対する中国官憲による妨害
状況調査依頼

奉天 4月18日後発
本省 4月18日後着

第二九四号
本官発在満洲各領事
合第一二四号

最近支那官憲カ地主家主ヲ強要シテ日鮮人ノ土地家屋借入ヲ妨害シ居ル件ニ関シ不取敢嚴重支那側ニ警告シ置キタルカ交渉上貴地方ニ於ケル累次事件ノ実例承知シ度キニ付概要電報シ詳細郵報相煩度シ

大臣へ転電セリ

60 昭和4年4月18日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

中国側の土地商租妨害に対し抗議申し入れに
ついて

奉天 4月18日後発
本省 4月18日後着

第二九五号

最近当地方支那官憲ノ我方ニ対スル態度悪化ノ傾向アルハ往電第二五九号並ニ第二六一号所報ノ事実等ニ依リテモ窺知ニ難カラサル処其ノ後ニ於テモ敦化、洮南、海龍、通化等ノ各地ニ亘リ日鮮人ノ土地家屋借入ニ対スル支那官憲ノ妨害頻出シ居ル次第ハ関係各館ヨリノ報告ニテ御承知ノ通ナリ

右ニ関シ当館接受ノ情報ニ依レハ最近東三省首脳官憲ヨリ地方官憲ニ対シ日鮮人ノ居住營業等ノ実情調査方訓令アリタル趣ニテ各地ノ遣口ヲ見ルニ何レモ邦人ニ対スル直接行動ヲ控へ家主地主ヲ強要シ間接ニ邦人ヲ圧迫驅逐セントシ

居ルコト明ニシテ往電第二六一号照參謀長ノ談往電第二四九号復州粘土事業ノ圧迫並ニ最近ニ至リ合辦事業ノ取消ヲ申越セルモノ一、二件アル事実等ト照会スルトキハ今回ノ

圧迫ハ地方限リノ取計ニアラスシテ首脳官憲ノ命ニ基ク組織の排日行為ト認メサルヲ得ス依テ本官十七日不取敢王交渉員ヲ往訪右ノ実情並ニ当方ニ於テ之ヲ重要視シ居ル次第ヲ説明シ即時邦人ニ対スル圧迫的行為阻止方地方官憲ニ一律ニ命令スヘキコトヲ要求セリ

右ニ対シ交渉員ハ地方居住ノ邦人ニ対シテハ条約ノ規定ニ基キ充分ノ保護ヲ与フル様従前トモ訓令シ居ル処御来示ノ諸件ニ付テハ何等報告ニ接シ居ラサルヲ以テ早速取調フヘシト述ヘタルニ付本官ハ従前ニ於ケル中立地帯駐兵問題本邦商船ニ対スル臨検問題等最近数件ニ亘リ交渉員ノ回答毫モ事実ニ合致セス宛然当館ト支那關係官庁トノ取次役タル感アリ外交上ノ責任者トシテ其ノ責任ヲ自覺セルヤ否ヤヲ怪シムトテ既往ノ事実ヲ一々指摘シ既往ノコトハ暫ク追求ヲ差控フヘキモ本件邦人圧迫問題ニ付従前ノ如キ態度ヲ執ラルルコトアラムカ右ハ本官ノ断シテ承服シ得サル処ナル旨ヲ述ヘ其ノ責任ニ付再応警告ノ上現ニ問題トナリ居ル具

体的事件ニ関シ支那側ノ措置如何ヲ見タル上更ニ何等申出ツルコトアルヘシト述ヘ置キタリ

尚今後ノ成行如何ニ依リテハ直接張學良ノ注意ヲ喚起スル所存ナルモ当地方官憲カ日本側ノ足元ヲ見透カシ居ルノ傾向アルハ既報ノ通ニシテ今日局面展開ノ措置ニ出テスムハ将来当地方ニ於ケル帝国ノ地歩ニ累ヲ貽スコトナキヤヲ怖ル

北平、在満各領事へ暗送セリ

編注 當時林は帰国中。

61 昭和4年4月20日 在奉天森島総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

吉林省議會を中心とした中国側自井鉄道建設
計画について

奉天 4月20日後発
本省 4月20日後着

第三〇〇号(極秘)
懸案鉄道問題ニ関シ滿鉄側ニ於テハ此ノ際建設請負契約ノ

実行ヲ見サルトキハ結局支那自ラ之ヲ敷設スルニ至ルヘキヲ懸念シ居ル処吉林方面ニ於テハ自省自ラ鉄道ヲ敷設スレハ日本モ自然ニ目的ヲ到達スヘク外交上面倒ヲ醸スコトナカルヘシトテ自力敷設ノ計画ヲ考究中ナルカ如ク吉林省林議長^(韓復榘)嶺燭ニ対シ極秘トシテ語レル処ニ依レハ同省ニ於テハ目下長春扶餘鉄道(大賚ハ黑龍江省ニ属スルヲ以テ将来必然のニ延長ヲ計ルコトス)並密林開拓鉄道(穆稜炭鉱運炭線ヲ延長シ密山ニ至ル)ノ二線ノ敷設計画中ニテ前者ニ対シテハ既ニ林議長等地方有志ヨリ官商合辦ニテ建設請願書ヲ張作相宛提出シ作相ニ於テモ相談ニ与リツツアル趣ニシテ又後者ニ付テハ同線ノミニテハ東支鉄道ヲ肥スノ結果トナルヲ以テ第二期計画トシテ延吉穆稜間鉄道ヲ敷設セントノ議アル趣ナリ不取敢

吉林ニ転電セリ

62 昭和4年4月20日 在局子街田中副領事より
田中外交大臣宛

間島地方における東亜勸業公司の土地購入に
対する中国側対策について

帰化鮮人ニシテ比較的巨資ヲ以テ土地ヲ買収スルモノ多ク真相内查中最近龍井村居住帰化鮮人車斗均ナルモノ又復タ延吉県守信郷居住支那人呂某及同智勇郷居住支那人劉某ノ土地ヲ百七十三万吊(金約壹千円)ニテ買収シ目下延吉県公署ニ地券名義書換出願中ナル事実アリ右ハ総テ日本政府機関ノ資本ニ依ルモノナリト報告シ交渉員ハ直ニ県公署ニ就キ事実ヲ確メタル後科員ヲ各地ニ派シ日本側ノ出資内容ヲ調査セシムルト同時に間諜各県知事ニ対シ帰化鮮人ノ土地買収内容及各地日本人ノ行動監視並地券名義書換停止方ニ関シ夫々発訓シタリト趣ナリ右ハ客年来東亜勸業会社ニ於テ社員ヲ派シ帰化鮮人名義ヲ以テ極秘裡ニ土地ヲ買収シツツアル事実ヲ指摘セルモノニシテ同社ハ当地方ニ於テ既ニ三拾万円以上ノ土地ヲ入手シ尚ホ引続キ活動中ノ模様ナルカ本件ハ帰化鮮人中ノ支那側密偵ニ依リ漏洩シタルモノト認メラレ此際買収上ノ暗闘一切ヲ避ケ名義帰化鮮人ノ選択ニ一層注意ヲ払フ要アリト思考ス右報告ス

本信写送付先 外務大臣 間島総領事 百草溝分館主任

機密第一二六号 (4月27日接受)
昭和四年四月二十日 在局子街

外務大臣男爵 田中 義一殿
副領事 田中 作〔印〕

昭和四年四月二十日機密第五三号写送付
奉天総領事宛

件名

一、朝鮮人ノ土地買入ニ対スル支那側対策ニ関スル件

(別紙)

機密第五三号

昭和四年四月二十日

在局子街

副領事 田中 作

在奉天総領事代理 森島 守人殿

朝鮮人ノ土地買入ニ対スル支那側対策ニ関スル件

四月十九日附当館警察署長ノ報告ニ拠レハ四月十日附龍井村商埠分局長ヨリ在局子街延吉交渉員ニ対シ「近来当地方

63 昭和4年4月24日 在奉天森島總領事代理より
田中外交大臣宛(電報)

十間房陸軍用地の対処策に対する満鉄側懸念
についての林総領事宛通報

奉天 4月24日後発
本省 4月24日後着

第三〇六号(至急)

林総領事へ

大臣宛往電第二八五号ニ関シ

山本社長ヨリ満鉄宛回電ナキ為大臣来電第六〇号御指示実行ノ運ニ至ラサル処満鉄関係者トシテハ御帰朝前明瞭ナル了解ヲ与ヘラレタルニ拘ラス今日ニ至リ工事着手後社長ヨリ中止ヲ命セラルル事ナキヤ懸念シ居ルカ如ク齋藤理事ハ太田所長ニ対シ金円交付差支ナキ旨指示セラレタルニ拘ラス地方部ニ於テ社長ノ回電到着迄右交付ニ同意セサル次第ナリ満鉄ヨリハ齋藤理事ヲ通シ回電ヲ督促シタル由ナルモ当館ノ立場モ有之社長ノ意向御回示ヲ得ハ幸甚ナリ

64 昭和4年4月25日 田中外務大臣より
在奉天森島總領事代理宛(電報)

林總領事より十間房陸軍用地問題への対処は
外務省側が率先する必要なしとの通達

本省 4月25日後6時30分発

第七三号

林總領事ヨリ

貴電第二八五号及第三〇六号ニ関シ満鉄側ニ於テ社長ノ回
訓ナキ為躊躇シ居ル趣ノ処元来本件ハ満鉄側ノ主張ヲ貫徹
セムトスル趣旨ニ出ツルモノナルヲ以テ当館側ヨリ取急グ
コトナキ様致度シ

65 昭和4年4月27日 在奉天森島總領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

鐵道問題交渉を中央管轄に移さんとする張學
良側の動向について

奉天 発

本省 4月27日後着

第三一〇号

本機密第一一五号 (5月10日接受)

昭和四年五月三日

在齊々哈爾

領事 清水 八百一(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

洮索線測量開始ニ関スル件

小官本月一日萬当省主席委員親母ノ八十八歳ノ誕生日祝賀
ノタメ洮南ニ赴キタル際宴席ニ於テ前洮昂局工務課長ニシ
テ現興安区屯墾公署(鄭作華関係ノモノ)建設処長タル張
魁恩ニ出会ヒタルニ付洮索線布設計画ニ関シ尋ネタルニ同
人ノ答フル所左ノ如シ

洮索線ハ興安区屯墾公署ニ於テ布設スルコトニ決定シ自
分指揮ノ下ニ近日中ニ測量ニ着手スルコトナレリ(満
鉄側ノ談ニヨレハ測量機ハ満鉄ヨリ貸与スルコトナリ
三四日中ニ洮南ニ到着スル由ナリ)線路ハ洮昂線ノ白城
子(洮安)ヲ起点トシ西行シテ洮兒河ニ出テ同河ニ沿ヒ
テ索倫ニ到リ夫レヨリ大興安嶺ヲ越エテ「アルシャン」
温泉附近ニ出ツル計画ナルカ差当リハ索倫迄布設スル豫
定ナリ自分ハ昨年末屯墾公署ニ入ルヤ同方面ニ出張シ其

二十六日南京ヨリ帰奉セル吉林交渉員鍾毓ハ峯旗ニ対シ東
北鐵道問題ハ完全ニ南京政府ニ移管スルコトニ同政府ノ承
認アリ今後本問題ハ全然中央政府ノ取扱ニ係リ東三省ニ於
テハ責任ヲ持タルコトナレル旨語レル趣ナリ惟フニ張
學良従前屢々日本側関係者ニ対シ鍾毓ノ使命ハ鐵道問題取
極ノ経緯ヲ南京政府ニ説明シ同政府ノ了解ヲ取付クルニア
ル旨言明シ居リタレトモ其ノ真意ニ付テハ鐵道問題ヲ全然
中央ニ移管シ自ラ責任者ノ地位ニ立ツヲ回避スルニアリシ
カ如ク峯旗ノ談ニ依レハ張作相ハ右學良ノ遺口ニ不満ヲ抱
キ居リ現ニ林議長ニ対シ契約期限満期ニ至レハ日本側トシ
テ吉林省ニ対シ何等措置ニ出ツルコトナキヲ保セス其ノ場
合ニ南京政府カ果シテ全責任ヲトリテ之カ解決ヲナシ得ル
ヤ疑ナキ能ハサル旨ヲ洩セル由ナリ
上海ヨリ南京ヘ転電ヲ請フ
北平、上海、吉林ヘ転電セリ

66 昭和4年5月3日 在チチハル清水(八百一)領事より
田中外務大臣宛

洮索線の敷設計画について

地勢ヲ实地踏査シタルニ洮安ヨリ葛根廟附近迄ハ平野ニ
シテ其レヨリ上流ハ山地トナリ丘陵河岸ニ接近シ来リ興
安嶺ニ進ムニ從ヒ緩勾配ヲ以テ地勢漸次高マレルモ沿岸
ニハ狭小ナル平地連続シ居ルヲ以テ索倫迄ノ工事ハ難工
事ニアラス橋梁ニハ相当費用ヲ要スルモノアルモ隧道ハ
開鑿ノ必要ナキ見込ナリ(字分アキ)屯墾公署ニテハ洮安索倫間ノ
建設資金ヲ一時ニ調達スルコトハ困難ニ付資金ノ出来ル
丈ケ工事ヲ進メ行ク考ヘナリ云々

右御参考迄報告ス

本信写送附先 在支公使、奉天、哈爾賓總領事、滿洲里、
鄭家屯領事、関東庁、齊々哈爾滿鉄公所

67 昭和4年5月4日 在間島市川(信也)總領事代理より
田中外務大臣宛

吉会鐵道問題について日本の進出に対抗する
ため間島地域を起点とした殖産興業を奨励す
る国民政府訓令

機密第五二二二号 (5月9日接受)
昭和四年五月四日

昭和4年5月6日

田中外務大臣より
在米国出淵(勝次)大使宛

満蒙懸案に対しては我国權益擁護を図るべく
個々の問題につき是非々々主義で臨むべき旨
林総領事へ申し渡しについて

付記一 昭和四年四月二十八日付

ヲ鞭撻シテ嚴重ナル抗議ヲ為シ之ヲ制止スルト共ニ全国
民一致協力シテ必死的ニ力争シ路權自主ノ目的ヲ達セサ
ルヘカラス国家存亡ノ秋ニ当リ本会ハ一切ノ犠牲ヲ払ヒ
最後ノ五分間迄モ奮闘シ以テ我國國權ヲ擁護セムトス各層
憂國ノ士ハ奮起シテ本会ト行動ヲ共ニセラレヨ

中國々民党山西省執行委員會

本信写送付先 北平公使、奉天、吉林、哈爾濱各総領事

長春、安東各領事、通化分館主任

朝鮮総督、咸北、平北各知事

朝鮮軍参謀長、第十九師団参謀長

羅南憲兵隊長、延吉派遣員、間島派遣員

管内各分館主任各署長分署長

在間島

総領事代理 市川 信也〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

吉会鉄道敷設問題ニ対スル支那側ノ訓令及宣伝等

ニ関スル件(頭道溝分館、琿頭分署長報告)

本件ニ関シ国民政府ノ訓令ニ基キ吉林省政府主席代理誠允
ヨリ各県知事宛転訓ノ要旨及中国々民党山西執行委員会ノ
宣伝ノ概要等左ノ如キモノアリ御参考迄

記

一、国民政府ノ訓令要旨

政府ノ訓令ヲ奉スルニ日本ノ侵略政策ノ主眼ハ東北地方
ニ於ケル土地、鉅山ノ開拓權獲得ニ在リ彼ノ所謂吉会鉄
道敷設ニ依テ吉林省東南地方ヨリ侵略ノ歩ヲ進メ漸次其
ノ欲望ヲ充サントスル魂胆ナルコト明白ナレハ吉林省政
府ハ之ヲ阻止ノ方策トシテ東南沿辺地方ヲ起点トスル荒
地及鉅山等ノ開拓ニ意ヲ致スヘシ而シテ其ノ方法トシテ
ハ民間ノ殖産興業ヲ指導奨励スヘキ為メ因襲久シキ官督
商弁ノ弊ヲ去リ省、県ノ商務会、地方富豪等ヲシテ其ノ
開拓ノ衝ニ当ラシムル様配慮スヘシトアリ

右ニ依リ省政務委員会ノ討議ヲ経タル結果延、琿、和、
汪ノ四県ヲ開拓ノ起点トシ漸次他ニ及ホスコトセリ就
テハ当該各県知事ハ各其ノ商務会及郷老、富豪等ヲ激励
シテ趣旨ノ実現ニ努力セラルヘシ

二、中国々民党山西執行委員会ノ宣伝概要

日本ハ曩ニ吉会鉄道ヲ我国民ノ意志ニ反シテ強制的ニ敷
設セムトスル野心ノ下ニ東省要路人ヲ説キ或ハ中央政府
ニ対シ之カ敷設權認可方ヲ交渉シタル事実アリシモ元来
本問題ハ地方問題ニ属スルヲ以テ我外交部ハ之ヲ一蹴ス
ルト同時ニ全国ヲ通シテ路權運動ヲ猛烈ニ行ヒタル結果
一時ハ躊躇シ居リシカ最近ニ至リ又復此ノ陰謀ヲ画策シ
積極的ニ我領土權ヲ侵害シ飽迄モ其ノ欲望ヲ達セムトス
今ヤ欧米列強ハ既往ニ於ケル不平等条約修正ヲ欣然トシ
テ承認シ居ルニ不拘独リ日本帝国ハ国家間ノ互惠ノ原則
ニ逆行シテ横暴其極ニ達シ毫モ國際親宜ノ誠意ナシ交渉
問題ノ如キハ之カ解決ニ留意セス徒ラニ問題ヲ拡大悪化
セシメ其ノ解決条件ニ藉口シ我吉会鉄道敷設權ヲ侵害セ
ムトス若シ之ヲ放任センカ国家大計ニ莫大ナル影響ヲ受
クヘキハ論ヲ俟タス故ニ吾人ハ中央党部ト謀リ国民政府

「対満蒙方針案」

付記二 昭和四年五月四日

「林総領事ニ対スル大臣訓示」

本省 5月6日後8時発

第一六四号

過般来林奉天総領事及滿鉄首脳者等ノ帰京アリタル為政府
カ吉会線問題其ノ他ニ付滿洲ニ対シ強硬政策ヲ採ルニ至ル
ヘシトノ報道新聞紙上ニ伝ヘラレタルカ政府トシテハ対支
關係ノ全般的ニ付種々考慮ノ結果此際東三省ニ対スル措置
ニ付テハ尚一段ノ考究ヲ要スルモノト思考シ居ル次第ニテ
從テ近々帰任ノ途ニ就クヘキ林総領事ニ対シテハ追テ当方
ヨリ何分ノ指図ヲ為ス迄張學良ニ対シ從來通り我權益ノ擁
護ニ就テハ監視ヲ怠ラサルト同時ニ個々ノ問題ノ処理ニ当
リテハ是非々々主義ヲ以テ之ニ臨ム様申渡置キタリ
就テハ新聞紙上ニ取沙汰サレタルカ如ク所謂積極的強硬政
策ニ出ツルカ如キコトハ差当リ考慮シ居ラサル次第ニ付右
ニ御含置アリ度シ

在英大使及在合衆国主要領事ニ転電シ英ヲシテ在欧各大
使ニ転電シ在欧各公使ニ暗送セシメ仏ヲシテ聯盟帝國事

務局長及杉村公使ニ転報セシメラレタシ

(付記一)

昭和4年4月28日

* 対滿蒙方針案

(一) 根本方針

滿蒙殊ニ東三省ニ対スル帝国ノ利害關係ノ特殊重大ナルニ鑑ミ同地方ニ於ケル実権者ニシテ我特殊地位^{ツタカ}得シ我ト誠心協力スルニ於テハ常ニ之ヲ支持シ然ラサレハ常ニ之ヲ支持セサルノ態度ニ出ツルコト現内閣成立当初以来ノ確定方針ナリトス

今右確定方針ニ照シ東三省ニ於ケル現在ノ実権者タル張學良ノ態度ヲ觀察スルニ或ハ一般の排外風潮ニ雷同シテ我重大ナル權益ヲ侵害セムトシ或ハ民論ニ藉口シテ其ノ当然ノ責務ヲ果サス甚シキニ至リテハ支那統一ノ空名ニ隠レテ我ト折衝ノ責任ヲ回避セムトシ我ト協力ノ誠意ナキカ如シ果シテ然ラハ帝國政府トシテハ断然學良不支持ノ方針ニ転スルト共ニ時機ヲ見計ヒ此ノ方針ニ伴フ具体的措置ヲ講スルノ要アリ尤モ右具体的措置ハ學良ヲシテ我方ト協力ノ必

要スルニ右ノ措置ハ一言ニシテ言ヘハ滿洲ノ不都合ナル現状ヲ正常化スルヲ目的トスルモノニシテ具体案中何等非違ヲ遂ケムトスルモノナキハ勿論又固ヨリ毫モ領土併合乃至列國ノ機會均等主義ヲ無視セムトスルモノニアラサルヲ以テ此ノ辺ノ消息ハ具体案着手後適宜之ヲ中外ニ表明シテ世上ノ誤解ヲ解クヘシト雖モ具体案実行ノ經過如何ニ依リテハ相当世間ノ視聽ヲ惹キ重大ナル影響ヲ齎スコトアルヘキヲ以テ本具体案着手ノ時期如何ハ之ヲ内外ノ形勢ニ省ミ慎重ナル考慮ヲ加ヘテ決定スルモノトス

(欄外記入)

本件五月二日局部長會議際話合ノ筈御參考迄

四月二十八日

有田重細亜局長

(付記二)

林總領事ニ対スル大臣訓示

昭和四年五月四日午后三時田中外務大臣ハ帰任ノ林總領事ニ対シ

要ヲ痛感セシメ鐵道問題商租問題ノ如キモ之ヲ解決セシメムトスル主意ニ出ツルモノナルモ右ノ如キ具体的措置ニ拘ラス尚反省セサルニ於テハ右方針ヲ徹底のニ遂行シテ彼ヲ没落セシメ更ニ彼ノ後繼者ニ対シテモ亦同様ノ態度ヲ繰返シ結局東三省ニ於テハ我特殊地位ヲ得セス我ト協力ノ誠意ナキ者ハ其ノ主腦者タルヲ得サルヘキコトヲ中外ニ感得セシムルノ要アルモノトス

(二) 具体的考量

本件打開策ノ骨子ハ學良不支持ノ方針ノ下ニ彼ヲシテ我特殊地位ノ威力ヲ痛感セシムルニアルヲ以テ之カ具体的措置ニ当リテハ此ノ目的ニ副フカ如キ手段ヲ撰択スルノ要アル処此ノ見地ヨリ考量シ得ヘキハ

イ、我軍顧問ノ撤去

ロ、滿鉄ノ供与シ居レル便宜中先方ノ最不便トスルモノ

ノ若干停止

ハ、打通線等支那側ノ不法行為ニ対スル嚴肅ナル再抗議

ニ、京奉線ノ「クロス」遮断

ホ、条約又ハ契約ニ根拠アル諸問題ニ関スル積極的策動

等ナリトス

「対滿方針案」ハ昨夜熟読考慮ヲ加エタルカ一旦手ヲ振リ上ゲタル上ハ其ノ手ノヤリ場所ニ窮スルガ如キコトアリテハ不都合ナリ滿洲ニ対スルヤリ方ハ目下諸種ノ事情ヨリ具体的ニハ定メ兼ヌルニ付芳澤公使來着ノ上ハ之レトモ相談スルヲ要スベシ南方トノ干係ハ懸案ヲ解決シ近ク正式承認ヲナスカ如キ形勢故之レトノ干係ハ漸次改善サレ從ツテ之レガ滿洲ニ影響ナシトモ云ヘス最近支那ヨリ婦リタル佃信夫ハ蔣ガ自分ガ嘗テ蔣ニアセルナト言ヒタルコトヲ引イテ滿洲問題ニツキテ自分ニ於テモアセラサルコトヲ希望シ居リタリト言ヒ居リタリ右様ノ次第故所謂具体措置ト云フコトハ当方ヨリ差図スル迄何モ着手スル勿レ只帰任ノ上ハ學良ニ対シテハ鬼面ヲ以テ臨ムヘシ斯クスルコト将来ノ交渉上好都合ナルヘシ云々

右ニ対シ林總領事ヨリ

御訓示ノ主旨ハ充分諒解セリ只自分ダケ鬼面ヲ以テ臨ムモ他ノ在滿機關ニ於テ之レト一致シタル態度ニ出テサレハ何等ノ効ナシ大臣ヨリ各機關ニ此主旨御訓令アリ度シト述ヘ大臣ハ関東庁、陸軍及滿鉄ヘノ訓令方ヲ快諾セラレタリ

69 昭和4年5月6日

在奉天森島總領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

長大、吉長延長兩線の起工期限満了に際して
は強行着工に踏み切るべしとの意見具申

奉天 5月6日後発
本省 5月6日後着

第三一五号

長大、吉長延長兩線起工期限満了後ニ於ケル善後措置ニ付
テハ折角御審議中ノコトト推察スル処諸般ノ關係上此ノ際
強硬建設ヲ差控フルコトトセハ今後ノ交渉ニ当リテハ南京
政府トノ間ニ少クトモ一応ノ諒解ヲ取付クルニアラサレハ
之カ妥結ノ不可能ナルヘキコト既報南京政府並ニ張學良ノ
態度等ニ鑑ミ疑ヲ容レス此ノ間ニ処シ漫然起工期限満了後
ニ至リ南京政府ニ談合ヲ始ムル時ハ仮令先方ニ於テ交渉開
始方我方ノ提議ニ応スルコトアルモ同政府トシテハ起工期
限満了ニ依ル契約執行ヲ理由ニ従前ノ契約トハ全然別個ニ
新ナル問題トシテ談合ヲ始ムルノ立場ヲ執ルコト推察ニ難
カラス延テ我方ノ立場ヲ甚シク不利ナラシムルノ懸念少カ

きかけについて

機密公第三二五号

昭和四年五月八日

(5月16日接受)

在吉林

總領事 川越 茂

外務大臣男爵 田中 義一殿

吉会鉄道問題ニ付キ鐘吉林交渉員ノ国民政府トノ
協議情況ニ関スル件

本件ニ関シ栗本書記生力交渉署員ヨリ内聞スル処ニ依レハ
豫テ張學良ノ命ヲ受ケ吉会鉄道問題対策協議ノ為メ約三ヶ
月間赴寧中ナリシ当地鐘交渉員ハ五月三日帰吉翌四日開催
セラレタル省政府委員会ニ於テ外交部トノ商議情況ニ関シ
ニテ之カ提議ノ機會ヲ得ス久シク無為機會ノ到来ヲ俟チ居
リタル処漸ヤク同事件ノ解決ヲ見タルヲ以テ王外交部長ニ
対シ本件対策ニ付提議シタル処同部長モ極メテ之ヲ重視シ
数次磋商ノ結果「吉会鉄道問題ハ中央ノ交渉ニ移シ今後日
本側カ依然奉天乃至吉林当局ニ敷設方強要シ来ル際ハ關係
重大ニシテ地方的局部ノ交渉ニ依ル解決不可能ナルニ付兩

ラス尤モ他面同政府トシテハ本件契約締結當時ノ事情並ニ
當時ニ於ケル北京政府ノ地位等ニ鑑ミ根本ヨリ本件契約ヲ
承認セサルノ立場ヲ執ルコトアリ得ヘキモ我方トシテハ飽
迄本件契約ノ有効ナルコトヲ主張スルコト肝要ニシテ之カ
為ニハ今後ノ交渉方法ノ如何ニ拘ラス少クトモ此ノ際當館
又ハ滿鉄ヨリ張學良ニ対シ契約期限内ニ於ケル起工ノ不可
能ナリシハ局長ノ任命等支那側ニ於ケル契約上ノ義務並履
行ニ依ルモノナルヲ以テ期限満了後ニ於テモ本件契約ハ依
然有効ナルモノト認ムル旨ヲ通告シ置クコト必要ト信ス此
等ノ点ニ付テハ林總領事ト委細御打合済ノコトト思考スル
モ期限切迫ノ關係モアリ此ノ際本官トシテ心得フヘキコト
アレハ至急御回示相仰キ度シ
上海ヨリ南京ヘ転電アリ度シ
北平、上海、吉林ヘ転電セリ

70 昭和4年5月8日

在吉林川越總領事より
田中外務大臣宛

吉会鉄道交渉に關しては中央政府直轄とする
ようにとの国民政府の東三省当局へのはたら

国政府間ニ交渉ヲ逐ケラレ度旨応酬スル」ニ決定シ同時ニ
王部長ヨリ芳澤公使ニ対シ本件ニ付テハ地方当局ニ督促セ
サル様奉天總領事等ニ転告方要求シタル趣ニテ東三省政
府ハ同交渉員ノ右報告ニ基キ日本側ノ地方的交渉ハ一切之
ヲ受付けサルコトニ決定シタル趣ナリ

他面吉林ニ於ケル一般民衆ハ五月十一日カ吉会密約ノ満期
日ナレハ何等カノ形式ニ於テ民意ヲ表示スルノ要アリトシ
五月五日省城各校学生代表ハ窃カニ協議ノ結果五月十日各
校学生ニ於テ大規模ノ示威游行ヲ行フコトヲ決議シタルカ
早クモ当局ノ探知スル処トナリ省政府ハ公安局及教育庁ニ
対シ之カ阻止方豫メ嚴重措置スヘキ旨訓令シタル趣ナリ
右報告ス

長

71 昭和4年5月9日

田中外務大臣より
在奉天森島總領事代理宛(電報)

滿鉄をして吉会、長大兩鉄道建設請負い契約
は起工遅延により変更されることはない旨中

国側に申し入れについて

本省 5月9日後発

第八〇号

貴電第三一五号ニ関シ

満鉄ト協議ノ結果同社長ヨリ東北政務委員会主席張學良宛書翰ヲ以テ更ニ一応鐵道局長ノ任命ヲ督促セシムルト共ニ依然トシテ其ノ任命ナク從ツテ起工期ニ遅延ヲ来ストモ右ハ満鉄ノ責任ニ非ズ元来本件諸契約ノ効力ハ支那側ノ都合ニ基ク起工遅延ノ如キニ依リ何等ノ影響ヲ受クルモノニ非ルコト明白ナルモ為念申添ユル旨申入レシムルコトニ決シ社長ヨリ貴地満鉄公所ニ右取計方電報セシムルコトナリタルニ付委細ハ同公所ヨリ御聴取相成度シ
吉林へ転電アリ度シ
北平、上海、南京へ転電セリ

72 昭和4年5月9日

在奉天森島総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

長扶線敷設に関して満鉄資金の導入を図る吉林側最高幹部の意向について

吉海鐵道全線營業開始について

吉林 5月15日後発
本省 5月16日前着

第一〇号

海吉鐵道ハ朝陽鎮、吉林間百七十四基ノ工事完成シ本十五日ヨリ全線ノ營業ヲ開始セリ
北平、奉天、海龍へ転電セリ

74 昭和4年5月15日

在間島市川総領事代理より
田中外務大臣宛

長春学生会の吉会鐵道敷設反対宣言

機密第五七一号

(5月20日接受)

昭和四年五月十五日

在間島

総領事代理 市川 信也

外務大臣男爵 田中 義一殿

支那側学生会ノ吉会鐵道敷設反対宣言ニ関スル件

(頭道溝分館報告)

本件ニ関シ長春学生会ハ四月二十八日附ヲ以テ吉会鐵道敷

第三一七号

往電第三〇〇号ニ関シ(極秘扱)

峰旗、松岡副社長ノ招電ニ依リ九日上京セル処同人ノ談ニ依レハ吉林側最高幹部ニ於テハ引続キ長扶線建設計画ニ関シ内々協議中ノ処吉林側トシテハ同線建設費トシテ九百万円ヲ計上シ居ルモ吉林省ノ財政上二百万円以上ノ支出困難ナル為残餘ハ材料購入並借款ノ形式ヲ以テ満鉄ヨリ融通ヲ受ケタキ底意ナルモ日本側ヨリ強要セラレタルカ如キ印象ヲ与フル時ハ輿論ノ反対ヲ招クコト必然ニ付自発的ニ話ヲ進メタキ意向ヲ有スル趣ニシテ又他方長扶線背後地ニ於ケル事業ニ付テモ日支合弁ノ形式ヲ以テ種々考究中ノ次第アル趣ニシテ峰旗ノ上京モ右ノ事情ヲ山本社長ニ電報シタル結果急遽上京ヲ命セラレタルモノノ由ナリ尚同人ニ対シテハ外務省ニ出頭委細説明スヘキ旨申渡シ置ケリ御参考迄

73 昭和4年5月15日

在吉林川越総領事より
田中外務大臣宛(電報)

設ニ対スル反対宣言書ヲ全国各地ノ団体宛頒布シタルカ其ノ内容左記訳文ノ如シ御参考迄

記

日本ハ滿蒙政策ヲ貫徹セムト欲シ吉会線敷設問題ニ対シ断然タル処置ヲ執ラムトス此種危険の消息ハ我等ヲシテ危懼戰慄セシムルモノアリ同胞ヲ若シ永遠ニ日本ノ殖民地的地位ヲ脱セムトセハ奮然蹶起シテ之ニ反対スヘシ本会ハ革命的立場ト党的立場ニ在リテ一般民衆ヲ指導シ日本帝國主義ニ總攻撃ヲ開始シテ決死的闘争ヲ為サムトス我等ハ日本ノ吉会鐵道敷設反対ヲ以テ口号トス我同胞ヨ蹶起セヨ強敵日本帝國主義ニ国民的總攻撃ヲ為セ我國民的死活ハ懸リテ此ノ問題ノ勝利の解決ニ在リ何ソソ蹶起セサルヲ得ンヤ

75 昭和4年5月15日

在局子街田中副領事より
田中外務大臣宛

局子街における「五鉄反抗会」の設立について

第一七三号

(5月22日接受)

昭和四年五月十五日

在局子街

奉天 5月9日後発

本省 5月9日後着

外務大臣男爵 田中 義一殿

副領事 田中 作

日本ノ滿蒙五鐵道建設反対運動ニ関スル件

当地省立男女子師範学校職員生徒等ハ今回日本ノ滿蒙五鐵道建設反対ノ目的ヲ以テ校内ニ「五鐵反抗會」ナルモノヲ組織シ会長、庶務外交、宣伝、審判、講演各部長及部員ヲ任命シタルカ右ハ最近吉林奉天方面ノ学生団運動ニ刺戟サレタルモノノ如ク近ク間島各地ニ一大示威運動ヲ起サントシ準備中ナル趣當館署長ヨリ報告アリ形勢注意中尚ホ同会ノ標語及貼付宣伝ポスター類左ノ如シ

○ 標語

一、日本帝國主義ヲ打倒ス

一、東省五鉄借款ニ反抗ス

一、東省学生団ハ決死抗争ス

一、東省住民ニ宣伝ス

○ 貼付「ポスター」

一、先ツ示威運動ヲ行ヒ民衆ヲ喚起ス

一、外人ニ媚シ民衆運動ヲ圧迫スル醜惡ナル洋奴走狗ヲ打倒ス

謝シ尚右措置ハ一般支那人民ノ対日誤解ヲ一掃シ今後日支關係ハ漸次好転スヘシト世辞ヲ述ヘタルニ依リ本官ハ是ニ対シ日本政府ノ公正ナル対支方針ハ從來モ亦今後トモ同様ニシテ変化無キハ勿論出先官憲ノ我々モ同様飽ク迄ニ是々非々主義ヲ以テスルモノナル処支那側ニ於テハ条約ニテ保障セラレアル我方ノ正当ナル權益ニ対シテモ常ニ妨害ヲ加フル状態ニシテ殊ニ昨年来屢次実行ヲ声明セラレタル鐵道問題ノ如キモ滿期ノ今日ニ至ル迄實現セラレサルハ我政府ノ最遺憾トスル処ナル旨ヲ述ヘタルニ學良ハ自分トシテ出来得ル範圍ノ尽力ハ為シタル積リナルモ残念乍ラ力足ラス今日ニテハ國民政府ト日本ノ關係好転シツツアレハ寧ロ南方政府ト交渉セラルル方得策ナルヘシト遁辭ヲ述ヘタルニ依リ本官ハ議論ヲ避ケ唯我方ニ於テハ各鐵道契約不実行ノ責任ハ全ク貴司令ニ在リテ力足ラストノ言ハ遺憾乍ラ信スル能ハサル旨ヲ述ヘテ彼ノ態度ニ対スル我方ノ不滿ノ意ヲ表示シ置ケリ

北平、上海、南京へ転電シ在滿各領事へ暗送セリ

一、売国求榮ノ貪官汚吏ヲ打倒ス

一、彼果シテ起工センカ我即チ民衆力ヲ以テ破壊ス

一、經濟絶交日貨排斥ヲ実行ス

一、一切ヲ犠牲トシ最後迄奮闘ス

一、東京電ハ外務省秘密會議ノ結果吉会長大鐵道武力強設及雜居殖民政策実行ヲ報ス右ハ我東省ノ死命ヲ扼ス蹴起シテ反抗ス

右報告ス

本信写送付先 在支公使 奉天、間島、吉林

76 昭和4年5月16日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

鐵道問題に關して寧ろ國民政府中央との交渉

方得策なる旨の張學良談について

奉天 発

本省 5月16日後着

第三二八号

十五日帰任挨拶ヲ兼ネ張學良ヲ往訪シ談話中學良ハ張宗昌等ノ大連上陸禁止ノ件ニ関シ今次我方ノ措置公正ナルヲ感

77 昭和4年5月21日

在ハルビン八木(元八)總領事より
田中外務大臣宛(電報)

鐵道交渉に關する東北当局と國民政府当局と

の交渉状況についての蔡ハルビン交渉員談

機密第四〇四号

昭和四年五月二十一日

(5月27日接受)

在哈爾濱

總領事 八木 元八

外務大臣男爵 田中 義一殿

吉敦線延長及長大線ニ関スル哈爾濱蔡交渉員ノ談

話ノ件

本件ニ関シ本月十七日当地蔡交渉員ハ滿鉄事務所吉原參事ニ対シ左ノ通り談話セル趣ナリ

記

吉会、長大兩鐵道敷設問題ニ関シ客年来東三省当局ハ日本側ト折衝中ナリシカ輿論ニ鑑ミ自ラ責任ヲ負フテ承諾ヲ与フルコト能ハス去リトテ日本側ノ要求ヲ一蹴シテ顧ミサルコトモ東三省当局トシテノ立場甚タ困難ニ陥ルヘキヲ憂慮シタル結果折衷辦法トシテ該兩鐵道ヲ東三省支那側自ラ之

ヲ修築シ以テ事実上借款鉄道ノ非難ヲ免レント企画シ其趣旨ヲ体セシメテ鍾吉林交渉署長及廬前四洮局長ヲ南京ニ派遣シ中央政府ニ相談セシメタル次第ナルカ政府ニ於テハ創立当時殊ニ軍事多端ノ際トテ鉄道問題及交渉問題ニ関シテハ鉄道管理部及外交部ノ意見未タ融合セス為ニ本問題ハ暫ク此ノ儘トナシ置クヘキ旨訓示アリ東三省当局トシテハ対内対外其措置ニ窮シ居ル訳ニテ之カ決定モ急速ニハ拂リ兼ヌル事ト信ス云々

右報告ス

本信写送付先 在支公使 在奉天、上海各総領事
在吉林、間島、長春各総領事領事

78 昭和4年5月22日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛

吉敦、長大両鉄道の早急の着工を求める張學良宛山本満鉄社長書翰送付について

機密公第五〇八号

昭和四年五月二十二日

在奉天

ル様致度若シ依然トシテ局長ノ御任命無ク從テ起工ニ遅延ヲ来シ候共右ハ敝社ノ責ニ之無ニ付右御諒承相成度元来本件諸契約ノ効力ハ前記ノ如キ貴方ノ都合ニ基ク起工ノ遅延ニ依リ何等影響ヲ受クヘキモノニ非ラサルハ明白ニ候得共為念申候

敬具

昭和四年五月九日

南滿洲鐵道株式會社

社長 山本条太郎

東北政務委員會主席張學良殿

79 昭和4年5月27日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛

満鉄、大連への対抗策として北寧、奉海、営口各支線の運賃割引の実施について

公第五一九号 (6月1日接受)

昭和四年五月二十七日

在奉天

総領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

外務大臣男爵 田中 義一殿

総領事 林 久治郎

鉄道問題ニ関スル張學良宛山本社長書翰写送附ノ件

本件ニ関シ貴電第八号ヲ以テ御申越ノ次第アリタル処当地鎌田満鉄公所長ハ本月十一日別紙写ノ通ノ張學良宛山本社長書翰ヲ學良秘書陶尙銘ニ手交シ同人ノ受領書ヲ取付ケ置タル趣同公所長ヨリ通牒アリタルニ付右ニ御了知相成度為念報告ス

本信写送付先 在支公使 上海 南京 吉林各総領事並領事

(別紙)

拜啓陳者敝社ハ客年五月十五日附契約ニ依リ吉敦鉄道延長及長大鉄道ノ建造ヲ請負タルヲ以テ直ニ諸般ノ準備ヲ了スルト共ニ貴方ニ於テ契約所定ノ鉄道局長ヲ任命シ敝社起工ニ支障ナカラシムル様督促ヲ重ネ来リ候得共今日迄局長等ノ御任命無ク從テ敝社トシテ乍遺憾起工ニ着手シ得サリシ次第ノ処契約所定ノ期日モ数日ヲ餘スノミト相成候ニ付テハ此際直ニ該鉄道局長御任命相成敝社起工ニ便セシメラル

北寧(京奉) 鐵路瀋陽營口間特別割引運賃實施ニ関スル件

昨年夏奉天派ハ北平引揚ニ際シ多数ノ車輛ヲ関外ニ搬出シタルタメ久シク平奉間列車ノ直通中止セラレ居タル処本年三月頃ヨリ列車ノ運行漸次整理改善セラレ現在ニ於テハ平奉間全ク從前通りノ運行状態ニ復シタルカ他方打通線ノ開通ト相俟テ奉海沿線出廻貨物ヲ北寧線ニ依リ營口ニ集中シ満鉄線及大連ニ対抗セン為メ計画セラレタル北寧奉海兩線貨客聯絡運輸モ客年末ヨリ開始ノ運トナリ本年五月初以降北寧鐵路管理局ニ於テハ北寧、奉海及營口支線各鐵路ノ通切符ヲ発売シ往復通切符ニハ割引ヲ行フ等旅客ノ招致策ヲ講シタルカ最近同鐵路ニ於テハ更ニ瀋陽營口間貨客ニ対シ別紙第一号所掲ノ如キ特別割引運賃ヲ定メ去ル十五日ヨリ實施セリ右特別割引運賃ニ依レハ從來瀋陽營口間三等乗車片道賃金大洋四元五仙之ニ教育附加捐大洋十五仙ヲ併セ合計大洋四元二〇仙ナリシヲ大洋二元(教育附加税ヲ徴セス)ニ減額シ又貨物運賃ニ於テハ從來大豆、豆粕及豆油ノ三品ノミニ限り一車扱毎屯大洋三元三十仙ノ特定運賃ノ取扱ヲ受ケ其他ノ貨物ハ普通運賃トシテ六等級ニ區別セラレ

一車扱毎屯最高大洋十一元七十一仙最低三元三仙ナリシモノヲ今回ノ改正運賃ニ於テハ從來ニ於ケル特定運賃取扱荷物ノ範圍ヲ広メ同線ニ依リ奉天營口間ニ輸送セラルル主要貨物即チ石炭、木材、米、獸毛、麥粉、煙草、穀物、粗陶器、安平、落花生、棉花、棉糸、棉布及塩ヲ含ム從來ノ普通運賃三級品、四級品及五級品ノ三等級ニ属スルモノハ一律一車扱毎屯大洋三元三十仙ニ割引セラルコトナリ從來ニ比シ乗車賃ハ半減以下貨物運賃ハ三級品及四級品ハ何レモ約半減シ五級品一元四十六仙安トナレリ而シテ斯ノ如キ北寧鐵路ニ於ケル特定割引運賃ノ実施ハ結局滿鉄線ニ對抗シ現在ニ於ケル滿鉄線ニ依ル奉天營口間貨客ヲ同線ニ奪ハムコトヲ目的トスルモノト認メラレ目下滿鉄側ニ於テハ右特別運賃実施ニ依ル滿鉄線運輸ニ及ホス影響調査中ナルカ今試ミニ滿鉄、北寧兩線ニ依ル奉天營口間貨客運輸ノ狀況ヲ比較スルニ哩程及所要時間ニ於テハ滿鉄線百十二哩、其ノ所要時間約五時間、北寧線百六十三哩、其ノ所要時間約八時間ニシテ前者ハ後者ニ優ルモ其ノ貨客賃金ニ於テハ旅客乗車賃三等片道ニ於テ前者ハ後者ヨリ約八十錢高又貨物運賃ニ於テハ主要貨物穀物ニ付テ見ルモ前者ハ後者ニ比

海吉鐵道ハ既報ノ通り二千餘萬元ノ巨費ト約二ヶ年ノ歲月ヲ費シテ漸ヤク五月十五日ヨリ吉林總站朝陽鎮間一七四料一ノ開通ヲ見ルニ至レルト共ニ吉長線トノ連絡線タル吉林總站吉林長線間九料三ノ軌条敷設工事モ数日中ニ完了スルコトナリタルカ今般同鐵道ノ内情ニ関シ諜知スル処ニ依レハ同局ニ於テハ車輛ノ購入、停車場ノ建築等ニ関シテモ着々準備ヲ整ヘ居ルヤニ宣伝シ居ルモノノ実何等目算ナキト共ニ工事方面ニ関シテモ左記ノ通り各種ノ欠陥情弊アル為メ滿鉄線トノ競争ノ如キハ当分ノ間問題トナラサル様觀測セラレツツアリ

左記

- 一、土工 本線土工ハ關係者カ工費ヲ不尠着服シ居ル為メ極メテ粗惡ニシテ雨天ニハ崩壞シテ晴天ニハ凹凸ヲ生シ列車進行ノ際動揺脱線ヲ免レス
- 二、軌条 軌条ノ素質極メテ粗惡ナルノミナラス軌条敷設ノ際枕木ノ下等ニ「バラス」ヲ入ルル等基礎工事ヲナシ居ラサル為メ列車進行ノ際ハ動揺ヲ免レサルノミナラス聊カ速力ヲ早メル時ハ屢々脱線ノ虞アリ

シ約一円三十錢方ノ高率（滿鉄線ノ貨客運賃ニ付キテハ別紙第二号参照アリタシ）ト成ル次第ニテ海吉線モ竣工シ奉海線トノ連絡モ近々成立ノ見込ニテ北寧、打通各線トノ聯絡運輸円滑ト成リ客貨車充實スルニ至ラハ滿鉄ニ対スル一大脅威ト成ルヘキモ未タ諸般ノ設備完全ナラサル該鐵路ノ現状ヲ以テハ当分ノ間滿鉄側ニハ差シタル影響ナカルヘキヤニモ觀測セラル

右不取敢御参考迄ニ報告ス
本信写送付先 在支公使、牛莊、閔東長官

80 昭和4年5月30日 在吉林川越總領事より
田中外務大臣宛

機密公第三七一号 吉海鐵道の各種欠点について
(6月8日接受)

昭和四年五月三十日

在吉林

總領事 川越 茂〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

海吉鐵道ノ内幕ニ關スル件

三、従業員ノ素質

従業員ハ殆ント全部情實ニ依ツテ採用セラレタルモノナル為メ技能頗ル低劣ニシテ加フルニ線路不良ナル為メ連日脱線シ居ル狀態ニテ近來右脱線防止ノ為メ列車ノ速度ヲ緩ルメ運輸所要時間ヲ延長セントスル説アリ

四、車輛

同鐵路局ニ於テハ數回車輛ノ購入公告ヲナスト共ニ之カ豫算ヲトリ居リ右豫算ハ既ニ全部消費セリト報告シ居ルニモ不拘機關車三、四輛貨車十餘輛到着シ居ルノミニテソノ他ノ車輛ハ代金ヲ交附セサル為メ納入者ニ於テ送附シ來ラサル由ナリ又客車ハ平奉路ヨリ粗末ナル旧車ヲ借用シ來リ三等車ヲ二等車ニ使用シ貨車ヲ三等車ニ代用シ居レルカ近來益々不足ヲ感スル為メ同局總辦李銘書ハ巧言ヲ以テ張主席ヲ説キ張氏個人ノ名義ヲ以テ人ヲ平奉路ニ派シ韓同局長ヨリ二三等混合車四、五輛ヲ借用シ來レルカ張主席ハ李總辦ノ所言ニ欺カレ實情ヲ知ラサル為メ無事ナルモ内情暴路ノ

五、停車場ノ建築
際ハ大問題トナルヘシ

本件ニ関シテハ目下停車場建築地点ニ「セメント」ヲ運ヒ来リ居ルモ工費ノ支払ヲ掛念シ請負人ハ未タ起工セス李総辦ハ又巧言ヲ弄シテ省政府ニ対シ五百萬元ノ支出方願出テタル為メ省政府ハ二百五十萬元ノ支出方承認セルカ本件工費モ亦ソノ大部分ハ関係者ノ私服ヲ肥スニ過キササルヘシ

六、營業

列車ノ進行頗ル緩慢ニシテ若シ急進センカ忽チ脱線スル為メ旅行者ハ已ムヲ得サル者ノ外総テ長春經由滿鉄線ヲ選ヒ居レルカ過般張主席奉天ヨリ本線ヲ経テ帰吉ノ際主席ヨリ種々質問アリタルモ軌条ノ敷設早々ナルヲ理由トシ僅カニソノ場ヲ糊塗シタルカ今回又モヤ張主席ノ赴奉説アル為メ同局ハ大恐慌ヲ来タシ急遽艾、張兩幫辦ヲシテ路線視察ヲナサシメタル由ナリ

右報告ス

本信写送附先 北平、奉天、海龍

81 昭和4年6月(13)日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

高紀毅は鐵道問題につき蔣介石と会談の予定
との情報について

奉天 発

本省 6月13日後着

第三七二号

張學良發蔣介石宛密電ニ依レハ往電第三六三号高紀毅ハ東北鐵道修築交通整理問題並ニ之ニ要スル經費補助支出方ニ付協議ノ要務ヲモ帶ヒ居ルカ如ク又南京宛貴電第一〇三号哈爾濱勞農領事館搜查事件ニ関シ南京政府ヨリ學良宛事情報告方電命シ来リ居ルニ徴シテモ同伴ハ南京政府ノ命ニ依ルモノニ非スト認メラル
上海ヨリ南京へ転電アリタシ
北平、上海へ転電シ哈爾濱、吉林へ暗送セリ

82 昭和4年6月(24)日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

蔣介石は東北四省鐵道敷設費は全額中央政府
が支出する旨を高紀毅に言明について

奉天 発

本省 6月24日後着

第三八七号

往電第三七二号ニ関シ

高紀毅發張學良宛密電ニ依レハ蔣介石ハ高ト協議ノ結果同人ニ対シ東北四省鐵道敷設費ハ総テ中央ヨリ支出スル旨言明シタル趣ナリ

上海ヨリ南京へ転電アリタシ

北平、上海、吉林へ転電セリ

83 昭和4年6月26日

在吉林川越総領事より
田中外務大臣宛

吉林省政府による吉同鐵路籌備処設置に關する決定について

機密公第四二〇号

(7月4日接受)

昭和四年六月二十六日

在吉林

総領事 川越 茂〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

吉同鐵道籌備會議情況報告ノ件

吉林省政府ニ於テハ近ク吉同鐵道籌備処ヲ正式ニ設立シ現東北辺防軍駐吉副司令官公署秘書長王寶善ヲ同処長ニ任命スルニ内定シ居ル次第ハ六月十日附拙信機密公第三八八号報告ノ通ナルカ今般当地滿鉄側ノ得タル情報ニ依レハ張作相主席ハ六月九日路政臨時會議ヲ開催協議ノ結果大要左記ノ通り決定シタル趣ナリ

左記

一、吉同鐵道測量事務終了後「吉同鐵路工程籌備処」ヲ設置ス

二、吉同鐵路工程籌備処ニ総辦一名幫辦二名ヲ置ク

三、吉同鐵路工程籌備処ニ四科ヲ設ケ各科ニ科長一名ヲ置ク

但シ科長ハ鐵路工程ニ關スル學識及經驗ヲ具有スルモノニシテ総辦ヨリ推薦シ省政府詮衡委任ス

四、吉同鉄路工程籌備処内部ノ組織ハ海吉鉄路工程局ノ組織ヲ参酌シテ編制シ省政府ノ修正認可ヲ俟ツテ施行ス
 五、工程籌備処ハ省城西大街前迎賓旅館旧址ニ暫設ス
 六、工程籌備処ニ要スル經費ハ先ツ財政庁ヨリ暫借シ支払実行後決算明細書ヲ作成シテ省政府ニ提出シ同鉄道開辦豫算ニ編入ス

七、吉同鉄道建設豫算額ハ原案通りトシ路政ニ関スル費用ノ支出計画及事務遂行等ニ就テハ籌備委員会ニ於テ討議ス（註、同委員会ノ委員長ハ張作相主席ヲ推挙シ委員ニハ各厅长各処長及海吉鉄道總辦幫辦吉長、吉敦兩路正副局長並ニ吉同鉄路工程籌備処総辦幫辦ヲ以テ組織ス）

八、籌備委員会ハ工程完了ト共ニ撤廃シ董事会ヲ組織スルコトヲ得

九、籌備委員会ハ吉林省政府建設庁ニ附設シ孫厅长ヲ常務委員ト為シ路政ニ関スル討議ノ必要ヲ生シタル際ハ委員長（張作相）ニ申請シテ委員会議ヲ開催ス

一〇、工程籌備処ノ設立ト共ニ現存吉同鉄路測量処ヲ撤去ス

一一、以上各項ハ東北交通委員会ノ許可ヲ得テ施行ス

隣接地ニ停車場ヲ建設シ該農場内ニ回避線ヲ引込メルヲ以テ更ニ嚴重交渉ヲ重ネタルモ満足ナル回答ヲ得ス他方榊原自身モ本件鉄道ヲ管轄スル平奉鉄路局ニ対シ数次賠償金支払方懇談シタルモ効ナク遂ニ榊原ハ本官ニ対シ自己ノ正当ノ權利確保ノ為該鉄道ヲ自ラ遮断撤去スヘキ旨申出ツルニ至レリ如上数年間ノ経緯ニ鑑ミ当館ニ於テハ榊原ノ行為ヲ差止メサル事トシ

支那側ニ対シ数回ニ亘リ口頭又ハ公信ヲ以テ榊原自ラ該農場内ノ軌道ヲ遮断撤去スル事アルモ本官トシテハ差止得サル立場ニ在ル旨豫メ通告シ其ノ注意ヲ求メ置キタル処六月二十七日早朝榊原ヨリ邦人夫二十数名ヲ以テ鉄道ノ遮断工事ニ取掛リタル旨急報アリタルヲ以テ万一ノ場合ニ処スルカ為不取敢警察官ヲ現地ニ派遣シタルモ何等ノ事故ナク無事工事ヲ完了セリ

二、元来同農場商租権ハ前述ノ如ク確実ナルモノナルモ支那側ニ於テハ大正十二年頃ヨリ何等カノ機会ニ於テ之ヲ回收セント企テ榊原側ニ於ケル租金並水利費ノ滞納ニ依リ權利消滅シタルモノト主張シ居ルモ租金ニ付テハ大正十三年七月当館ヨリ公文ニ添エ同年迄ノ分ヲ一括支那

右報告ス

本信写送附先 北平、奉天、哈爾賓

84 昭和4年6月27日

在奉天林總領事より
 田中外務大臣宛（電報）

榊原による同人農場内中国側鉄道の遮断工事

強行に至る経緯について

奉天 発

本省 6月27日後着

第三八八号

一、当地北陵前面榊原農場ハ大正八年榊原政雄カ山陵衙門トノ間ニ租借契約ヲ締結シ正式ニ日支官憲ノ承認ヲモ得居ルニ拘ラス支那側ハ大正十四年中皇姑屯駅ヨリ航空処ニ通スル鉄道敷設ノ為權利者ノ承認ヲ得ス同農場ノ横断軌道ヲ敷設シタルヲ以テ当時当館ヨリ屢代償支払方要求シタルモ何等満足ナル回答ヲ得ス爾来交渉行悩トナリ居タルニ付本官着任以来支那側ヘ交渉ヲ再開シ数回ニ亘リ賠償金支払ニ依リ円満解決方ヲ要求シタルモ支那側カ右ニ応セサルノミナラス更ニ本年四月本官帰朝中本件農場

側ニ送附シ支那側ニ於テ一旦之ヲ受領シ当館ニ領収書ヲ送附シ来レルニ拘ラス其ノ後該商租権消滅ヲ口実トシテ現金ヲ返還シ来レルヲ以テ右ハ当館ニ保管中ナリ尚水利費ニ付テハ大正三年当時ノ交渉員于冲漢及水利局長榊原ニ対シ同人租借地中疏水用地ノ提供方懇談アリ榊原ハ水利費ノ免除及堤防ノ完全ナル築造ヲ条件トシテ右申出ニ応シタル次第ナルニモ拘ラス支那ニテハ堤防ノ築造ヲ完了セス為ニ溢水ノ結果農場ニ損害ヲ与ヘタル事数回ニ及ヒ居ル実情ニシテ支那側ノ主張ハ全然根拠ナキモノナリ時節柄宣伝ニ利用セラルルノ懸念モ有之不取敢

上海ヨリ南京、漢口、廣東ヘ転電アリタシ、在滿各領事ヘ暗送セリ

北平、天津、上海、濟南、青島、哈爾賓、吉林、長春、安東、牛莊、間島ヘ転電セリ

編注「水利局長」の後に「ヨリ」との書き込み訂正あり。

85 昭和4年6月28日

在奉天林總領事より
 田中外務大臣宛（電報）

今後榭原に無断で中国側が同人農場を使用することがなきよう中国側へ通告について

奉天 6月28日後発

本省 6月28日後着

第三八九号

往電第三八八号ニ関シ

榭原農場内支那鉄道遮断工事終了シタルヲ以テ代償問題等ノ解決ニ至ル迄支那側ニ於テ再ヒ該農場ヲ無断使用スル事無キ様本二十七日朝榭原ノ願出ニ依リ公文ヲ以テ支那側ニ通告シ置キタリ

尚本工事ニ従事シタル者ハ榭原及其ノ雇人夫邦人二十二名ニシテ万一ノ場合ニ備フル為派遣シタル警察官ハ三十四名ナリ鉄道守備隊側ハ該農場カ満鉄線路ニ接続シ居リ擾乱ノ線路ニ及フ無キヤヲ慮リ線路上ノ守備兵ヲ多少増員シタル事実アルモ支那側ハ警官殊ニ乘馬警察官ヲ軍隊ト称シ或ハ宣伝ニ利用スル虞アルニ付為念御含迄

上海ヨリ南京、廣東、漢口へ転電アリタシ

前電ノ通転報セリ

機密第二〇七号

(7月8日接受)

昭和四年六月三十日

在安東

領事代理 芝崎 路可〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

密輸入貨物取締ニ関スル件

当地邦商ハ朝鮮側在住者ト謀リ從來ヨリ鮮人ヲ使用シテ鉄道附屬地域内ナル六道溝ヲ根拠地トシテ舢舨ヲ用キテ鴨綠江ヲ越ヘ朝鮮側ヨリ雜貨ヲ密輸入シ居タル処右ハ本年二月支那輸入新税率ノ実施以來激増セルヨリ支那税関ニテハ吏員ヲ増シ取締方法ヲ講シタルモ密輸入ニ従事スル鮮人多数ナルカタメ充分取締ノ目的ヲ達スル能ハス從テ鮮人等ハ倍々之ヲ大規模ニ行フ模様アルニ至リシカハ税関長ハ一方吏員ノ増派方ヲ総稅務司ニ稟請スルト共ニ取締援助方ヲ當方ニ懇談セルヲ以テ國際信義保持ノ見地ヨリ當館警察署長ハ密輸入邦商ニ嚴重戒告シ且ツ江岸一帯ニ警察官ヲ配シ警備船ヲ増加シ以テ徹宵取締ニ努力セル結果附屬地内ニ於ケル密輸入ハ大ニ減少スルニ至レリ該密輸入品ハ重ニ地下足袋、護謨靴類等ニシテ福本税関長ノ言ニ拠レハ之レカ脱稅

86 昭和4年6月28日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

今回問題の榭原農場の商租権は確實なものの
旨の報告

奉天

発

本省 6月28日後着

第三九〇号

往電第三八八号榭原農場ハ榭原カ多年同地方及内地ニ於テ誇大ニ宣伝シ居リタル所謂榭原第一農場及第二農場ニアラス大正八年確實ニ商租セル約百町ノ水田ヲ指スモノニシテ所謂第一農場及第二農場ニ関シテハ数ヶ月前當館ヨリ榭原ニ対シ右ハ今日ニ於テハ同人ニ何等權利ナキ旨宣告済ナリ為念

87 昭和4年6月30日

在安東芝崎(路可)領事代理より
田中外務大臣宛

安東、新義州間密輸は中国側に付屬地回収の
口実を与える可能性あるにつき取締り必要
との意見具申

最高月額一万円ニ達スヘシト為メニ脱稅品ハ市場ニ横溢競争ヲ現出シ損害ヲ被レル商人モアル趣ナルカ是等密輸出入ニ従事スル鮮人ハ其ノ数家族ヲ合シテ約二千餘名ニ上リ多クハ六道溝ニ居住シ之ニヨリ生活シ居ル状態ナルヲ以テ警察官ノ取締勵行ニ対シ種々怨嗟ノ声ヲ挙ケ居レリ因ニ鮮人ノ密輸出スルハ重ニ米穀ナリシ処右ハ客年三月実施ノ外米輸入制限令(米穀法第二条ノ規定ニ依ル米及穀ノ輸入制限ニ関スル件)ニヨリ自然消滅セリ

本件ニ対シ福本税関長ハ將來支那側カ附屬地ノ存在スルカタメ斯ル組織の密輸入行ハルトノ理由ヲ以テ附屬地回収ノ口実トナスニ至ルヲ虞ル這ハ長江方面ニ於テ租界問題カ「ホット、ベッド」トナレルニ徴シテモ推察シ得ラルル旨本官ニ洩ラシ居ルカ之ト同時ニ早晚交渉問題トナルヘキ当地陸境關稅減稅特典廢止ニ関聯シ支那側ヲシテ何等好辭柄ニ利用セシメサルヲ保シ難シト思料セラル御参考迄本件取締ニ関スル警察署長報告写別紙添付此段報告申進ス

本信写送附先 在支公使 奉天、間島、上海總領事、

南京領事

88 昭和4年7月1日 在吉林川越総領事より
田中外務大臣宛

穆密鐵道測量終了と吉同鐵道方正烏珠間の測量開始について

機密公第四三四号 (7月9日接受)

昭和四年七月一日 在吉林

総領事 川越 茂〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

穆密鐵道測量終了ト吉同線方正烏珠間測量ニ関スル件

本年五月五日吉林省政府技監張國賢ヲ首班トスル測量隊カ穆密鐵道測量ノ為当地ヲ出發シタル次第ハ五月九日附拙信機密公第三四〇号報告ノ通りナルカ同鐵道ノ測量既ニ終了シタル為張技監ハ更ニ吉同鐵道方正烏珠間ノ測量ヲ開始セントシ之カ經費ノ支出方省政府ニ請願シ壹万円ノ支出ヲ得タルヲ以テ七月上旬ヨリ方正ヨリ烏珠ニ向ツテ測量ヲ開始スルコトナリタルカ同區間ノ測量終了後引続キ烏珠、吉林省城間ノ測量ヲ開始スル趣ナリ

右報告ス
本信写送附先 北平 奉天 哈爾賓

89 昭和4年7月(5)日 在南京岡本(一策)領事より
幣原(喜重郎) 外務大臣宛(電報)

全国廢約促進会が樺原の北陵鐵道支線遮断等を理由に對日經濟絶交勵行方通令を決議した旨の情報について

南京 発
本省 7月5日後着

第七四二号

全国廢約促進会ハ昨四日ノ會議ニ於テ北陵鐵道支線破壞問題並最近發生セル長沙、蕪湖、青島各地ノ日支人衝突事件ヲ討議シタル結果同促進会ヨリ宣言ヲ發スルト共ニ各省促進会ニ對シ對日經濟絶交勵行方通令スルコトヲ決議セル趣ナリ

尚北陵鐵道問題ニ関シ四日ノ中央日報ハ社説ニ於テ同鐵道ハ支那ノ固有鐵道ノ一部ナルニ拘ハラズ日本人カ既得權ト稱シ正當ノ手續ヲ經スシテ警察官兵士等保護ノ下ニ直接取

毀シノ暴挙ニ出テタルハ我カ主權ヲ侵害セルモノナリ元來奉天在留ノ日本人ハ日清、日露ノ戰爭ニ依リテ他ノ地方ニ在ル日本人トハ先天的ニ異レル心理ヲ以テ支那人ニ對スル風アリ今回ノ事モ彼等カ二十年前ノ惡感情ヲ發揮セルニ外ナラス日本ノ識者ハ「時代ノ力」ニハ抵抗シ難キヲ知ル要アリ吾人ハ本件ノ交渉ノ經過ヲ注視セン云々ト論シタリ北平、上海、奉天、青島、漢口、蕪湖、長沙ヘ転電セリ

90 昭和4年7月8日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛

安東、新義州間密輸の放任は日本側の公正なる態度を傷つけるにつき取締り方意見具申

機密公第六二二号 (7月12日接受)

昭和四年七月八日

在奉天

総領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

新義州安東間密輸入ニ関スル件

本件ニ関シテハ六月三十日附安東領事代理發大臣宛機密第

二〇七号報告ノ次第モアル処右密輸入ハ本年二月支那側輸入新稅率實施以來頓ニ増加シ其從事員家族ヲ合セ約三千人(主業者以外ハ大部分朝鮮人)ニ達シ現在ニ於テハ變態的通關業者ト化シ主トシテ護謨靴等ヲ輸入ス其ノ統計明ナラサルモ本年二月以降ノ安東稅関收入ハ新稅率實施ニ拘ラス昨年同期ニ比シ減少ヲ示セルヤニテ相当多額ニ上リ居ルコトハ四月頃ヨリ当地方本邦商一部ノ間ニモ噂セラレタル処ナルカ右密輸入團ノ勢力益増大スルニ伴レ当地方正業者ノ蒙ル影響渺カラサル為去ル三日商工會議所ハ特別委員秘密會議ヲ開キタル結果密輸入ハ勿論手段正當ナラスト雖其結果本邦品ノ輸入増加トナルノミナラス安東密輸入ノ防止ハ營口方面ニ於ケル支那人ノ密輸入ヲ誘致スル虞レアルヲ以テ差当リ放任シ置クヲ可トスヘシトノ意見ニ傾キタルカ兎ニ角実情調査ノ為メ四日書記長ヲ安東ニ派遣セリ
惟フニ本件密輸入ハ本邦品ノ輸入増加ヲ来スコトアルヘシト雖其利益ヲ受クルハ一少部分ノ不正業者ニ止リ正當營業者ハ却テ之カ為脅カサルノミナラス其手段既ニ違法ニシテ大局上ニ及ホス弊害甚大ナルモノアリ況ヤ我カ領土内ヨリ滿鉄附屬地内ニ對シテ行ハルル此ノ種不正行動ヲ看過ス

ルハ我カ公正ナル態度ヲ傷クルモノニシテ充分取締ヲ要ス
ト存セラルルニ付朝鮮総督府トモ御協議ノ上取締方御
配相成度此段申進ス

本信写送付先 在支公使、安東 牛莊各領事、閔東長官

編注一「条約違反、全体的ヨリ見テ通商貿易上不利ナルコ
ト、附屬地回収ノ口実ヲ与フル誘因トナルコト等
種々我方ニトリ不利益ナ事態發生ノ恐アルニ付出来
得ル限り取締勵行可然カ 山本」との書き込みあり。

編注二「最近煙草ノ密輸入モ不尠ル趣ニテ東亜煙草会社ヨ
リモ事情具陳シ来レル次第モアリ本件取締嚴行可
然」(サイン)との書き込みあり。

91 昭和4年7月9日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

北陵鉄道支線遮断前後の京奉鉄路局の動向に
ついて

奉天 7月9日後発
本省 7月9日後着

トニ決心シタル由ナルカ満鉄ニ於テモ支那側ノ覚醒ヲ促ス
為ニハ却テ此ノ際山領ヲ復歸セシメ京奉線ニ利害ヲ自覺セ
シムル方可ナリトナシ居ルカ如シ
北平、天津へ転電セリ

92 昭和4年7月(9)日 在奉天林総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

北陵鉄道支線遮断事件を契機として遼寧省国
民外交協会の成立について

奉天 7月9日後着
本省 7月9日後着

第四〇五号
往電第三八八号ニ関シ

当地方漢字紙ハ曲筆ヲ弄シ排日氣勢ノ煽動ニ努メ居ル他
方三日遼寧省紅槍会新任代表歡迎大会ニ於テ楊大光ナルモ
ノ本件鉄道問題ヲ報告スルト共ニ此ノ際外交後援会ヲ復活
スヘシト主張鼓吹シタルニ満場一致ヲ以テ可決セラレ直ニ
右楊等七名ヲ委員ニ選舉シ六七八日引続キ協議会ヲ開キ
(一)遼寧省国民外交協会ト改称スルコト

第四〇四号

京奉鉄路技師山領貞二ノ来談ニ依レハ同鉄路局長韓麟生ハ
昨年来出来得ル丈傭聘外国人ヲ解備スルノ方針ヲ採リ既ニ
多数解雇済ナルカ本年四月同鉄路カ北陵駅ヲ設ケ榊原農場
内ニ回避線ヲ敷設スルニ当リ山領ハ該農場ヲ使用スル時ハ
榊原トノ間ニ関係ヲ生スヘキヲ以テ駅ヲ南ニ寄セ該農場ヲ
避クルヲ可トスト忠告セルニ韓局長ハ中国内ニ鉄道ヲ敷設
スルハ中国政府ノ自由ナリト称シ山領ノ言ヲ排シテ同農場
ニ回避線ヲ延長シ其ノ後榊原ノ同局長ニ対スル直接交渉ヲ
モ回避シタルカ先月二十七日榊原カ愈同農場内ノ回避線ヲ
遮断スルヤ同局長ハ梁北段工務所長及山領技師ニ向ヒ事実
ノ報告ヲ命シ之ニ対スル兩人ノ報告中ニ日本側カ軍人ヲ使
用セルヲ認メス且少シク駅ヲ南寄セニスレハ農場ニ関係ナ
ク三時間内ニ回避線ヲ敷設シ得ト記セル為韓局長ノ感情ヲ
害シ韓ハ何等山領ニ相談ナク本月六日附ヲ以テ同人ヲ金州
在勤技師ニ転セシメタリ山領ハ元来満鉄トノ聯絡ニ便スル
為支那側ノ懇望ニ依リ満鉄ヨリ派遣セラレタルモノナレハ
金州ニ転勤セシムルハ傭聘ノ目的ニ適ハサルヲ以テ満鉄本
社ノ同意ヲ得タル上此ノ際京奉鉄路ヨリ満鉄ニ復歸スルコ

(二)本件経緯ヲ全国ニ通電シ輿論ヲ喚起スルト共ニ挙国一致
目的ノ貫徹ヲ計ルコト

(三)示威運動ヲ為スコト

(四)場合ニ依テハ全国一致經濟絶交ヲナスコト

等ヲ決議シタリ明日ヲ期シ示威運動ヲ実行スヘシト伝ヘ
ラルルモ支那官憲ハ目下張學良不在ニモアリ且往年我方ノ
排日運動ニ対シテ採リタル処置等ヲ顧ミ極力之ヲ阻止セン
ト努メツツアルノミナラス支那側内部ニ於テハ榊原カ自力
遮断ヲ決行シタルハ王交渉員ノ交渉緩慢拙劣ナリシニ依ル
モノトテ交渉員ニ対シ非難ノ声擡頭シ居ルカ如ク交渉署ハ
本件根本的解決方ニ付人ヲ介シテ内々当館ニ接近シ来リ居
レリ

上海ヨリ南京、漢口へ転電アリタシ
往電第三八八号ノ通転電セリ

93 昭和4年7月(11)日 在鉄嶺近藤(信一)領事より
幣原外務大臣宛(電報)

鉄嶺商務会に北陵鉄道支線遮断事件に抗議す
るため省内一斉の排日貨の断行を求める遼寧

省総商会の通告について

鉄 嶺 発
本 省 7月11日後着

第三号

鐵嶺商會ハ九日奉天總商會ヨリ神原農場事件ハ我國權侵害ノ大ナルモノナレハ此ノ際日本ノ橫暴ニ對スル報復手段トシテ省内一斉ニ排日貨ヲ断行スヘキ旨ノ通告ニ接シ当地商務會ハ昨十日午後一時臨時議員會ヲ開キ討議シタル趣ノ聞込アリ其ノ討議事項結果等嚴秘ニ附シ窺知シ難キモ当地從來ノ經驗ニ徴スルニ斯ル勸誘ヲ受ケタル場合多クハ提議者側ニ贊同ノ意ヲ表明スルニ止リ曾テ排貨ノ実行ヲ見タルコト殆トナク今回モ同一ノ道行ト察セラルルモ城内少數邦人輸入商ハ多少憂慮シツツアリ本件視察中ナルカ不取敢報告ス
北平、奉天へ暗送セリ

94 昭和4年7月11日

在鄭家屯大野(邦憲)領事館事務代理より
幣原外務大臣宛

洮索線の着工準備開始について

機密公第二五九号 (7月17日接受)

昭和四年七月十一日

在鄭家屯

領事館事務代理 大野 邦憲(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

洮索鐵道ニ関スル件

當館管内洮南ト黑龍江省索倫トヲ連結スベキ洮索鐵道ノ敷設ニ付テハ既ニ大正十五年支那當局ニ於テ實地測量ヲ遂ゲタルモ爾來国内多事ニシテ之ガ實現ヲ見ルニ至ラザリシ処昨年同地方一帯ニ鄒作華氏ノ興安屯墾區設置セラレ積極的開發ヲ企ツルニ及ビテ同鐵道問題ハ再ビ擡頭シ來レリ、該屯墾公署所在地タル洮安ニテハ斯ル狀勢ヲ見洮南ヲ起点トスル時ハ途中洮兒河ノ架橋ニ多額ノ費用ヲ要シ到底採算立タザルベシト洮安起点説ヲ唱ヘ既ニ事務所ノ設置ヲ見タルモ洮南側ニテモ土地ノ繁榮策ヨリ之ニ對抗シテ官民一致運動ノ結果効ヲ奏シ結局敷設籌備費トシテ商務會拾萬元農務會拾萬元其他紳商九萬元計參拾萬元、又工事着手ノ際ハ従業員用宿舍トシテ百五十間房子ヲ提供スル条件ノ下ニ

該鐵道ハ愈々洮南ヲ起点トシテ起工スルコトニ決定シ去ル四日事務所ノ移転ト同時ニ従業員約五十名モ來洮シ工事準備ニ着手セリ、而シテ洮南側ニテハ目下財政不如意ニテ該金寄附ヲ一時ニ納付スルコト困難ナル為之ヲ奉天辺業銀行ヨリ借款セル由ニテ借款契約内容トシテ伝ヘラル、モノ左ノ如シ

一、期限ハ六ヶ月トス
二、利子ハ月一分五厘トス
三、洮南市中最も繁盛ノ地区ヲ担保トシ市内ノ有力ナル実業家ハ之ガ連帶保証人トナル
四、該借款ハ他ノ費途ニ充ツルヲ得ズ
而シテ同鐵道全工費ハ尙千五百萬元内外ニテ最初滿鉄借款說、米國借款說等伝ヘラレタルモ何レモ噂ニ止マリ結局国内ノ資本ニ由ルモノ、如ク工事従業員ノ如キモ屯墾兵ヲ使役スルニ於テハ遙ニ經費ノ節減ヲ見ルベシト云フ
右御報告申進ス

本信写送付先 在支公使 奉天 吉林 哈爾賓總領事

齊々哈爾 長春領事

95 昭和4年7月14日

在上海上村(伸一)總領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

張學良、蔣介石會談の結果東三省の外交問題
は國民政府中央に引き継ぐこととなつた旨の
羅振邦の内話について

上 海 発
本 省 7月14日前着

第八六〇号

來滬中ノ吉林交渉員鐘毓隨員羅振邦カ極秘トシテ滿鉄梅津ニ語ル処ニ依レハ東三省ニ於ケル外交交渉問題ニ付テハ今般北平ニ於ケル蔣、張會見ノ結果國民政府ニ引継クコトニ内議纏マリ更ニ之カ引継ニ関シ具体案協議決定ノ為鐘毓ハ高紀毅同道不日南京ニテ蔣介石及王正廷ト會見スルコトトナレリ滿鉄關係鐵道問題モ結局國民政府トノ間ニ交渉スルコトトナルヘシ云々

北平、南京、奉天へ転電セリ

96 昭和4年7月16日

在吉林川越總領事より
幣原外務大臣宛

北陵鉄道支線遮断事件に対する吉林省内学生
および各団体の反応について

機密公第四七一号

(7月26日接受)

昭和四年七月十六日

在吉林

総領事 川越 茂〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

榊原農場事件ニ対スル吉林省城各界ノ態度ニ関スル件

榊原農場事件発生以来当地支那紙ハ屢々誇大捏造ノ記事及論説ヲ掲ケテ反日熱ヲ煽リ居ル次第ハ七月一日附拙信公第四三二号其ノ他ヲ以テ及報告置キタルカ他面当地各界ノ本事件ニ対スル態度ニ関シ諜知スル処ニ依レハ各界人士中窈カニ聯合シテ反対運動ヲ起サントスルモノアリ学界最モ熱心ニシテ各校学生ハ過般來寄リ寄リ密議ヲ擬シ居レルカ最近毓文中学生等ハ商工両会ニ対シ省城各団体ト聯合シテ反対運動ヲ起サントヲ提議シタルモ両會長ノ賛成ヲ得ルニ至ラス失敗ニ終リシモ教育会ニ於テハ七月七日評議員ノ茶話会ヲ開キ本件運動方法ヲ協議シタル趣ナリ又吉林各団体

総領事 林 久治郎〔印〕
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

安東新義州間密輸入ニ関スル件

本件ニ関シテハ七月八日附機密公第六二二号往信ヲ以テ及報告置ノ処実情調査ノ為メ安東ニ出張セル当地商工会議所書記長報告別紙写ノ通り同會議所会頭ヨリ提出アリ右報告ニ依レハ(一)約三千人ノ鮮人本件密輸入ニ依リ生計ヲ樹居ルヲ以テ是カ取締ノ影響ハ相当大ナルヘキコト(二)支那人側ノ密輸入ヲ取締ラスシテ日本人側ノミヲ取締ルハ一考ノ要アルコト(三)地下足袋等ノ鑑定価格ヲ引下ケサル限り密輸入根絶ヲ期シ得サルコト(四)安東ノ繁榮ハ密輸入ニ重大ナル關係アルコト等ヲ列挙シ密輸入取締実行困難ナリトノ結論ニ達シ居ルモノノ如クナルカ尚同會議所会頭ノ私見ニ依レハ陸境密輸入ハ何レノ地ニ於テモ容易ニ行ハレ易キヲ以テ陸境関稅ヲ一般海關稅ヨリ低減スル要アル次第ニシテ安東新義州間ニ於テモ陸境関稅輕減ノ特典ヲ与エサル限り密輸入ノ防止事実上至難ナル理由ヲ滿鮮国境関稅輕減制度存続論ニ引用スルコト可ナルヘキ旨申出テタリ

右御參考迄申進ス

ハ七月十二日奉天各団体ヨリ「日本人カ公理ヲ顧ミス強力ニ依ツテ我鐵道ヲ破壊シタルハ認容スヘカラス我カ美ハシキ山河ハ將ニ彼レカ鉄蹄ニ蹂躪占領サレントスルヲ以テ敵会等ハ茲ニ共力シテ外交後援會ヲ組織シ以テ外交ノ後盾トナルト共ニ民衆ヲ率ヒテ彼レカ横暴非理ヲ抑制シ最後ノ勝利ヲ得スンハ已マサラントス而モ外交上貴フヘキハ協力一致ニシテ又古ヨリ「衆志成城」ノ金言アリ願クハ貴會ニ於テモ一致之ニ反抗サレ度ク反抗ノ声一度勢ヲ得ハ彼レカ心胆為ニ潰ユヘシ云々」ノ勧誘通告ニ接シタル趣ナリ

右報告ス

本信写送附先 北平 奉天

~~~~~

97 昭和4年7月19日

在奉天林総領事より  
幣原外務大臣宛

安東、新義州間密輸入は取締り困難なる旨の奉

天商工会議所の調査報告について

機密公第六六二号

(7月25日接受)

昭和四年七月十九日

在奉天

本信写送付先 在支公使 安東領事 関東庁警務局長

(別紙)

報告書

昭和四年七月九日

書記長 野添 孝生

会頭 庵谷 忱殿

安東ニ於ケル密輸入ニ関スル件

昭和四年七月三日商業部門会開催ノ結果命ニヨリ首題ノ件調査致候処左記ノ通りニ有之此段及報告候也

左記

一、密輸入ト其ノ品目

從來安東ニ於テハ米ヲ対岸ノ新義州ニ密輸出シ更ニ塩ヲ対岸ヨリ安東ニ密輸入シテ巨利ヲ博スルモノアルヤニ伝フルトコロアリタリ然ルニ本年二月新関稅實施後ハ近数年間ニ需要ヲ増大セル地下足袋ノ密輸入頓ニ増加シ来リ今ヤ本品ハ正稅ヲ納メテ輸入スルモノ皆無ノ状態ニ立チ至レリ

由來此ノ種ノ不正行為ハ之レヲ行フニ

第一輸入数量ノ多キコト  
第二海関税率ノ高率ナルコト  
第三運輸上ニ至便ナル物

以上ノ要素ヲ具備スルコトヲ必要トスルヤニ聞知シ居レリ即チ地下足袋ハ第一輸入数量ニ於テ一ヶ年優ニ五百万足ヲ算セラレ第二海関税率ハ二月新関税実施前ニ於テ僅カニ從価五分ニ過キサリシモノ一躍シテ一割七分五厘ノ高率トナリ第三運輸上ニ於テハ之レヲ麻袋ニ入レ何等破損ノ虞レナク容易ニ運搬可能ニシテ悉ク密輸入品トシテノ要素ヲ具有スルモノナリ

## 二、密輸入品ヨリ被ル影響<sup>(審カ)</sup>

前記ノ如クニシテ密輸入ニ係ル地下足袋ハ二月新関税実施ト共ニ從來ノ五分税ヨリ一割七分五厘トナリタル結果之レヲ正税ニヨリ輸入スルトキハ海関ニ對シ一足約金拾貳錢(海関ノ地下足袋鑑定価格ハ一足金七拾錢)ノ輸入税ヲ要シ旧税ノ一足金參錢五厘ヨリ一躍三倍以上ノ高税トナレリ然ルニ一方密輸入ニ對スル手数料ハ一足金參錢乃至四錢程度ニシテ旧税率ヲ標準トスルタメ爰ニ正税ヲ納メテ輸入シタル品ト大ナル逕庭ヲ生スルニ至レリ即チ

之レヲ奉天市場ニ於テ見ルニ密輸入品ハ一足金九拾錢程度ニ於テ取引サルルニ反シ海関ヲ經テ輸入シタル地下足袋ハ一足金壹圓程度ニシテ少クトモ兩者ノ間ニ約拾錢ノ差異ヲ有シ居レリ

右ノ結果從來奉海沿線ノ華商ニ對シテハ單ニ地下足袋ニ限ラス總テノ商品ハ奉天市場ヨリ供給シタルニ今日ニテハ該沿線ノ華商ハ悉ク安東ニ於テ取引ヲナス結果畜ニ地下足袋ノ取引皆無ニ帰シタルノミナラス他ノ商品ニモ多大ノ影響ヲ及ホシ加フルニ彼等カ奉天市場ヲ顧ミサル為從來ノ売掛金ヲ支払ハス奉天ノ我貿易商ハ一大打撃ヲ被ルニ至レリ而シテ此ノ間手持品ノ売捌キニ方リテハ売価ヲ密輸入品程度ニシタルタメ其ノ損失亦少ナシトセス

## 三、安東ニ於ケル密輸入取締ノ狀況

密輸入ノ取締リハ安東領事館、安東警察署、朝鮮總督府側ノ三者何レモ多少見解ヲ異ニセルヤニテ到底徹底的ノ取締リ不可能ナルヤニ仄聞セリ即チ安東領事館ハ岡田領事任在當時斯ル不正義ヲ默過スルニ於テハ日支ノ国交ニ障礙アリトナシ蔽ニ其ノ取締リヲ期スル一方密輸常習者ニ對シ警告ニ從ハサレハ退去命令ヲ發スル旨嚴達セリ之

レニ對シテ安東警察署ハ治外法權ヲ有スル現状ニ於テ支那税関ノ手先トナリ密輸入ノ取締リニ懸命トナル如キ如何ニモ愚ナルコトナリト暗ニ反對シタルモ領事館側ノ取締勵行ニ絶對反對ヲ唱フルコト能ハサルヤニテ爰ニ從來ニ此シ幾分取締ヲ嚴ニシタルモノノ如シ即チ從來警察側ニテ密輸ヲ発見シタルトキハ其ノ陸揚ケヲ禁シ密輸船ノ追放ヲナスニ止メタルヲ領事館側ノ取締態度硬化後ハ密輸ヲ発見ト同時ニ之レヲ海関ニ通告シテ正税納付ヲナサシムルコトニセリ然レトモ警察側ノ態度ハ前記ノ如ク支那税関ノ手先トナルコトヲ屑シトセサル結果其ノ取締リハ依然トシテ緩慢ナルノミナラス某警察幹部ノ如キハ仮リニ警察側ニテ日本人側ノ密輸取締リヲ嚴行スルモ其ハ單リ支那人ヲシテ有利ニ密輸ヲナサシムルノミト稱セルヤニ聞知セリ即チ支那人ハ安東海関ノ監視員ヲ巧ミニ買収シ大仕掛ケノ密輸ヲ行ヒツツアルモノノ如ク從ツテ單リ日本人側ノミヲ取締ルトキハ支那人ニ有利ナル立場ヲ得セシメ邦商ハ愈ヨ窮迫ストノコトニ屬セリ而シテ更ニ朝鮮總督府側トシテハ(勿論總督府ノ命ニヨルモノニアラスシテ官吏独自ノ考ヘナラン)現在密輸ヲ

業トスル鮮人ハ其ノ家族ヲ入レ約三千人ヲ有シ居レリ然ルニ一朝之レカ取締リヲ嚴行スル如キコトアランカ究極之等ノ徒ヲシテ不逞化セシムルコト必至ノ趨向タリ世人往々ニシテ密輸ヲ不都合ナリトスルモ世界何レノ地ヲ問ハス国境ニ於テ密輸出入ノ行ハレルハ敢テ不思議トセサルナリ故ニ單リ安東ノミ其ノ取締リヲ嚴行シ其ノ結果ハ三千名ノ鮮人ヲシテ挙テ不逞化セシムル如キ天下將ニ之レ以上ノ愚挙ハナシト稱シ居ルモノノ如シ

## 四、安東在住民ノ意嚮

安東ノ地ハ密輸出入ノ行レルコトニヨリテ繁榮シ行レサルコトニヨリテ衰微ストハ地方ニ於ケル有力者ノ悉ク稱スルトコロナリ從ツテ仮リニ警察側ニテ之レカ取締リヲ嚴行セントセハ忽チ衆人ノ怨府トナリテ到底在任シ能ハサルモノノ如シ歴代関東庁ノ警察官吏カ密輸取締リニ緩慢ナルハ確カニ此間幾多「デリケート」ノ事情ヲ有スルナラン

## 五、密輸入ニ對スル意見

以上ノ如クニシテ安東ニ於ケル密輸入ノ取締リハ容易ノ業ニアラサルナリ然モ現状ノ如ク約三千人ノ鮮人カ密輸

ニヨリテ衣食シ居ルモノトセハ之レカ根絶ヲ企図スルコトモ確カニ一考ヲ要スト認ム又更ニ如何ニ日本人ノミニ対シ取締リヲ厳行スルモ支那人カ海關ノ監視員ト結托シ巧ミニ密輸ヲ行ヒツツアル現状ニアリテハ一段ノ考慮ヲ要スルコト謂フマテモナシ畢竟安東ニ於テ密輸ノ盛ンニナル原因ハ海關稅ノ高率ナルニ職由スルモノニシテ例ヘハ地下足袋ニ見ルモ二月ノ新關稅實施前マテハ僅カニ五分稅ニ過サリシタメ密輸ヲ行フモノナク新關稅實施後一躍一割七分五厘ノ高率トナリタル結果爰ニ密輸入ヲナスニ至レルモノト認ム依テ之レカ根絶ヲ図ルニハ稅率ノ變更ヲ望ムコト能ハサルヲ以テ地下足袋ノ鑑定價格ヲ現在ノ半額以下即チ參拾五錢以内ニ切下ケ稅金ノ低減ヲナスヨリ他ニ方法ナシ偶々地下足袋ハ密輸入ノ條件タル第一輸入數量ノ多キコト第二海關稅率ノ高率ナルコト第三運輸上ニ至便ナル物ノ三要素ヲ具備シタルタメ今日ノ如ク密輸入ヲ盛ンナラシメタルニ外ナラスト雖モ將來ニ於テ此ノ種ノ條件ヲ具備スルモノ生センカ第二、第三ノ地下足袋ヲ生ムコト明カナリ此ノ意味ニ於テ今後稅率カ高率トナリ又ハ問題ノ國境關稅三分一減ニシテ撤廃ヲ見ンカ

層一層密輸入乃至密輸出ヲ盛ンナラシムルコト必然タリ現ニ安東市民カ海關稅ニシテ高率トナレハナル程安東市場ヲシテ繁榮ナラシムト稱シ居レルニ徴スルモ確カニ個中ノ消息ヲ窺フニ足レリ要スルニ安東ノ密輸出入ハ其ノ取締リノ極メテ困難ナルト相俟ツテ海關稅率カ高率トナリ若クハ鑑定價格カ高価トナレハ之レト正比例的ニ密輸出入ノ増加スルコトハ數ノ免レサル点ナリト認ム

98 昭和4年8月2日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

山本滿鐵總裁辭任にともなう理事の人事移動に際しては外務省關係者の推薦を求める意見  
具申

奉天 8月2日前発  
本省 8月2日後着

第四七四号

山本滿鐵總裁ハ先般社員全体及本官等ニ対シ留別ノ辭ヲ述ヘ帰朝シ不日正副兩總裁ノ辭表ヲ提出スルコト思考セラ  
ルル処今回ノ滿鐵總裁更替カ各理事ノ進退ニ波及スルカ如

キコトアリタル場合万一齋藤理事ノ辭表ヲ見ルカ如キコトアラハ其ノ後任ニハ是非外務省系統ヨリ御推薦アル様取計方希望ニ堪ヘス申上クル迄モナク出先外交機關トノ聯絡カ我滿蒙經營上極メテ緊要ナルモノニシテ右聯絡ハ滿鐵重役中ニ好ク外交ヲ理解スルモノ有無ニ依リテ左右セラルコト鮮カラス從テ該重役中ニハ常ニ少クトモ一兩人ノ外務系統出身者ヲ有スルコト何レノ方面ヨリ見ルモ必要ナリト思考ス本件ハ既ニ閣下ニ於テ御考慮中ノコトトハ存スルモ為念卑見電稟ス

99 昭和4年8月5日 在長春永井(清)領事より  
幣原外務大臣宛

北陵鐵道支線遮断事件に対する長春の學生連  
合会の抗議決議について

機密公第二五三号 (8月12日接受)

昭和四年八月五日

在長春

領事 永井 清〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

当地學生ノ神原農場鐵道排除問題ニ対スル策動等  
ニ関スル件

過般奉天ニ於ケル神原農場鐵道取除問題發生後各地ノ漢字新聞ハ我當局ノ態度ヲ批難シ一般民衆中ニモ本件ヲ以テ我對滿政策強硬手段ノ一表現ナルカ如ク蜚語スル者アリ当地長春城内省立第二師範學校生徒ノ如キモ此頃其ノ開校紀念日ニ當リ各學校生徒ノ同校參觀ヲ機トシ學生聯合会ヲ開催シテ外交後援ノ名ノ下ニ左記訳文ノ如キ決議ヲナシ輿論ノ喚起ニ努メタル趣ナリ

右報告ス  
記

學生聯合会ノ決議  
當局ノ交渉カ円滿ナル解決シ能ハサルトキ又ハ失敗ニ帰セハ東三省學生及全國一般民衆ニ通電以テ民衆ノ輿論ヲ喚起シ東三省當局ノ外交ヲ後援シ抗争ニ努メ益々一般日貨排斥ノ舉ニ出テ而シテ真ノ中日親善ノ為メ神原ノ取除キタル鐵道ヲ元狀ニ修復セシムルコト

本信写送付先 在支公使 在奉天 吉林 哈爾賓各總領事

100 昭和4年8月5日 在安東芝崎領事代理より  
幣原外務大臣宛

安東、新義州間密輸取締りは付属地内邦商保護の上からも必要との意見具申

機密第二四九号 (8月12日接受)

昭和四年八月五日

在安東

領事代理 芝崎 路可〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

密輸入貨物取締ニ関スル件

本件六月三十日附機密第二〇七号拙信ニ関シ本年一月乃至六月間新義州ヨリ安東ニ密輸入サレタル貨物ノ数量、価額等ヲ調査セル処朝鮮税関ト支那海関トノ輸出入統計ヲ比較対照スルニ新義州税関ヲ經由シ水路輸出サレタル貨物ハ左記ノ通護護靴(鮮人用)三十四万九千六百七十足、地下足袋八十二万六千五百八足アリ之レカ価額ト右二種ヲ除ク履物類及其他ノ商品一切ノ価額合計百九十万千五百五十六円ニ達シ此ノ輸入税ハ海関兩ニ換算シテ十七万七千五百三十八兩餘トナリタリ然ルニ同期間ニ於テ實際安東海関ニ納入セ

ル税金ハ僅ニ五千四十二兩餘ニ過キス差引残十七万二千四百九十六兩餘此ノ換算邦貨二十五万八千七百餘円ハ密輸入

ニ因ル脱税額ニシテ即チ水路輸入貨物ハ其ノ全輸入量ノ三分五厘ヲ除クノ外ハ悉ク密輸入サレタル次第ナリ右ノ如ク大量ノ密輸入行ル、カタメ安東ノ繁榮ハ密輸出入ノ多寡ニ比例スト一般ニ唱ヘラレ又家族ヲ併セテ三千餘ノ朝鮮人ハ直接之ニ依リ衣食スト称セラル、ニ至リ当地商工会議所側ニテモ之レカ取締ニ反対ノ意見ニ傾キ居レトモ国交上之ヲ捨テ置キ難キハ客月八日附奉天總領事発閣下宛機密公第六二二号往信ノ通ニ有之現ニ邦人ノ密輸入夥シキ結果支那人モ之ニ倣ヒ前記本年上半期ノ脱税額二十五万八千七百餘円ノ内約四割ハ支那人ノ密輸入ト称セラル為メ地下足袋ノ如キハ最近支那街ヨリ附属地内ニ逆流シ来リ之ト競争セムカタメ附属地側邦商ハ原価ヲ割リテ捨テ売セサルヲ得サル羽目トナリ終ニ別添写ノ通安東護謄製品同業組合ナルモノヲ設立シテ之ヲ防止セムトスルニ至レリ蓋シ該組合員自ラ招キタルモノトシテ寧ロ当然ノ帰結ト謂フヘキモ弊害ノ及フトコロ既ニ如斯ナルノミナラス支那側ニ於テ密輸入防止ノタメ水上公安局ノ力ヲ用イルカ如キコトアル場合ニハ我

カ警察官トノ間ニ事端ヲ醸スコト必定ナルヘキヲ以テ今ニ

於テ邦人ノ密輸入ヲ徹底的ニ取締ルノ必要ヲ感スル次第ナルカ日本警察官トシテハ取締ニ従事スヘキ法律の根拠ナキモ兎ニ角目下夜間ノ密輸入ハ之レカ為メ大体殆ト阻止スルヲ得タレトモ昼間ノミハ警察官ノ勤務ノ都合上手廻リ兼ヌルヨリ現在ニ於ケル密輸入ハ重ニ日中ニ行ハレ仲ニハ下級支那税関吏ト結托セルモノアリトノ説モアリ  
状況右ノ如クナルヲ以テ本官ハ之レカ取締協議ノタメ過般関東庁ニ出張シ事情逐一説明シ置キタレトモ尚此際同庁並ニ朝鮮總督府ト御協議ノ上充分ノ取締方何分ノ御配慮相成度此段申進ス

本信写送附先 在支公使 奉天總領事 牛莊領事 関東長官

編注 「千」の上に「九」の書き込み訂正あり

101 昭和4年8月(6)日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

孫科の瀋陽訪問の目的について

奉天 発

本省 8月6日後着

第四八〇号

孫科ハ昨五日夜祁大鵬同道突如当地発北平ニ引返シタリ同人来奉ノ用務ニ関シテハ目下取調中ナルカ東北交通委員會側ノ情報ニ依レハ(一)北寧鐵路ノ中央移管(二)東北交通委員會ノ中央移管等協議ノ為ナリト称セラルルモ四日着奉以来殆ト御馳走攻メノ姿ニテ緩ニ用務ヲ協議セル模様ナク旁今次ノ来奉ハ夫レトナク東北四省ノ一般鉄道状況ヲ視察シ前記二項ト共ニ将来鐵道国有統一ノ瀕踏ノ為ナラスヤト察セラ  
ル尚北平ヨリ帰寧ノ途次膠濟鐵道ヲモ視察スル趣ナリ  
支、天津、青島、濟南、上海、南京、哈爾賓、吉林へ転電セリ

102 昭和4年8月7日 在中国堀内(謙介)臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

中国外交部より安東、新義州間密輸問題に対し  
日本側密輸業者の取締り方照会越しについて

付記 八月八日付在中国堀内臨時代理公使より幣原

外務大臣宛機密第七一八号公信

安東、新義州間密輸取締りに関して日本側の  
協力を求める中国外交部来翰

北平 8月7日後発

本省 8月7日後着

第八九八号

本官発安東宛電報

第二号

外交部ヨリ八月一日附公文ヲ以テ概要左ノ通照会シ来レリ  
本件ニ付テハ六月三十日附機密第二〇七号大臣宛貴信七月  
八日附奉天発大臣宛機密第六二二号及十九日附同第六六  
二号公信報告ニ依リ概況諒承シ居ル処右支那側ニ対スル回  
答振ニ関シ現況ヲモ斟酌シテ何分ノ貴電御回報アリタシ  
財政部ノ来翰ニ依レハ総稅務司ヨリ安東六道溝地方ニ於テ  
ハ絶ヘス貨物脱稅事項アリ海關カ密輸入ヲ発見シタル際日  
本警官ハ之ヲ協助スルモ単ニ差押フルノミニテ關稅支払ノ  
上之ヲ放免シ居リ密輸者ニ対シ何等ノ処分ヲ為ササルノミ  
ナラス密輸貨物カ一度港岸ヲ離レ又ハ海關權力ノ及ハサル

安東六道溝地方密輸取締ニ関スル件

機密第一号

昭和四年八月八日

在支那

臨時代理公使 堀内 謙介

在安東

領事代理 芝崎 路可殿

安東六道溝地方密輸取締ニ関スル件

往電第二号ニ関シ外交部来翰原文写別添送附ス

本信写送附先 外務大臣 奉天

(別添)

拜啓陳者財政部ノ照会ニ依レハ總稅務司ヨリ安東六道溝一  
帶地方ニハ屢々關稅通脫事件アリ稅關ハ同地ニ於テ密輸品  
ヲ押収セムトスル際日本警察ハ現場ニ於テ協助スルモ単ニ  
貨物ヲ抑留スルニ止マリ關稅ヲ完納セハ之ヲ放還シ決シテ  
該密輸事件ニ対シテ何等ノ処分ヲ加フルコト能ハサル現狀  
ニテ若シ密輸貨物カ一旦陸揚セラレ或ハ稅關ノ權利ノ及ハ  
サル地点ニ至レハ日本警察ハ更ニ捜査ニ対シ協助ヲ与フル

所ニ至リタル際ハ日本警官ハ再ヒ協力捜査ヲ肯シセス為ニ  
不法ナル人民ハ之ヲ奇貨トシ盛ニ密輸ヲ行ヒツツアル趣報  
告アリタルニ付テハ日本公使ニ交渉セラレタキ旨申越アリ  
タリ査スルニ海關カ密輸者ヲ発見シタル場合ハ人及貨物ヲ  
抑ヘ相当ノ処分ヲ為ス事トナリ居ル処若シ總稅務司具申ノ  
如キ事情ナルニ於テハ稅務上受クル損失大ナルニ付貴代理  
公使ヨリ安東領事ニ命シ今後海關カ密輸ヲ発見シタル場合  
ハ海關規定ヲ尊重シ法ニ依リ処分シ以テ脱稅ヲ防ク様致度  
シ云々

大臣、奉天へ転電セリ

(付記)

機密第七一八号

(8月16日接受)

昭和四年八月八日

在支那

臨時代理公使 堀内 謙介〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

昭和四年八月八日附在安東芝崎領事代理宛機密第一号信写  
送附

ヲ肯セス之レカ為メ不法ノ人民ハ之ヲ奇貨トシ關稅ヲ通脫  
シ密輸ノ情弊日ニ益々多キヲ加フル趣報告アリタルニ付在  
支日本公使ト折衝シ脱稅ヲ防止アリ度キ旨申越シ有之候查  
スルニ稅關ノ密輸品押収ノ際ハ密輸者及貨物トヲ一併抑留  
シ適當ニ処分ヲ加フレハ此種弊害ヲ匡救シ得ル次第ナルガ  
若シ同地ニ於ケル實情總稅務司ノ報告ノ如シトセハ稅務上  
多大ノ損害ヲ被ムルヘキニ付在安東領事ニ対シ今後若シ同  
地稅關ニ於テ密輸貨物ヲ押収シタル場合ハ稅關規定ヲ尊重  
シテ法ニ依リ辦理シテ脱稅ヲ防止セシムル様御訓達相成様  
致度ク希望ニ堪ヘス候尚ホ何分ノ結果御回示相成度此段照  
会得貴意候

中華民國十八年八月一日

敬具

王正廷

大日本代理公使 堀内 謙介殿

編注一 「外交部来翰原文写別添送附ス」の箇所に「八月一

日附公文ヲ以テ外交部ヨリ別添送文ノ通り照会シ来  
レル処右支那側ニ対スル回答振ニ関シ何分ノ儀御回  
報相成度」との書き込みあり。

二 原文省略。約文のみ採録。

103 昭和4年8月9日 在海龍坂内分館主任より  
幣原外務大臣宛

満鉄線に対抗のため瀋海鉄道運賃値下げについて  
公第三三一号 (8月21日接受)

昭和四年八月九日

在海龍

分館主任 坂内 彌代記〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

瀋海吉海兩鉄道連絡ニ関スル件

客月中瀋海鉄道及吉海鉄道ノ代表者ハ兩鉄道ノ連絡方ニ関  
シ協議ヲ遂ケタル趣ナルカ右ニヨレハ滿鉄線ト競争センカ  
為メニ吉林及奉天間ヲ往復スルモノニ對シテハ大ナル割引  
ヲ行フコトナリ其ノ結果三等汽車賃ニ於テ滿鉄ニ於テ滿  
鉄駅ニ比シ約一円ノ廉価ト為ス由ナリ  
右御参考迄報告申進ス

本信写送付先 奉天 北平 吉林 滿鉄

105 昭和4年8月13日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛

十間房陸軍用地問題の最終的解決について

機密公第七二八号 (8月19日接受)

昭和四年八月十三日

在奉天

總領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

日支係争十間房陸軍用地ニ関スル件

日露戦役当時支那人紀鳳台ナル者露探トシテ我軍ニ直接間  
接ノ妨害ヲ加ヘタル為メ我軍ハ同人所有ノ在十間房煉瓦工  
場敷地ヲ没収シタル処明治四十年四月ニ至リ支那側ヨリ右  
土地ハ紀鳳台ノ所有ニ非サル旨ヲ当館ニ抗議シ来タリタル  
カ我方ニ於テハ明確ナル反証ナキ限り還附シ得ストシテ之  
ヲ撥付ケタル儘爾来十餘年間何等ノ問題ナク其儘トナリ居  
リタル処大正六年支那側ヨリ右土地ノ内南寄八十五畝ハ李  
聘三ナル者ノ所有地ナリトテ之カ返還方再三申出タルモ  
我陸軍ハ紀鳳台ノ所有地トシテ没収シタル所以ヲ以テ反駁  
シ其後大正十年十月関東軍經理部ニ於テハ本件土地ヲ兒玉

104 昭和4年8月10日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

安東警察の取締り躊躇に対する批難について

奉天 8月10日後発

本省 8月10日後着

第四九〇号

在支代理公使発安東宛電報第二号ニ関シ

本件密輸入取締方ニ付テハ本官発閣下宛機密公第六二二号  
公信申進メノ次第モ有之安東領事ニ於テモ折角取締勵行中  
ノコトト存スルモ其ノ後諸方面ノ情報ヲ綜合スルニ安東警  
察側ハ領事館側取締ノ趣旨ヲ途中ヨリ緩和シ効果アル取締  
ヲ躊躇シ居ル模様ナル処万一本件ノ如キ不正營業ヲ等間ニ  
附シ置クニ於テハ其ノ弊害甚シキモノアルノミナラス本邦  
人ノ不正業ヲ見習ヒ支那人ノ密輸入激增ノ事実ニモ顧ミ結  
局我カ対滿經濟ノ發展ニ資スルコト無キ次第ニ付此ノ際嚴  
重取締リ断行方安東領事ニ御訓達ト共ニ関東長官ニ對シテ  
モ確ト御示達相成ル様御取運ヒ請フ  
支、安東ニ転電セリ

佑二ニ払下ケ陸軍トノ關係ヲ断チ兒玉ハ李聘三ニ若干ノ金  
額ヲ与フルコトトシテ李ト転租契約ヲ結ヒタルカ滿鉄ハ該  
土地カ附屬地ニ接壤シ居ル關係上附屬地ニ編入ノ目的ヲ以  
テ之ヲ兒玉ヨリ買収シタリ

其后支那側ハ右手続ニ缺陷アルノミナラス元来該土地ハ紀  
鳳台ノ所有ニ非サルヲ以テ我陸軍側ノ没収ハ根本ニ於テ錯  
誤アリトシテ抗議シ爾来支那側官憲及李聘三ヨリ屢々返還  
方要求アリ又馮雲芳其他二三ノ者ヨリ本邦人利権屋ヲ通シ  
滿鉄及当館ヘ該土地ノ權利ヲ主張シ来タレル者モアリ其関  
係頗ル複雑ヲ極メ容易ニ解決ヲ告ケス日支双方互ニ其權利  
ヲ主張シ兩國係争地トシテ永ク懸案トナレリ

前陳ノ如ク事件紛糾シ解決ノ見込ナキ為メ昨年来李聘三ハ  
已ムナク従来ノ主張ヲ緩和シ何等カノ名義ヲ以テ滿鉄ヨリ  
金六万円見当ノ涙金ヲ得テ示談方折合ヒ来タレルニ付本年  
四月滿鉄側ト協議ノ上滿鉄ヨリ涙金五万五千円ヲ李ニ与ヘ  
之ト引換ニ李ヨリ一切ノ權利ヲ滿鉄ニ提供シ示談解決スル  
コトトシ本年五月二十二日当地滿鉄地方事務所ヨリ李ニ金  
五万五千円ヲ交付シ爾後苦情ヲ申出テサルヘキ旨ノ一札ヲ  
取り付ケ円滿解決ヲ告ケタリ

然ルニ交渉員ハ右当事者間示談解決ヲ耳ニスルヤ更ニ本件土地ニ関シテハ李ノ權利ニ対シ他ノ支那人ヨリ現ニ訴訟繫争中ナル旨ヲ以テ滿鉄李間示談ニ異議ヲ申出テ来レルモ当方ニ於テハ本件土地ニ付支那側ハ十数年来李聘三ノ土地トシテ返還方要求シ来レルモノニシテ既ニ滿鉄李間解決ヲ告ケタル以上支那側ヨリ異議ノ申出ヲ受クヘキ限リニ非サル理由ヲ以テ之ヲ拒絶シ一方滿鉄側ハ右土地ノ工作ニ着手ノ氣勢ヲ示シタル処支那側ハ樺原農場事件ニモ鑑ミ我方ノ態度ヲ考慮シ從來ノ如キ抗議ノ無効ナルヲ感知シ自己ノ面子ノ立チ得ル範圍内ニ於テ折合ハントスル態度ニ傾キ妥協方申出テ種々折衝ヲ重ネタルカ滿鉄側ハ元来本件土地ヲ附属地ニ編入セントスル希望ヲ有シ支那側ハ商埠地内ノ永租地トセンコトヲ主張シ居ルヲ以テ本館ニ於テ兩者ヲ折衷シ支那側ハ内部關係ニ於テ商埠地内ノ地畝トシテ取扱フモ日本側ハ之ヲ認メス一般開放地ニ於ケル永租地トシテ之ヲ取扱フコトトシ落着ヲ告ケ八月三日ヨリ右土地ニ於ケル滿鉄ノ工作ヲ開始シ二十数年間日支懸案ノ土地トシテ世人ノ注目ヲ喚キタル陸軍用地問題モ茲ニ圓滿解決ヲ告ケタル次第ナルカ本件交渉ニ付支那側モ樺原農場事件ニ鑑ミ誠心誠意ヲ

至リ吉林駅ヲ含ム吉長用地間近迄敷設ヲ完了シタリ右吉長用地ニ隣接シテ吉敦ノ用地アリ吉林官憲ハ東支問題勃発後吉敦局ニ対シ軍事輸送上必要ナリト称シテ海吉線ヲ右吉敦用地迄延長方申込ミ吉敦側同意ノ下ニ目下其ノ土工ヲ進メツツアリ右完成ノ上吉敦用地内ニ仮停車場ヲ設クルニ於テハ吉長又ハ吉敦トノ間ニ軌条ノ接続ハナキモ旅客丈ハ大シタ不便ナク吉林駅トノ間ニ連絡セシメ得ヘシ

(二) 叙上ノ如ク海吉カ吉敦用地迄進出シタル後或ハ吉林官憲ニ於テ吉敦側ヲシテ吉長側ニ対シ右用地内ニ吉林駅ヨリノ引込線敷設ヲ要求セシメ来ルヤモ計リ難シト思考セララルニ付其ノ際ハ(イ)右吉敦用地ハ吉敦局自身トシテハ何等引込線敷設ノ必要ナキコト(二)右引込線ヲ敷設スルトキハ事実上海吉線トノ接続線トナルヘク夫ハ滿鉄側ノ承認シ難キ処ナルコトヲ理由トシテ右申出テヲ拒絶スル様篤ト吉長滿鉄代表代理(目下中川代表一時帰朝不在中)ニ申聞ケ置キタリ

(四) 御承知ノ通吉敦ハ吉長ノ吉林駅ニ於テ吉長ト連絡シ居リ海吉ト吉敦トノ軌条接続ハ吉長用地ヲ使用スルカ若ハ

以テ折衝ニ努メ王交渉員モ数回本官ヲ来訪シ解決ニ努メ其努力ノ跡歴然タルモノアリ又当館清野領事モ亦熱心ニ本件交渉ニ当リ圓滿解決ニ尽シタル功顕著ナルモノアルニ付特ニ茲ニ附記ス  
右報告ス  
本信写送付先 在支公使

106 昭和4年8月15日 在吉林川越総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

中国側による吉海、吉長両線連絡工事の進捗状況について

吉林 8月15日後発  
本省 8月15日後着

第一一四号

貴電第一六号ニ関シ

(一) 海吉、吉長連絡ニ関スル支那側対滿鉄側トノ會議成立ヲ見ルニ至ラス

(二) 支那側ニ於テハ海吉線全通後漸次吉林市外北側ヲ迂回シテ吉長線ノ吉林駅ニ至ル約九軒ノ軌条敷設ヲ進メ最近ニ

之ヲ「クロス」スルニ非サレハ地理的ニ不可能ナル状態ニアル次第ナルカ万一支那側ニ於テ任意ニ吉長用地内ニ軌条敷設ヲ進メ又ハ之カ「クロス」工事ヲ企テントスルカ如キ場合ハ本官ニ於テ直ニ之カ中止方支那側ニ抗議スヘキニ付実地ニ就キ絶ヘス支那ノ態度ヲ嚴重監視スル様吉林駅ニ於ケル日本側職員ヘ篤ト申含メ置キタリ  
右貴電第一六号ト共ニ在支公使、奉天、上海、南京ヘ暗送セリ

107 昭和4年8月15日 吉田外務次官より  
小村(欣一) 拓務次官宛

安東、新義州間密輸の取締りについては朝鮮  
總督府および関東庁の協力が必要につき両官  
庁に適切な方策を求める照会

亜二機密第一二二号

昭和四年八月十五日

外務次官 吉田 茂

拓務次官侯爵 小村 欣一殿  
新義州安東局密輸入ニ関スル件



本件ニ関シ在安東領事代理及在奉天総領事ヨリ夫々別紙写  
ノ通報並稟請ノ次第有之タル処此種密輸行為ハ諸般ノ関  
係上放任シ置キ難キニ付関係領事館ニ於テ折角手配中ナル  
モ之カ徹底の取締ヲ期スル為メニハ朝鮮總督府及関東庁側  
ノ協力ニ俟ツ所多キ次第ナルニ付委曲別紙<sup>(省略)</sup>ニ就キ御承知ノ  
上右両官庁ニ於テ適切ナル取締ノ手配ヲ講セラルル様可然  
御取計相成度此段照会申進ス

108 昭和4年8月21日 在チハル清水領事より  
幣原外務大臣宛

洮索線の起点および起工式について

本第二一七号 (8月28日接受)

昭和四年八月二十一日

在齊々哈爾

領事 清水 八百一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

洮索線ノ起工ニ関シ報告ノ件

洮索線ノ起点ハ興安区屯墾公署側ニ於テハ洮安ヲ起点トス  
ル意嚮ヲ有シ居レル次第ハ五月三日附本機密第一一五号報

歳三唱来賓ノ演説等アリ盛会裏ニ散会セリ  
式後直チニ土工ニ着手シ即日数十丈ノ土盛ヲ行ヘリト云フ  
右報告ス

本信写送附先 在露大使 在支公使 奉天、哈爾賓各総領

事 滿洲里鄭家屯各領事 関東庁 齊々哈

爾滿鉄公所

109 昭和4年8月24日 在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

鐵道の国民政府管理に関する張学良との会談  
につき孫科談話に関する新聞報道について

上海 8月24日午後  
本省 8月24日後着

第一〇〇一号

二十四日「ノースチャイナ、デーリー、ニュース」ハ南京  
二十二日発路透通信トシテ同日孫科カ新聞代表者ニ為シタ  
ル談話要領左ノ如ク報シ居レリ委細公信

一、最近奉天ニ於ケル孫科張學良協議ノ結果全国ノ鐵道ハ  
国民政府ノ直轄ノ下ニ置カルル事トナレリ從テ從前ハ鉄

告シ置キタル処本二十一日ノ黑龍江民報ハ洮索線ノ起点及  
起工ニ関シ大要ノ通り報導セリ

洮索線ハ測量ノ結果中途ヨリ洮安ヲ起点トシテ起工シ墾屯  
公署モ同処ニ移転スルコトニ決定セル処洮南ノ農商各界ハ  
之ニ反対シ各代表ヲ夫々張學良及鄭作華ノ下ニ派シ銀三十  
萬元ノ出資ヲ条件トシテ洮南ヨリノ起工方種種懇請セリ之  
カタメ洮南起点説再ヒ擡頭セシカ同処ヲ起点トセハ初段ハ  
地勢過度ニ低ク末段ニハ墜道開鑿ノ要アル個所アリ洮安ヲ  
起点トスルニ比シ里程三十五公里長ク經費ニ於テ百餘萬元  
ノ冗費ヲ要スヘク且ツ他方ニハ土工夫八十數日前ヨリ統統  
洮南ニ来着セルニ同処ハ約束ノ銀三十萬元ヲ容易ニ捻出ス  
此上延期ヲ許サル状態トナレルニ付鄒督辦ハ張司令長官及  
東北交通委員會ニ打電シ此際断然洮安ヲ起点トシテ起工ス  
ルコトトシ本月十五日洮安ニ於テ起工式ヲ挙行セリ会場ハ  
洮安県城ヲ距ル東北約一支里将来洮索線洮安駅ノ建設セラ  
ルヘキ地点ニ設ケラレ鄒督辦以下同鉄道職員一同並ニ来賓  
トシテ第二十旅旅長黃師嶽、洮昂、齊克岡鉄路局長萬國  
賓、前黑龍江剿匪司令彭金山、洮安県知事徐鴻馭及各方面  
ノ代表ヲ合セ無慮五六千名参集シ鄒督辦ノ訓辭彭司令ノ万

道部ニ関係ナキ交通委員會ノ管理タリシ京奉線モ国民政  
府ノ管轄ニ帰シ山海關ヲ境トシテ二分セラレ居タル同鉄  
道モ今ヤ一体トナルニ至レリ

二、孫科ハ自身及滿鉄ノ調査ニ基キ全国ノ鉄道改良ノ為ニ  
ハ六千萬元ヲ要スト信シ居レル処右内訳ハ京漢線三千萬  
元(黄河、鉄橋修理費千五百萬元ヲ含ム)津浦線千五百  
萬元京綏線六百万元京奉線五百万元粵漢線北段四百万元  
ナリ

三、從來北方ノ鉄道ハ京漢京綏京奉隴海等ノ諸線ヲ通シ毎  
月二百萬元以上ヲ地方軍団ニ支払居レル処最近ノ編遣会  
議ニ於テ斯ル慣習ハ直ニ廃セラルヘキコトヲ提議セラレ  
タルカ本月ヨリ京奉及隴海ハ右支払ヲ停止シ京漢ハ一部  
ノ支払ヲ停止スルニ至ルヘシ

四、京綏線ハ平均収入八十萬元ナリシ処近年三十萬元ニ減  
シタルカ右ハ軍事当局ノ課税重課ニ依ル運賃値上ノ結果  
商人等カ鉄道ニ依ル貨物輸送ヲ行ハサルニ至レル為ナリ  
五、中央執行委員會第二全体會議ニ於テ匪賠償金英因分  
ノ三分ノ二ハ粵漢線ノ完成ニ又露因分ノ三分ノ二ハ隴海  
線ノ完成ニ使用スヘキコトヲ決議セラレタルカ右建設事

業ヲ明年度ヨリ開始セラルヘシ

六、<sup>(3)</sup>滿洲ニハ適當ノ港ナキ為從來輸出貨物ハ大連又ハ浦潮ヲ經由シ居レルニ鑑ミ政府ハ葫蘆島築港ヲ計画シ同島及奉天並天津間ノ連絡鐵道ヲモ考慮シ居レルカ右築港費用ノミニテモ少クトモ千五百萬元ヲ要スヘシ

七、各鐵道借款整理計画モ進行中ナルカ全國鐵道總延長ハ七千哩ナルニ對シ借款ハ約六億五千萬ニ達シ支那借款總額ノ約三分ノ一ヲ占メ居レリ政府ハ委員ヲ任命シ本問題ヲ研究セシメ居レルカ支那財政改革ノ為ニハ國債ノ償還ヲ行ハサルヘカラス

八、東支鐵道ニ對シテハ其ノ管理權ヲ取得セサルヘカラス同鐵道收入ハ年二千万ト算セラレ居ル処現在負債約二百万アリ同鐵道收入ハ從來露國側ニ於テ共產宣傳ノ為使用シ居タル次第ナリ云々  
北平、南京、奉天ヘ転電セリ

110 昭和4年9月21日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

安東、新義州間密輸取締りに関して中国税関

奉天 発  
本省 9月21日後着

第五七七号

往電第五四一号ニ関シ

其ノ後引続キ交渉セルモ解決ヲ見サルト同時ニ其ノ後鐵嶺、遼陽ニ於テモ同一事件發生セルヲ以テ一昨十九日森岡ヲ交渉署ニ遣シ支那側ノ意向ヲ探ラシメタル処交渉員ハ本件ハ安東方面ニ於ケル密輸入ノ激増ト密接ノ關係ヲ有シ東省政府ハ海關側ノ熱心ナル希望ト国民政府ノ訓令ニ基キ税関ノ取締ト相俟テ省内各地税局ニ於テモ到着輸入商品ニ對シ相当取締ヲ勵行スルニ至リタル次第ナルカ其ノ方法トシテハ城内輸入貨物ニ對シ其ノ都度放行單ノ添付ヲ求ムル外明案無ク尤放行單添付ノ原則ヲ變更セサル範圍内ニ於テ日本商人側ノ不便ヲ緩和スル方法アラハ互ニ研究シ度シト語リタル趣ナリ

然ル処元來日本商人ハ一定數量ノ貨物ヲ一定地ニ輸入シタル後市況其ノ他ノ關係上之ヲ分割シテ附屬地域内若ハ近接地ニ運搬販売スルヲ例トシ從テ城内ニ分割輸送スル貨物ノミニ對シテ輸入地税関ヨリ放行單ヲ取付クル事ハ実行困難

援助の必要について

別電 九月二十一日着在奉天林總領事より幣原外務大臣宛第五七七号

安東、新義州間の密輸の取締り強化は日本の對滿經濟發展の上から必要との意見具申

奉天 9月21日後発  
本省 9月21日後着

第五七六号

本官發關東長官宛電報

第一一四号

安東県ニ於ケル密輸入取締上我方ニ於テ有効且誠実ナル援助ヲ支那税関ニ与フル事緊要ナル旨別電第五七七号ノ通外務大臣宛意見具申ニ及ヒタルニ付委細右ニテ御承知ノ上貴庁ニ於テモ至急手配方可然御配慮ヲ請フ

大臣、支、ニ転電シ安東、遼陽、鐵嶺、上海、南京ヘ郵送セリ

(別電)

ノ事情アルヲ以テ本官ハ今後トモ從來通ノ方針ニ基キ抗議ヲ継続スル所存ナルモ交渉上当方ノ議論ハ暫ク別問題トシ實際的ニ考フルニ安東県ニ於ケル大規模ノ密輸入ハ往電第四九〇号ヲ以テ卑見具申セル通果シテ意外ノ方面ニ面白カラサル影響ヲ起シ支那側ニ絶好ノ口実ヲ与ヘ斯ノ如キ困難ナル交渉問題ノ主因ヲ為スニ至リタル処今後若シ安東ノ現状ニシテ改善セラレサル限り続々各方面ニ之カ反動ヲ見ルニ至ルヘク延ヒテ我對滿經濟ノ發展上全般的の利益ヲ來スヘキ懼アルニ付此ノ際安東ニ於テハ早キニ及ンテ有効且誠実ナル援助ヲ支那税関当局ニ与ヘテ嚴重取締ヲ勵行セシメ支那側ヲシテ我方ノ態度ニ安心ヲ抱カシムル事極メテ緊要ト存ス

支、上海、關東長官、安東、遼陽、鐵嶺ニ転電セリ

111 昭和4年10月14日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

安東、新義州間の密輸は日本貿易に悪影響を及ぼすにつき至急取締が必要との意見具申

奉 天 10月14日後発  
本 省 10月14日後着

第六三〇号

往電第五七七号ニ関シ

宇佐美領事ノ来奉ヲ求メ事情ヲ聴取シ之カ対策ヲ講究セル  
処安東ニ於ケル日本品ノ脱税輸入ハ概算ニ依レハ新義州輸  
出額ノ過半ニモ達スルカ如ク夜間ノミナラス白昼ニ於テモ  
殆ント公然密輸ヲ決行シ居ルモノニシテ斯ル状態ヲ誘致セ  
ルハ新税率ノ実施ニ依ル輸入税ノ激増ヲ動機トシ(一)安東ノ  
満鉄附属地ハ日本側ニ於テ絶対的行政権ヲ有スル關係上江  
岸以外ニ於テハ支那側税関ノ職權行使ヲ認メ居ラサルコト  
(二)日本側ニ於テハ密輸入ニ対シ何等取締法規ナキ為メ関東  
庁警察官ハ職權ヲ以テ之ヲ取締リ得サルコト(三)本来本件取  
締ノ義務ヲ有スル支那税関ニ於テモ監視員ノ不足脱税者ノ  
暴力的反抗ニ対スル恐怖其ノ他ノ事情ニ依リ充分ナル取締  
ヲナシ得サル事等ニ起因スルモノナル処安東ニ於ケル脱税  
ノ大規模ニ行ハレ居レルコトハ既ニ一般周知ノ事実ニシテ  
本年八月堀内代理公使ヨリ安東領事宛電報第二号ノ通中央  
政府ニ於テモ之ヲ重大視シ居リ又当方面ニ於テモ屢次電報

112 昭和4年10月16日

在奉天林総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

安東、新義州間密輸取締りに関し日本側抗議  
に対する奉天交渉員の回答について

別 電 十月十六日発在奉天林総領事より幣原外務大

臣宛第六三八号

中国側内地税局は放行単の確認による関税の  
補徴方法無き旨奉天交渉員の回答

奉 天 発

本 省 10月16日後着

第六三七号

往電第五七七号ニ関シ

本官へ当地交渉員ヲ通シ嚴重抗議ヲ継続シ居リタル処本月  
十五日附公文ヲ以テ当地交渉員ヨリ大要別電第六三八号ノ  
通当地財政庁ノ見解ヲ回答シ来レリ

南京、関東庁、安東、牛莊、鐵嶺、遼陽、長春、吉林ニ転  
電セリ

(別 電)

ノ通放行單問題ニモ關聯シ安東ノ一部ヲ除キ直接間接ニ日  
本貿易ノ大局ニ影響ヲ及ホシツツアル事情ニテ之カ解決ハ  
緊急ヲ要スト思料セラレ

斯ル不正行動ハ固ヨリ之ヲ認容スヘキモノニ非スシテ支那  
側ノ要求ヲ待タス日本政府トシテ自発的ニ取締ヲ勵行スル  
事大局上得策ト存セラルルニ付テハ之カ徹底の取締ヲ期ス  
ルカ為安東領事館ニ於テ当館館令居留民取締規則(明治四  
十二年五月一日館令第一号)第十五条ノ如キ館令ヲ制定ス  
ルト共ニ関東庁ニ於テモ大正三年関東都督令第一七条ニ倣  
ヒ一般密輸入取締規則ヲ制定シ領事館管轄区域ト滿鉄附属  
地ト同一步調ヲ執リ不正業者ノ取締ヲ勵行シ他面右日本側  
ノ公正ナル態度ヲ支那側ニ示シ海關自体ノ取締ヲ勵行セシ  
ムル事肝要ト思料セラル幸關東長官最近上京ノ事ナレハ同  
官トモ篤ト御打合ノ上右実行方御配慮ヲ得度ク右ニ御異存  
ナキニ於テハ関東庁ト具體的協議致度キニ付何分ノ儀御回  
電ヲ請フ

奉 天 10月16日後発  
本 省 10月16日後着

第六三八号

大連税務司ノ来輸ニ依レハ近來不正商人ハ常ニ種々ノ方法  
ヲ設ケ脱税スルニ依リ各税局ニ命シ嚴重ニ之カ取締ヲ行ヒ  
若シ海關ノ放行單ナキモノ及放行單数量ノ符合セサル輸入  
品ニ対シテハ一律ニ関税ヲ補徴シ以テ脱税ヲ防キ弊害ヲ除  
去セラレ度キ旨述ヘアリ又日本領事ノ来輸ニ依レハ輸入貨  
物ノ海關通過ノ場合ニハ其ノ販売地ヲ一々指定シ難キコト  
アルモ海關通過ノ場合ニハ必ス其ノ仕向地ヲ指定スヘキ規  
定アリ從來何等問題アリシモノニアラス又輸入貨物ハ一定  
ノ地ニ蓄ヘ市場ノ状況ニ応シ之ヲ買地ニ分送スルヲ以テ其  
ノ一部ノ貨物ニ対シ之ニ相当スル放行單ヲ備ヘ得ストハ一  
応ノ理由アルモ其ノ輸入品ノ種類数量等ハ地方税局ニ於テ  
之ヲ検査スルヲ得サル結果其ノ内容カ果シテ納税済ノ物ナ  
ルヤ否ヤヲ確カメルヲ得サルヲ以テ税局ニ於テハ貨物ト放  
行單ト符合スルヤ否ヤヲ見ルノ外他ニ弁法ナシ云々

前電ノ通転電セリ

113 昭和4年10月16日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

中国側に密輸入取締りの強化を要請すると  
もに日本側においても至急の対策が必要との  
意見具申

奉 天 10月16日後発  
本 省 10月16日後着

第六三九号

往電第六三八号財政庁ノ意見ハ税局ノ立場ヨリセハ相当ノ理由ナキニアラサルモ海関カ其ノ動機ノ如何ハ暫ク之ヲ別トシ海関自体脱税防止ニ関シ最善ノ措置ヲ講セスシテ内地税局ニ其ノ協助ヲ求メ徴税ノ系統ヲ乱シ海関発給ノ放行單ヲ無意味ニ了ラシメ居ル結果ハ脱税防止ニ何等効果ヲ来ササルノミナラス関税納付ノ貨物モ脱税貨物ト同様ノ取扱ヲ受クル虞アル為却テ正当営業者ヲ不利ニ陥レ益々脱税ヲ奨励スルニ至ル傾アリテ右海関ノ内地税局ニ対スル協助要求ノ結果ハ単ニ税制ノ統制ヲ案スニ止ラス正当営業者ヲ不安ナラシメ居リ且条約上正当ニ輸入サレタルニ拘ラス単ニ貨單ノ符合セサルノ理由ヲ以テ不法ノ制限ヲ加フルハ之ヲ承

総領事 岡田 兼一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

吉林全省言論機關聯合会ノ東北外患排除警告文配

布ニ関スル件 (琿春分館報告)

本件ニ関シ吉林全省言論機關聯合会ニ於テハ日本ノ吉会線敷設交渉ニ対シ各地ニ外患排除警告文ヲ配付中ノ由ニテ九月二十一日附当地方支那商務会及其他各団体宛郵送シ来リタルモノ左記御参考迄

記

東北外患警告文

東北ハ全ク日露兩國ノ勢力下ニ支配セラレアルモノノ如ク常ニ彼等ノ侵略ヲ受クル状態ナレハ此際我國民ハ特別ノ注意ト警戒ヲ要ス現下赤露ハ中東鉄問題ニ藉口シ東北ヲ侵略シ日本ハ又中露紛争ノ此ノ機ニ乗シ吉会線問題ヲ解決スヘク強制的ノ要求ヲ為シ居ル状態ナルカ此ノ東北ニ於ケル外患ハ当局並各界ニ於テ如何ニ措置スヘキ方針ナルヤ元來東北ハ特別区域ヲ為シ外國人ニ於テモ之ヲ特別区域視シ一切ノ交渉事件ニ於テモ専ラ地方政府之ニ当ルヲ以テ動モスレハ外交上失敗ヲ招ク状態ニ至レルハ從來ノ事実ノ証明スル

認シ得サルコト勿論ナルヲ以テ当館ニ於テハ当地交渉員ヲ通シ之等ノ諸点ヲ指摘シ其ノ反省ヲ求ムヘキモ他面関東庁及安東領事ヲ通シ兩地ノ海関ニ対シ叙上ノ理由ヲ開陳シ地方税局ニ対スル協助ノ申入ヲ取消サシムル様致度ニ付關係ノ向ニ御示達相成度右ト相俟チ往電第六三〇号密輸入防止ニ関シ至急対策ヲ講シ日本側ノ態度ヲ表明スルコト肝要ト存セラル尚往電第六三八号貨物ト放行單トヲ符号セシメムトスル大連稅務司ノ計画ハ實際上実行不可能ノ事情アルニ付委細當業者ヲシテ直接税關側ニ陳情セシムル意向ナリ  
転電先、往電第六三七号ノ通

114 昭和4年10月19日 在間島岡田(兼一) 総領事より  
幣原外務大臣宛

吉林全省言論機關聯合会の吉会鉄道敷設反対  
を唱える「東北外患警告文」配布に関する琿  
春分館報告

機密第一二〇八号 (10月24日接受)

昭和四年十月十九日

在間島

処ナリ

最近二十年來東北当局ノ外交方針タルヤ排露親日主義ヲ取リツツアルカ之レ即チ当局者ノ觀察ヲ誤リタル処ナリト謂ハサル可ラス何トナレハ当局ニ於テ赤露ノ東北ニ対スル赤化主義宣伝ノミ防止シ日本ノ滿蒙侵略政策ヲ放任シタル所以ナリ日本ノ滿蒙政策ハ漸次南滿時代ヲ離レ東滿時代ニ接近シ来リ滿蒙連絡ト日本經濟界ノ最近距離タル吉敦、吉会鉄道問題ヲ解決シ而シテ日本海ヲ以テ中心トシ滿蒙並ニ東洋大陸ノ經濟脈ヲ掌握セムトスル政策ヲ講シ居レリ彼等ノ吉会連絡成功ノ暁ハ第一步ニ東滿延辺ノ富源ヲ開発シ自然の經濟勢力ヲ伸展シ西ハ吉長ニ連鎖シ「ソヴイエト」、ト共ニ北滿ノ勢力ヲ争ヒ南ハ南滿線ト連絡シ併セテ東蒙ト合應シ東南ハ朝鮮ト直通シ入滿ニ付テ最モ便宜ノ通路ヲ開キ而シテ安奉併進ノ交通上ノ大動脈ヲ開ラクヘク清津、羅津、雄基ニ築港シ吉会線ト連絡シ東滿ノ貨物ヲ吸集スルト共ニ将来其ノ勢力ヲ浦潮ニ至ル迄延長セムトスル計画ト野欲ヲ以テ今回中露問題緊急ノ機ニ乗シ吉会線問題解決方ヲ迫リツツアルヲ以テ東北当局及各界ニ於テハ此ノ外患ニ付拳ツテ彼等ノ我国侵略防止ニ努メラレ以テ國民ノ恥辱ヲ雪

クヘキ様覚悟セラルヘシ

九月二十一日

吉林全省言論機關聯合會告白

本信写送付先

北平公使、奉天、吉林、哈爾濱各總領事、

長春、鐵嶺、安東各領事、通化分館主任

朝鮮総督、咸北知事

朝鮮軍第十九師兩參謀長、羅南憲兵隊長、

延吉間島兩派遣員

管内各分館主任、各署長、分署長

115 昭和4年10月24日

在奉天林総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

安東、新義州間密輸取締りに関して関東庁の関

係官憲との協議要請に対する対応につき請訓

奉天 10月24日後発

本省 10月24日後着

第六四九号

往電第六三〇号ニ関シ

未タ御回訓ニ接セサル処過般来奉セル三浦外事課長ノ談ニ

依ルニ関東庁ニ於テハ本件密輸入ヲ徹底的ニ取締ルカ為ニ

ハ取締法規ヲ制定スル外新義州ノ關係上朝鮮總督府側ノ協

力ヲモ必要トスルノ見地ニ基キ右法規制定ニ先立チ奉天並

ニ安東領事関東庁及朝鮮總督府間ニ具體的打合ヲ遂クル為

安東ニ於テ關係官憲ノ会合ヲ開キタキ意嚮ノ由ニテ太田長

官モ右案ニ基キ外務省側ト協議ノ事ニ内定シ居ル趣ナルニ

付テハ至急長官ト御打合セノ上何分ノ儀御回電アリタク現

下在滿邦商ノ実状ニ鑑ミ本件解決緊急ヲ要スト思考セラル

ルニ付重ネテ稟請ス

関東長官、安東へ転電セリ

116 昭和4年10月28日

在奉天林総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

安東、新義州間密輸の徹底的な取締りを上京

中の関東長官に申し入れ方要請

奉天 10月28日後発

本省 10月28日後着

第六五五号

往電第六四九号ニ関シ

### の関税補徴の口実となっている旨の報告

奉天 10月28日後発

本省 10月28日後着

第六五七号

往電第六三九号ニ関シ

当地商工会議所カ大連税関長ニ付テ確メタル処ニ依レハ本

件放行単問題ハ

(一)大連税関カ本年七月初遼寧財政庁長ニ対シ普蘭店、瓦房

店間鉄道ニ依ラサル密輸入多キヲ指摘シ密輸入防止上瓦

房店税捐征收ノ協助ヲ求メタルニ際シ放行単ナキモノハ

脱税品ト認メ取扱ハレ度キ旨申込ミタルニ発端スルモノ

ニシテ

(二)遼寧財政庁ハ其ノ結果八月一日附ヲ以テ輸入貨物ニシテ

放行単ナキモノ若クハ放行単ト貨物トノ符合セサルモノ

ハ関税率ニ照シ関税ヲ補徴スヘキ旨各地方税局長ニ訓令

シタル旨大連税関ニ通知セリ

(三)右財政庁ノ措置ニ対シ大連税関ハ十月九日附ヲ以テ海關

税ノ徴収ヲ他ノ機関ニ転託スルコトハ承認シ難ク前ニ瓦

房店税捐征收局ノ協助ヲ求メタルハ単ニ脱税者ノ取締ヲ

117 昭和4年10月28日

在奉天林総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

関東長官、安東、支、上海へ転電セリ

上海ヨリ南京へ転電アリタシ

者ニ対シ充分監視其ノ他必要ノ措置ニ出ツヘキ旨言明セリ

配慮相成度シ尚平安北道谷知事幸ヒ滯奉中ナリシヲ以テ本

件密輸問題ノ経緯並ニ利害得失ヲ説キ其ノ協力ヲ依頼シタ

ルニ安東側ニテ在留禁止処分ヲ実行セラルルニ於テハ処分

止処分実行方篤ト申入レ置キタルニ付追テ同庁側ヨリ上京

中ノ長官ニ電稟ノ運ニ至ル事ト思考セラルルニ付テハ本省

ヨリモ長官ニ対シ右ノ方針ニテ至急協議ヲ進メラルル様御

ナク断行スルニ於テハ密輸阻止上相当ノ実績ヲ挙げ得ヘシ

ト信セラルルヲ以テ北滿旅行ヨリ帰任ノ途ニアル三浦外事

課長ノ立寄ヲ求メ関東庁側ニ対シ右ノ次第伝達ノ上本件禁

止処分実行方篤ト申入レ置キタルニ付追テ同庁側ヨリ上京

中ノ長官ニ電稟ノ運ニ至ル事ト思考セラルルニ付テハ本省

ヨリモ長官ニ対シ右ノ方針ニテ至急協議ヲ進メラルル様御

ナク断行スルニ於テハ密輸阻止上相当ノ実績ヲ挙げ得ヘシ

ト信セラルルヲ以テ北滿旅行ヨリ帰任ノ途ニアル三浦外事

課長ノ立寄ヲ求メ関東庁側ニ対シ右ノ次第伝達ノ上本件禁

止処分実行方篤ト申入レ置キタルニ付追テ同庁側ヨリ上京

中ノ長官ニ電稟ノ運ニ至ル事ト思考セラルルニ付テハ本省

ヨリモ長官ニ対シ右ノ方針ニテ至急協議ヲ進メラルル様御

ナク断行スルニ於テハ密輸阻止上相当ノ実績ヲ挙げ得ヘシ

求メタルニ過キサル趣ヲ以テ財政庁ニ向ヒ各税捐征收局ニ於ケル関税ノ補徴ヲ取消サレタキ旨請求シタルモ

(四) 財政庁ニ於テハ十月二十二日附回答文ニ依リ脱税ハ瓦房店ノミナラス營口、安東及哈爾濱ノ各地ニ亘リ一概ニ処理シ難キモノアルヲ以テ今後ニ於テモ各税局ヲシテ一体ニ協助セシメ放行単無キモノ及放行単ト貨物トノ符号セサルモノハ貨物ヲ差押ヘ之ヲ輸入地ノ税関ニ通知シ各関ヲシテ自由処置セシムル様取計フヘキ旨通知セルニ止リ今日ニ至ル迄依然内地税局ニ於ケル関税補徴ヲ停止スルニ至ラス本件内地税局ニ於ケル関税ノ補徴力条約違反ニシテ本邦貿易上深甚ノ影響アルハ累次電報ノ通ノ処本件ノ発端前記(一)ノ通大連税関側ノ発動ニ基ク事明トナリタルヲ以テ滯奉中ノ三浦外事課長ト協議ノ上

北代税関長ヲシテ一方遼寧財政庁側ニ対シ更ニ強硬ニ前記(三)ノ趣旨ヲ主張セシムルト共ニ他方同人ヲシテ総稅務司ニ内地税局ノ関税補徴ノ経緯ヲ通報セシメ総稅務司又ハ財政部ヨリ直接遼寧財政庁ニ対シ右補徴中止命令方努力セシムルコトニ打合セタリ

素ヨリ本官トシテハ当地交渉員ヲ通シ遼寧財政庁ノ違法処

119 昭和4年11月1日

在上海重光総領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

宋子文に面会の際に中国側内地税局の関税補徴問題と安東、新義州間密輸問題を切り離して処理する要ある旨の申し入れについて

上海 11月1日後発  
本省 11月2日前着

第一二六三号

奉天省ニ於ケル放行単問題ニ付テ十一月一日宋財政部長ニ面会ノ上事態ヲ詳細ニ説明シ(右ヲ説明セル「メモ」ヲモ要求ニ依リ渡シ置ケリ)放行単ノ従来通用スル様取計ハレタキ旨ヲ述ヘ特ニ密輸入ノ点ニ付テハ我方ニ於テモ之カ防止ニ関シ支那側当局ト協力ヲ咨マス現ニ之カ為ニ必要ニシテ適切ナル手段ヲ執リツツアル次第ナルカ之ト放行単ノ問題トハ全然切離シテ処理スルノ要アル点ニ付念ヲ押シ置キタルニ財政部長ハ好意的態度ヲ以テ本官ノ要求ヲ聴取シ篤ト研究ノ上必要ノ措置ヲ執ルヘシト述ヘタリ

支、奉天、青島、南京へ転電セリ

置ニ対シ引続キ嚴重交渉中ナルモ本件ニ関聯シ既ニ海関及遼寧財政庁間内部ノ関係ニ機微ナル行懸リヲ生シ居リ地方的解決容易ナラスト認メラルルニ付当方交渉ト併行シ上海又ハ南京ニ於テ中央政府ニ対シ嚴重交渉ヲ進メラルルコト肝要ト思考ス委細郵報

支、上海、南京、関東庁、安東へ転電シ哈爾濱、牛莊へ暗送セリ

118 昭和4年10月30日

幣原外務大臣より  
在奉天林総領事宛(電報)

安東、新義州間密輸の徹底的取締り認可について

本省 10月30日後5時50分発

第一六〇号

貴電第六三〇号ニ関シ

貴見ノ通本件徹底的取締方針ニ異存無キヲ以テ関係者協議ノ上具体案ノ攻究ヲ進メラレ度館務ノ都合付クニ於テハ関東庁発貴官宛電報外合第六四号會議ニ参加セラレ差支ナシ安東ニ転電セリ

120 昭和4年11月2日

太田(政弘)関東長官より  
幣原外務大臣宛(電報)

安東、新義州間密輸の取締りに関しては当面現状規則内で対処する旨の関東庁における會議結果について

旅順 11月2日後発  
本省 11月3日前着

外第八二号

宇佐美領事ヨリ

奉天宛貴電第一六〇号ニ関シ関東庁ニ於テ會議(奉天ヨリ森島領事出席)ノ結果密輸入取締ノ為新規則ヲ制定スル事ハ容易ナラサルニ依リ直ニ実行シ得ル方法ヲ執ルヲ適當ト認メ又附属地内ニ於ケル我方取締ト同時ニ附属地外ニ於ケル支那側取締ヲ徹底スルニ非サレハ邦商ニ及ホス影響極メテ重大ナルニ付此ノ点ニ関シテハ先ツ以テ支那海関及朝鮮税関等ト協議シ有効ナル方法ヲ講スル必要アリト雖モ其ノ他ニ関シテハ左ノ方法ヲ執ルヲ適當ナリト認メタリ

一、南京政府ニ対シ密輸入取締ノ責任ハ支那海関ニアル事ヲ力説シテ附属地江岸及附属地外双方ニ於ケル徹底的取締

締方ヲ申入レ同時ニ我方ニ於テモ好意ヲ以テ出来得ル限  
リ援助スヘキ事ヲ申入ルル事総務司奉天官憲及安東海  
関ニ対シテモ同様申入ルル事

二、在安東本邦人ノ密輸入通関營業者及密輸入ニ従事スル  
者ヲ警察ニ召喚シ日本官憲カ支那海関ノ取締ニ対シ充分  
ノ援助ヲ為シ密輸入ノ徹底的取締ヲ為ス旨ヲ告ケテ嚴重  
ナル戒告ヲ与ヘ若シ改悛セサルニ於テハ在留禁止処分ヲ  
為ス事アルヘキ旨ヲ警告シ並ニ商工会議所等ニ対シ右政  
府ノ方針ヲ示達シ密輸入阻止ニ努メシムル事

三、警察ニ於テハ支那海関ヲ援助スル為朝鮮側ノ協力ヲ求  
メ密輸入ヲ監視シ密輸入貨物ヲ発見シタル時ハ関税ヲ納  
入セシムル等適當ノ方法ヲ講スル事（支那側ノ発見シタ  
ル時ハ支那官憲ニ於テ没収スル事勿論ナリ）

四、附屬地江岸一里二十町ニ亘リ前項取締ヲ完全ニ行フカ  
為ニハ現在ノ警察人員ニテハ到底不十分ニシテ殊ニ結氷  
期ニ於テハ氷上ノ密輸入取締ノ為一層ノ人員ヲ要スルカ  
故ニ関東庁ニ於テ新ニ最少限度四万三千円ノ豫算ヲ要求  
シ臨時警察官約六十名ヲ増置スル事但シ右増員実現迄ハ  
不取敢現在ノ警察官人員ノ許ス範圍ニ於テ不完全作ラ右

121 昭和4年11月4日

幣原外務大臣より  
太田関東長官宛（電報）

密輸入取締規則制定困難なる理由につき問合せ

本省 11月4日後6時発

第六六号

貴電外第八二号ニ関シ

宇佐美領事へ伝ヘラレタシ

取締規則ノ制定ハ容易ナラサル趣ノ処右ハ如何ナル点ニ於  
テ困難トセラル、次第ナリヤ其辺ノ事情詳細折返シ回電ア  
リ度シ

122 昭和4年11月5日

中谷（政一）関東庁警務局長心得より  
吉田外務次官他宛

北陵鉄道支線遮断事件につき満州青年連盟に  
よる榊原支援の陳情請願書について

関機高収第三一二二九号ノ二

（11月11日接受）

昭和四年十一月五日

関東庁警務局長心得

拓務次官殿

取締ヲ行フ事

五、右取締上朝鮮側警察及税関ノ協力ヲ求ムル事其ノ具体  
的方法ハ出先ニ於テ改メテ朝鮮側ト協議スル事

六、密輸入防止ノ為必要アル時ハ密輸入関係者ニ対シ関東  
庁及領事館ニ於テ在留禁止処分ヲ為ス事

七、關東州及其ノ他ノ場所ニ於テモ同趣旨ニ依リ取締ヲ行  
フ事

八、本取締ハ前記各方面ノ協力ヲ要スルヲ以テ本取締ヲ実  
効アラシムル為各方面トモ一定ノ時日ヨリ一斉ニ着手ス  
ル事

右ハ現状ニ於テ新規則ヲ制定スル事ナクシテ為シ得ル最大  
限度ト思考スルニ付関東長官ト御協議ノ上至急右措置実行  
方御回訓相成ルト共ニ関東長官ヨリ関東庁へ同様訓令アル  
様御配慮相成度尙同時ニ前記一ノ趣旨支那側ニ申入方々々  
関係ノ向へ御訓令相成度関東長官へハ関東庁ヨリ本電ト同  
趣旨ヲ請訓スル筈

支、奉天、上海、南京へ転電セリ

内閣書記官長殿

外務次官殿

内務省警保局長殿

奉天総領事殿

関東軍参謀長殿

関東憲兵隊長殿

關東州駐在海軍武官殿

満鉄情報課長殿

在京関東長官殿

奉天榊原農場問題ノ真相顛末並支那官憲ノ不法占

拠ニ依ル占有回収ノ陳情請願書配布

東京市本郷区森川町一番地弁護士中島忠利ハ奉天富士町六  
番地榊原政雄ノ代理人トシテ左記ノ如キ奉天榊原農場問題  
ノ真相顛末並支那官憲ノ不法占拠ニ依ル占有回収ノ陳情請  
願書ノ主旨ヲ発表シ各方面ノ意見ヲ徴シ之カ声援ヲ依頼シ  
ツツアルカ満洲青年聯盟等ニ於テハ之ニ対シ相当応援ヲ為  
ス模様ナリ

記

奉天榊原農場四千五百餘万坪ハ其ノ位置東三省ノ首府人口

六十万ノ奉天城ヲ包囲シ帝国満蒙発展ノ総根拠地トシテ無  
二ノ重要ナル既得権ナルニ樺原代理人原口細梅等ノ権限外  
ノ行為ト支那官憲ノ欺罔手段トニヨリ空シク不法占拠セラ  
レ之カ權利保全ノ手續ハ從來手落ナク取運ヒ置キタル一切  
ノ顛末並右不法占拠回収ノ請願ヲ陳情シタルニ依リ何分ノ  
尽力御示教賜リタシ日清日露兩役ノ絶大ナル犠牲ハ当然滿  
蒙ヲ帝国ノ特殊權益地域トナセルコトハ夙ニ列強ノ公認セ  
ル処ニ有之加之日本ノ經濟的投資ハ実ニ二十億万円ヲ超ヘ  
其ノ經濟的施設ト文化的貢獻トハ二千万ノ漢人ト二百万ノ  
土着滿人トヲ如何ニ幸福ナラシメシカハ是亦中外ノ等シク  
認ムル処ナルニモ不拘支那側力カ対価トシテ我等ニ酬ル  
モノハ不法ナル排日、排貨、商租權設定ノ妨害、商租地ノ  
不法奪取、朝鮮人驅逐、不当課税等傍若無人ノ挙動ハ言語  
ニ絶シ然モ其法制ニ至リテハ民、商、刑法タルヲ問ハス督  
軍ノ一存ニテ改廃セラレ内実ハ無法律ノ状態ニテ第一線ニ  
立ッ私共ハ帝国ノ満蒙ニ対スル工業立国策の正当ノ要求ニ  
從ヒ穩健ナル純經濟的進出ニ勸ムルハ勿論ナルモ苟クモ条  
約ニ依ル此ノ特殊權益地域ニ於テ個人ノ正当ナル既得權行  
使サヘ猶支那側ニ不法蹂躪セラルル場合勢ヒ本国ノ軍事的

密輸取締りに関して新規格令の設定は手続き  
上困難との報告

安東 11月6日後発  
本省 11月6日後着

第五七号

関東庁宛貴電第六六号ニ関シ

會議ニ於テハ密輸取締ノ責任ハ素々支那側ニ在リ我方ニ於  
テハ之ヲ援助スル建前ナルヲ以テ法規ヲ制定シテ我方自ラ  
取締ノ責任ヲ負フハ得策ニ非ストノ意見出テタルノミナラ  
ス殊ニ関東庁側ノ取締法規ヲ制定ストセハ警察法規ヲ以テ  
スル事困難ニシテ況ヤ輸入品全部ニ対スル取締法規ノ制定  
ハ事重大ニ付勅令ノ形式ニ依ラサルヘカラス加フルニ罰則  
ヲ含ム關係上自然樞密院ノ諮詢ヲ要スヘキヲ以テ案ノ通  
過ニ付テ懸念アルノミナラス当面ノ急ニ応スル能ハサルヘ  
シトノ理由ヨリ差当リ直ニ実行シ得ヘキ方法ヲ考究シタル  
次第ナリ但シ現地ノ状況トシテハ取締法規無クシテ同地ノ  
如ク大規模ナル密輸入ニ対スル取締ノ徹底ヲ期スルハ相当  
困難ナルヘキニ付其ノ辺豫メ御含ミ置ヲ請フ

関東庁長官、奉天へ転電セリ

政治的背景ニ頼リ以テ諸般ノ施設財産ヲ擁護セサル可カラ  
サル次第ニアリ是レヨリ支那側ノ蒙ヲ啓ク所以ト存セラレ  
海外発展ヲ国是トスル帝国政府ハ又必スヤ右行動ヲ是認セ  
ラルコトト思料セラル樺原ハ自己ノ權利ノミニ執着シテ  
利益ヲ壟断セントスルモノテ無ク本件土地ノ權利ト帝国ノ  
悩ミ居ル商租条約施行細則ノ設定、吉会鉄道敷設其他ト交  
換スルヲ得ルトセハ喜ンテ此東三省ノ死命ヲ制スル右四千  
五百餘万坪ヲ抛棄スヘク斯ノ如クセハ帝国ノ滿蒙大陸政策  
ハ立所ニ基礎確立スル次第ニテ若シ又右ノ交換ニ依ラス本  
件土地実力回収成功ノ曉ハ其ノ価格數億万円ニ達スヘキニ  
付樺原ノ素志ニ基キ從來本件ニツキ深ク恩顧ヲ蒙リタル二  
三先輩ノ方々ト協議シ思想善導事業、海外發展事業、在滿  
朝鮮人救済事業其他ニ寄附及贈与致スヘク今ヨリ豫メ声明  
致シ置ク可ク斯ル事情ノ下ニ不肖受任シタル次第右御賢察  
ノ上本件陳情請願ニ対シ何分ノ御示教御尽力ヲ賜リタク  
云々

123 昭和4年11月6日 在安東宇佐美(珍彦)領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

124 昭和4年11月6日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

新法規制定による安東、新義州間密輸の取締  
り策は密輸の責任が日本側にあるとの印象を  
与える為に採らざる旨の報告

奉天 11月6日後発  
本省 11月6日後着

第六七四号

閣下発安東宛第六六号ニ関シ

同會議ニハ関東庁側ヨリ両局長、殖産、外事、文書各課長  
安東署長出席シタル処同庁側ノ意見トシテハ  
一、密輸入取締ノ責任ハ元來支那側ニアリ今回密輸問題ノ  
重大化セルモ支那側ノ取締不徹底ナルニ基キ我方トシテ  
何等責任ナキ所ナルニ拘ラス我方ヨリ進ムテ法規ヲ制定  
シテ迄支那側ニ対シ事実上取締ノ責任ヲ負フカ如キハ得  
策ニ非スシテ我方ノ建前トシテハ支那側海關ヲ援助スル  
ヲ以テ最大限度トスヘシ

二、大正十五年滿洲産米密輸出取締ニ関シ罰則ヲ附シタル  
庁令ヲ發布シタル際ニモ関東庁限りニ於テ罰則ヲ附シタ



ル庁令ヲ發布スルノ可否ニ付同庁内部ニ相当議論アリタルニモ拘ラス結局右庁令ノ制定ヲ見タルハ関東庁ト奉天総領事トノ協議ニ先立ち奉天総領事ト支那側官憲トノ間ニ(一)支那側ニ於テ護照料ヲ低下スルコト(二)日本側ニ於テ密輸入ノ取締ヲ勵行スルコトニ話合成立シ居タルヲ以テ領事館ノ支那側ニ対スル立場ヲ考慮シ庁令發布ニ決定シタル次第ナリ加之今回ノ密輸取締法規ハ前回ノ如ク品種ニ制限ナク且没収ニ関スル罰則ヲ附セムトスル点ニ於テ関東庁限りノ責任ヲ以テ制定スルコト至難ニシテ少クトモ法制局ニ附議スルヲ要スヘシトノコトナリシ趣ノ処本官トシテハ

一、安東ニ於ケル密輸入ハ同地領事ヨリ別ニ電報スヘキ通想像以上ニ大規模ナルニ拘ラス我方ニ於テ何等取締ヲ為サス事実上黙認スルカ如キハ國際信義上ノ問題ナルト共ニ既ニ在滿商人全般ニ亘リ取引上悪影響ヲ及ホシ居ル以上我方トシテ自發的ニ取締ヲ為スコト至當ニシテ右取締ノ為必要アル場合法規ヲ制定スルモ何等支那側ニ対シ責任ヲ負フ所以ニ非ス

二、既ニ米、武器「モルヒネ」等ノ特種品ニ関シ庁令ノ存

長ヲ往訪シ懇談シタル処北代ハ之ヲ地方的問題トシテ取扱ヒ度キ意向ニテ中央政府ノ問題トスルコトヲ躊躇スル模様アリシカ系統ヲ異ニセル財政庁ト税関長トカ意見ノ扞格ヲ来シタル場合之ヲ中央ノ問題トシテ解決ヲ計ルコト当然ニシテ又重光上海総領事ハ既ニ財政、外交兩部長ニ対シ本件交渉ヲ開始シタルノミナラス最近ノ機会ニ於テ総稅務司ニモ申入ルヘキヲ以テ大連稅関長トシテハ總稅務司側ヨリ本件ニ関シ質問ヲ受クルニ先立ち進ムテ報告ノ上之カ解決方ヲ進言スル方得策ナルヘキ旨説示セル結果北代モ之ヲ諒トシ遼寧財政庁ニ対シ本年十月九日附公文ノ趣旨ヲ更ニ敷衍力説スルト同時ニ元來放行單ナルモノハ商人間ニ於テハ税金ノ徴収証又ハ証明書ノ如キ性質ヲ有スルモノニアラスシテ荷物積込許可証ノ性質ヲ有スル税関内部ノ書類ニシテ條約上ニモ根拠ナキモノナルコトヲ説述シ其ノ反省ヲ求メ他方右ノ次第ヲ詳細總稅務司ニ報告シ中央ヨリモ本件解決促進方進言スヘキヲ約セリ

支、奉天、安東、上海、南京ニ電報セリ

在スル以上一般輸出品ニ付テモ其ノ行為カ不正ナル以上ハ庁令ヲ制定スルモ右ハ単ニ程度ノ相違ニ止マルヘク法制局等ニ附議スルモ通過必スシモ至難ナラサルヘシト思考スルモ事実上ノ問題トシテハ法制局等ニ附議スルコトトナラハ勢ヒ遷延ヲ免レス目前ノ急ニ応スルヲ得サルヘキニ付差当リ関東長官宛大臣宛外第八二号ニ付御詮議アリタク右ト別個ニ法規上庁令發布ノ当否如何ニ付御考究ヲ進メラルコトト致度シ

支、上海、南京、関東庁、安東へ電報シ牛莊、鐵嶺、遼陽、長春、吉林、哈爾濱へ暗送セリ

125 昭和4年11月8日 太田関東長官より  
幣原外務大臣宛(電報)

中国側内地税局の関稅補徴問題は国民政府中  
央との交渉問題とすべきとの意見具申

関東庁 11月8日後発  
本省 11月8日後着

外第八五号

奉天宛大臣宛第六五七号末段ニ関シ七日外事課長北代税関

126 昭和4年11月13日 幣原外務大臣より  
在安東宇佐美領事宛(電報)

安東、新義州間密輸の取締り強化は当面、関  
東庁からの人員増派により行う旨関東庁に要  
請について

本省 11月13日後5時20分発

第四三号

貴電第五七号ニ関シ

貴地ニ於ケル取締ノ勵行ハ遷延ヲ許ササルモノアリト認メラル、ニ付差当リノ措置トシテ大体関東庁発本大臣宛電報外第八二号ノ方針ニヨリ嚴重取締ルコト、致度ニ付至急實施アリタシ尤モ警察官六十名臨時増員ノ件ハ豫算ノ關係上見込ナキヲ以テ関東庁ヨリ遣線増派セシメラル、様致度尚関東庁來電外第八二号ヲ以テ申出ノ方法中支那側ニ対スル措置トシテ密輸取締ノ責任ガ支那海關ニ存スルコトヲ申入ル、ハ当然ナルモ此点ヲ力説スルニ過キ支那側ニ対シ恰カモ我方ニ於テハ取締ニツキ誠意無キカノ感触ヲ与フルコトアラハ右ハ当方ノ本意ニアラサルコト勿論ナルニツキ支那側ノ注意ヲ喚起スルニ当リテハ此点特ニ注意ヲ払ハル、

様致度シ

関東長官ト協議スミ

奉天、関東庁、北平、上海、南京へ転電セリ

127 昭和4年11月13日

在安東宇佐美領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

安東、新義州間の密輸取締りに関して新義州

税関に対して協力要請について

安東 11月13日後発

本省 11月14日前着

第六〇号

往電第五九号ニ関シ

十一月京城ニ於テ本官関東庁中谷警務局長及小川殖産課長ト共ニ朝鮮総督府関係官ト会合関東庁発閣下宛電報第八二号ノ次第ヲ説明シ本件取締ニ付朝鮮側殊ニ新義州税関ノ協力ヲ希望シタル処総督府側ニ於テモ右大体方針ニハ異議ナク而シテ其ノ方法ニ付テハ今回出張前本官新義州税関長ト協議ノ際同税関長トシテハ総督府ノ諒解ヲ得ルニ於テハ例ヘハ安東密輸入ノ嫌疑アル貨物ニ対シ新義州税関ニ於テ警

ついで

機密公第七四五号

(11月29日接受)

昭和四年十一月十七日

在吉林

総領事 石射 猪太郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

吉同鉄道測量状況ニ関スル件

吉同鉄道ノ一部タル方正珠河間ノ測量終了ニ関シテハ八月十八日附拙信機密公第五四三号報告ノ通りナルカソノ後測量費参万五千元ヲ以テ引続キ珠河吉林省城間約五百支里ノ測量ニ着手シ既ニ永吉県缸窰(吉林省城ヨリ約百支里)迄ヲ完了シタル趣ニテ十一月中ニハ缸窰、吉林省城間ノ測量ヲ完了スル見込ナリト云フ尚本鉄道ノ設計並測量ヲ担任セシテ工事務易ナル為メ軌条車輛等鉄道材料購入ハ土地平坦出来得ル限りノ節約ヲ行フ時ハ約屯千万元ヲ以テ同区間ヲ敷設シ得ヘク沿線ノ諸施設ハ通車後漸次着手スルコトトシ明春ヨリ起工一ケ年ヲ以テ完成ノ豫定ニテ過般之カ実行方省政府ニ建議シタルカ対露軍事ニ失費多端ノ折柄同省政府

告ヲ与ヘ輸入ノ上ハ安東海関ノ輸入「パーミット」ヲ提示

センコトヲ求メ若シ之ヲ提示セサル時ハ爾後其ノ者ニ対シ輸出免許ヲ与ヘサルコトスルカ如キ方法ヲ採リ度キ意見ナリシヲ以テ此ノ種ノ方法ニ対スル総督側ノ諒解ヲ求メタル処総督府側トシテハ右ハ稍々税関ノ権限ヲ超ユル嫌アルヲ以テ直ニ之ニ同意シ難ク兎ニ角更ニ攻究ヲ遂クヘキモ實際上税関ノ手心ニ依リ相当効果ヲ挙げ得ヘキヲ以テ具体的方法ノ詳細ハ当方ニ於テ新義州税関ト打合スコトシテ可ナリトノ意見ナルニ付テハ前頭第八二号稟請ノ方針御決定ノ上ハ朝鮮側殊ニ新義州税関ニ於テ当館及当地警察ト聯絡シ充分本件取締ニ協力方総督府ニ御通達相成度其ノ上当方ニ於テ新義州税関ト実行方法協議スルコト致度シ尙本月(脱)頃着京ノ筈ナル関東庁警務局長及殖産課長ヨリモ事情御聴取相成度シ

奉天、関東庁長官へ転電シ在支公使、上海へ暗送セリ

128 昭和4年11月17日

在吉林石射(猪太郎)総領事より  
幣原外務大臣宛

吉林、珠河間の鉄道敷設予定地の測量開始に

ハ之カ実行ヲ躊躇シ居ル趣ナリ

右報告ス

本信写送附先 北平 奉天 哈爾賓 間島 長春 関東長

官

129 昭和4年11月19日

幣原外務大臣より  
在安東宇佐美領事宛(電報)

安東、新義州間密輸問題に関する関東庁側と

の会談の結果について

本省 11月19日後6時発

第四五号

往電第四三三号ニ関シ

本月十六日関東長官(警務局長同席)ノ来訪ヲ求メ満洲ニ関スル事柄ニツキ種々話合ヲ遂ケタル際貴地密輸入取締ノ件ニ付テモ協議シタルガ長官ニ於テハ差当リ前記往電ノ主旨ニ依リ取締ルコト、シ模様ヲ見度シトノコトナリシニ付本大臣ハ之レヲ諒トシタル上大袈裟ナル密輸入依然トシテ止マサルカ如キコトアラハ国際信義上面白カラサルハ勿論正當ノ手続ヲ履ム邦商ハ尠カラサル迷惑ヲ受クル次第ニ付

仮令取締ノ結果附屬地ノ繁榮ニ累ヲ及ホス虞アリトスルモ右ノ如キ一時的現象ニ顧慮スルコト無ク嚴重取締ヲ加ヘ密輸關係者ニシテ身分地位等之レ有ル場合ニモ必要ニ応シ容赦ナク在留禁止処分ニ付スル等一般ノ覺醒ヲ促スコトト致度又此際右方針ヲ宣明セル論告ヲ出スカ如キコトモ内外ニ對シ極メテ効果アル一方法タルヘシト思考スル旨述ヘタル処長官モ全然同感ナリシ次第ニ付貴官ハ右御含ミノ上関東庁側トモ協議ヲ重ネラレ取締上萬遺憾無キヲ期セラレタシ北平 奉天 上海 南京ニ転電セリ

130 昭和4年11月19日 在中国堀内臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛

安東、新義州間密輸に関する国民政府外交部

照会に対する回答について

機密第一〇六七号

昭和四年十一月十九日 (11月25日接受)

在支那

臨時代理公使 堀内 謙介〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

安東地方密輸取締ニ関スル件  
本件ニ関シ貴電第三三七号ヲ以テ御訓令ノ次第アリタルニ付別紙写ノ通王外交部長宛回答シ置キタルニ付右ニ御承知相成度  
本信写送附先 上海 奉天 安東 南京

(別紙)

第四八号

以書翰致啓上候陳者安東六道溝地方密輸入取締ノ件ニ関シ八月一日附貴翰ヲ以テ御申越ノ次第致敬承候  
同地方ニ於テ密輸入ノ行ハルルコトハ帝國政府ノ等シク遺憾トスル処ニシテ從來ト雖右取締ニ関シ当該官憲ヲシテ貴國官憲ニ協力セシメ来リタル次第ナル処査スルニ密輸入取締ノ責任ハ専ラ貴國海關ニ存シ從テ帝國官憲ノ活動ノミヲ以テシテハ是ヲ如何トモスル能ハサル儀ニ有之候然レトモ此種不法行為ノ繼續セラルルコトハ帝國政府ノ看過シ難キ処ナルヲ以テ最近在安東帝國領事ニ對シ朝鮮總督府側ト協力シ貴國海關援助ノ為至急嚴重取締方ヲ訓令シタル次第ニ有之候

就テハ右御承知ノ上貴國政府ヨリモ当該海關ニ對シ右徹底の取締実行方御訓令相成以テ右密輸入取締ノ完全ヲ期スルコトト致度右帝國政府ノ訓令ニ基キ回答申進旁茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候  
敬具

昭和四年十一月十九日

日本帝國臨時代理公使 堀内 謙介

國民政府外交部長 王 正廷殿

131 昭和4年11月22日 在安東宇佐美領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

幣原、太田會議の結果にそつた密輸入取締り

方針を在地居留民に説示について

安東 11月22日後發

本省 11月23日前着

第六一號

貴電第四五号ニ関シ

先ツ新義州税関長ト本件取締上ノ援助及聯絡方法ニ付打合セテ遂ケタル後関東庁発閣下宛電報外第八二号ノ二及三ノ趣旨ニ基キ二十日警察署長ヨリ密輸入品運搬人ノ頭株タル

内地人二名鮮人十一名並此等ニ貨物ヲ委托シタル邦商十三名ヲ召喚シ徹底の取締ノ方針ヲ説示スルト共ニ將來ニ對シ嚴重ナル警告ヲ与ヘ次テ二十一日商工會議所會頭及輸入組合理事ヲ出頭セシメ署長ヨリ同様政府ノ取締方針ヲ告ケ一般邦商ヲシテ今後過ナカラシムル様尽力方要求シタル上同日ヨリ非番警官ヲモ使用シ取締ノ実行ニ着手セリ  
在支公使、奉天、上海、南京ヘ転電セリ

132 昭和4年11月25日 幣原外務大臣より  
松田(源治)拓務大臣宛

安東、新義州間密輸取締りに関して関東庁の

協力を重ねて要請について

亜二機密第二七五号

昭和四年十一月二十五日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

拓務大臣 松田 源治殿

新義州安東密輸入取締方ニ関スル件

本件ニ関シ八月十五日附亜二機密第一一二号公信ヲ以テ朝鮮總督府及関東庁ニ於テ協助力ニ付手配セシメラレ度キ旨

当省次官ヨリ貴省次官宛照会致置キタル処其後密輸業者ハ愈其数ヲ増加シ日支關係上到底黙止シ難キ事態トナレルヲ以テ關係領事ニ於テ関東庁側ト協議ノ上目下嚴重取締ノ措置ヲ採リツ、アル処尚方ニ於テモ本月十六日上京中ノ関東長官ノ来訪ヲ求メ右取締ニ拘ラス附属地ヲ根拠トシ依然トシテ大袈裟ナル密輸入行ハレ而カモ帝国官憲カ情ヲ知ツテ黙認スル如クナルニ於テハ対支關係上並対滿貿易發展上面白カラサル次第ニ付此際取締ニ依リ仮令附属地ノ繁榮ニ累ヲ及スコトアルモ右ハ一時的現象ニ止マルヘキヲ以テ之ヲ顧慮スルコトナク取締ヲ勵行シ之カ為ニハ密輸業者ニシテ相当身分地位等アル場合ニモ容赦ナク在留禁止処分等ノ方法ニ依リ断乎タル態度ヲ以テ不正業者ノ根絶ヲ計ルヲ要スヘキ旨懇談ヲ遂ケ当省ヨリハ右在安東領事ニ対シ訓令シ置キタルニ付テハ右ノ次第朝鮮總督府ニ御伝達ノ上同府側ニ於テ新義州税関其他關係官憲ヲシテ在安東領事館及同警察署ト聯絡セシメ本件取締ニ付充分協力セシメラル、様致度此段重ネテ照会申進ス

~~~~~

斯クノ如キ国難ニ当面シタ我カ同胞ハ全力ヲ挙ケテ此問題ノ有利ナ解決ニ注クヘキテアル

親愛ナル同胞ヨ彼ノ豺狼ノ日本帝国ハ我国ノ中露問題ニ困ツテ居ル機ニ乗シテ吉会鐵道ヲ強制的ニ敷設セムトシテ居ルト伝ヘラレテ居ル日本帝国ノ我カ滿蒙ニ於ケル侵略の野心ハ今回太平洋會議ニ於テ世界各国ノ代表ニ訴ヘテ嚴重ナル理智ノ判断ヲ求メツアルカ我國民ハ総力量ヲ挙ケテ外交ノ後盾トナリ誓死日本勢力ノ驅逐ニ邁進セネハナラヌ

親愛ナル同胞ヨ我等ハ左ノ口号ヲ座右ノ鑑トシテ吉会鐵道ノ敷設ニ反対シ此鐵道ヲ国鉄ニセネハナラヌ

一、軍閥官僚ヲ打倒セヨ

一、我国内ニ在ル日本軍隊ノ撤退ヲ期セヨ

一、吉会鐵道ノ敷設ニ反対シ我國民ノ手ヲ以テ之ヲ敷設セヨ

ヨ

一、日本人ノ合弁タル鉅山鐵道森林等ヲ回收セヨ

一、親日分子ヲ掃蕩セヨ

一、有産者ハ吉会鐵道ノ敷設ニ投資セヨ

中華民國十八年十一月九日

哈爾賓特別区第一中學校學生會泣告

133 昭和4年11月25日 在間島岡田總領事より
幣原外務大臣宛

ハルビン特別区第一中學校学生会の吉会鐵道敷設反対を唱える檄文配布につき頭道溝分館報告

機密第一三五九号 (12月3日接受)

昭和四年十一月二十五日

在間島

總領事 岡田 兼一〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

支那側ノ吉会鐵道敷設問題ニ対スル排日檄文配布ニ関スル件

(頭道溝分館報告)

本件ニ関シ哈爾賓特別区第一中學校学生会ニ於テハ日本ハ中露問題紛争ノ機ニ乗シテ吉会鐵道ヲ強制的ニ敷設セムトシ居レルヲ以テ對抗策ヲ講セサルヘカラストテ大要左記訳文ノ如キ檄文ヲ各地方団体ニ配布シタルヲ入手セリ
右御参考迄

記

親愛ナル同胞ヨ、中露問題ハ今尚解決力着カナイ

本信写送付先 北平公使、奉天、吉林、哈爾賓各總領事

長春、安東各領事、通化分館主任、朝鮮總

督、咸北知事

朝鮮軍、第十九師兩參謀長、羅南憲兵隊長

管内各分館主任各署長分署長

~~~~~

134 昭和4年11月26日 幣原外務大臣より  
在奉天林總領事宛

北陵鐵道支線遮断事件のその後の経緯につき

報告方訓令

亜二機密第二五五号

昭和四年十一月二十六日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

在奉天

林 久治郎總領事宛

榊原農場紛争問題ニ関スル件

榊原農場内支那側敷設鐵道除去問題ニ関シテハ其後ノ経緯何等御報告ニ接セサル処貴地邦字新聞紙ニ依レハ最近支那側ニ於テ同農場地域ヲ横キリ架橋セント試ミタルヲ以テ榊

原ニ於テハ実力ニ依リ提防ヲ破壊シ亦々問題紛糾セル旨報道シアリ当方事務上差懸リ必要アルニ付テハ從來ノ經過ト併セテ之カ真相委曲御報告相成度シ

135 昭和4年11月29日 中谷関東庁警務局長心得より  
吉田外務次官他宛

関東庁指導下での安東警察署による安東、新義州間密輸の取締り開始について

関機高収第三三四一三号ノ二 (12月4日接受)

昭和四年十一月二十九日

関東庁警務局長心得

拓務次官殿  
外務次官殿  
内務省警保局長殿  
朝鮮警務局長殿

密輸取締ニ関スル件

支那側ハ奉天ヲ中心トスル輸入日本貨物ニ対シ城内搬入ニ当リ密輸貨物ノ脱税牽制ノ手段トシテ放行單(納税済通過免状)ノ提示ヲ強要セシ件ニ付テハ其ノ都度通報シタル処

一、安東警察署ハ同地領事及新義州税関長ト協議ノ上取敢ス本月二十日從來密輸入品運搬業者タル内地人二名朝鮮人十一名及荷主タル邦人十三名ヲ召喚ノ上今回取締ヲ為スニ至リタル事情ヲ説明シ將來不心得ナキコトヲ警告シ更ニ翌二十一日同地商工会議所会頭及輸入組合理事等ノ出頭ヲ求メ右警告ノ事実ヲ告ケ今後嚴重取締勵行スヘキヲ以テ一般邦商ニ対シ過失ナキ様通達方助力ヲ求メ置キタリ

一、支那税捐局長ノ訓示

密輸取締援助ニ付我官憲ノ行動開始セラルコトヲ期待シテカ安東県沙河税捐局長ハ本月十六日外勤学視員ニ対シ左記ノ如キ訓示ヲ与ヘタリ

(一) 附属地ニ通スル各道橋ニ勤務スルモノハ支那管内ニ輸入スル貨物ニ注意スヘキコト

(二) 搬入貨物ノ包装上ニ「海」字ノ捺印アルモノハ関税完納シタルモノナルモ然ラスシテ単ニ「新義州税」字ノ捺印セルモノハ即チ脱税品ナレハ検査ヲ為シ左ニ依リ処置スヘシ

(イ) 支那管内居住日本商人富屋、日進、清水各洋行及朝鮮人等ノ搬入貨物ニ対シテハ関税完納ノ証ナキモ単ニ之

ナルカ斯克テハ我對滿貿易ヲ阻害スルノミナラス安東ヲ經テ密輸入スル日本貨物ノ激増カ其ノ因ヲナスモノニシテ情報ニ依レハ大連經由奥地仕向貨物ノ如キモ無税通過トシテ朝鮮新義州ニ仕向直接内地ヨリスルモノハ之ヲ新義州駅止トシ或ハ海路新義州港ヲ經テ新義州税関ヨリ輸出許可ヲ受ケ之ヲ水路安東ニ密輸入スルモノ多ク其ノ一例トシテノ數字ヲ見ルニ新義州本年八月迄ノ輸入額三八三万円ニ上リ前年同期ノ一三六万円ニ比シ約三倍ノ増加ヲ示シ之ニ反シ安東駅ニ於ケル鐵路輸入額ハ八月迄累計六四二万円ニシテ前年同期ニ比シ十一万円ノ増加ヲ示セルモ此ハ支那関税改正直前見越輸入額相当多ク實際本年五月以降ノ輸入額ハ前年ニ比シ七九万円即チ二割二分ノ減少トナリ此ハ密輸入ノ実相ヲ物語ルモノナラムカト思料サル右事実ハ之ヲ放任セムカ不正密輸業者ノ跋扈ヲ助長シ邦商發展ノ途ヲ妨クルミナラス独リ支商ヲ利シ何等得ル処ナシトシ本月初旬各関係機関會議ノ結果積極的取締ヲ表榜スルコトハ考慮ノ要アルモ好意的援助ハ一面日本ノ正義ト我對滿貿易ノ消長ニモ重大影響アルモノトシテ安東警察署ヲシテ之ニ当ラシムルコトニシタルカ其ノ第一着手トシテ左記警告ヲ発シタリ

ヲ阻止シテ引返ヘサシムヘシ

(ロ) 尙之等外国人トノ交渉ニ付テハ決シテ衝突スルコトアルヘカラス

右御參考迄

136 昭和4年12月4日 在奉天森島総領事代理より  
幣原外務大臣宛

北陵鉄道支線遮断事件発生後の経緯について

報告

機密公第一〇三二号 (12月9日接受)

昭和四年十二月四日

在奉天

総領事代理 森島 守人〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

榊原農場紛争問題ニ関スル件

本件ニ関シ客月二十六日附亞二機密第二五五号貴信御申越ノ趣敬承榊原農場内支那側敷設鉄道除去問題ニ関シテハ本年七月三日附機密公第六一三号拙信ヲ以テ事件ノ経緯並実況等詳細及報告置タル通ニシテ其後何等ノ変化ヲ見サル処

最近支那側ハ非公式ニ二三邦人ヲ介シ榦原ニ対シ土地全体買収方商議中ノ事実アルモ是亦何等ノ進捗ナシ然ル処過般支那側ハ北陵行自働車道路ノ拡張ヲ計画シ十一月九日先ツ榦原水田中間疏水溝ニ架設シアル北陵橋改築ノ目的ヲ以テ同橋南詰疏水堤防ノ一部(別紙附圖<sup>(省略)</sup>参照)ヲ多数ノ苦力ヲ使用シテ破壊シ始メタルト同時ニ榦原農場ヲ貫通スル現在道路ノ両傍ニアル若干ノ同人商租地ヲ無断占有セントスル懸念アリタル為榦原農場管理邦人ヨリ之ヲ差止メントシタルニ苦力等ハ市政公所ノ命令ナリトテ中止ヲ肯ンセサル趣ヲ以テ右工事ノ即時中止並原状恢復方支那側ニ交渉方榦原ヨリ願出アリ当館ニ於テモ館員ヲ現場ニ派シ取調ヘシメタル結果右ノ事実ヲ認メタルニヨリ公文並ニ口頭ヲ以テ交渉員ニ対シ其不當措置ヲ詰リ工事ノ中止並現状恢復方抗議シタリ茲ニ於テ支那側ハ十一月十四日右工事ヲ中止シ且市長ヨリ口頭ヲ以テ本官ニ陳謝スル所アリタルカ原来本件ハ公共道路拡張ノ必要ニ出テタルモノニシテ本官ニ於テハ其趣旨ニ対シ何等ノ反対ヲ有スルモノニ非ス唯事前当館若クハ榦原ニ何等ノ相談ナク擅ニ本邦人ノ權利ヲ侵害セルヲ責メタル次第ナルニ付已ニ支那側カ其非ヲ認メテ陳謝セル以上

機密公第七八二号

(12月17日接受)

昭和四年十二月四日

在吉林

総領事 石射 猪太郎〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

吉同鉄道測量完了ニ関スル件

吉同鉄道珠河缸窰間ノ測量完了ニ関シテハ十一月十七日附拙信機密公第七四五号報告ノ通りナルカソノ後当地吉同鉄道測量辦公処ヨリ得タル情報ニ依レハ缸窰省城間約百支里ノ測量モ既ニ完了シ十一月二十五日測量隊一行全部帰来シタルヲ以テ省政府技監張國賢ハ十二月一日省政府ニ対シ全線ノ測量ヲ完了シタル旨及従来ノ計画ニ依レハ明春起工ノ豫定ナレハ至急建設籌備処ヲ設置シ諸種ノ準備ヲ進ムル要アル旨報告スルト共ニ照代理主席ニ面会右籌備処設立許可方請願シタル結果照代理主席ハ直チニ滯奉中ノ張作相ニ措置振請訓シタル処張主席ヨリ十二月三日附ヲ以テ軍事緊急ノ折柄之カ設置ヲ暫時見合スヘキ旨回訓アリタル趣ニテ本鉄道建設ハ当分延期サルコトナレリトノコトナリ  
本信写送附先 北平 奉天 間島 哈爾賓 長春 閔東長

本官ニ於テモ支那側ノ公共事業援助ノ為榦原ヲシテ隠当ナル価格ニテ必要程度ノ地面ヲ売却セシムヘキ旨ヲ市長ニ申入レ同時ニ榦原ト打合セタル処榦原ハ公共事業ノ為ナラハ喜ンテ地面ノ一部ヲ寄附スヘキ旨申出テタルヲ以テ之ヲ市長ニ伝ヘタルニ市長ハ十分当方ノ好意ヲ謝シタルカ偶々清丈局ニ於テ現在道路ノ両側若干ノ土地ハ榦原商租ノ地面ニアラスシテ艾某ナル者ノ私有地ナリト主張セル趣ヲ以テ市長限リニテハ差当リ措置困難ニ陥リ為メニ交渉一時停頓セリ当方ニ於テハ該地域ハ元清室ノ寢陵ニシテ其内ニ私有地ノ介在シ居ル理由ナシト思ハルルト同時ニ当時ノ契約添付地図ニヨルモ道路ノ両側ハ全部榦原ノ商租地ナリト主張シ居レルカ其内証掘調ヘノ結果事情判明ヲ俟ツテ解決ヲ見ルニ至ルヘク要スルニ支那側ニ於テ再ヒ不法行為ニ出ツル懸念ナシト認ム  
右不取敢報告ス

137 昭和4年12月4日

在吉林石射総領事より  
幣原外務大臣宛

吉同鉄道敷設予定地全線の測量終了について

官

138 昭和4年12月10日

在安東宇佐美領事より  
幣原外務大臣宛

総稅務司による安東、新義州間密輸調査員の  
安東派遣について

機密第三八一号

(12月16日接受)

昭和四年十二月十日

在安東

領事 宇佐美 珍彦〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

密輸入状況調査員来安ニ関スル件

当地ニ於ケル密輸入取締ニ関スル支那側措置ニ付テハ曩ニ福本前任稅関長ヨリ總稅務司ニ対シ監視所ノ新設、警邏「ランチ」ノ新造、稅関監視員ノ増員等要求シタル結果總稅務司ニ於テハ密輸入取締ヲ一般の問題トシテ攻究スルノ必要ヲ認メ稅務司「ベル」ヲ派遣シテ安東ノミナラス其ノ他密輸入ノ行ハル各地ニ就キ調査報告セシムルコトナリタル由ナリシカ最近当地稅関側ノ談ニ依レハ右調査員近

ク来安ノ筈ナル趣ノ処警察牒報ニ拠レハ安東県政府ニテハ右ニ関シ本月一日遼寧省政府ヨリ左記訳文ノ如キ訓令ニ接シタル趣ニ付御参考迄報告ス

記

東北政務委員会ノ訓令ヲ奉スルニ財政部ノ照会ニ拠ルニ安東関監督ノ密報ニ拠ルニ外人脱税私運甚シキニ依リ補救弁法ヲ講セラレタシト依ツテ即時総稅務司ニ令シテ整頓弁法ヲ講セシメタルカ其ノ報告ニ拠ルニ本件ニ関シテハ安東関稅務司福本順ヨリ報告アリ聴ク処ニ拠ルニ新稅則施行後各地密輸日ニ甚シク緝私事務ヲ創設シテ稅収ヲ保ツコト目前ノ急務ナリ前ニ各地境界密輸情況調査ノ為メ派遣シタル稅務司貝洲ハ目下九龍関稅務司「アーツオーペント」ト会同シテ九龍一帯ノ密輸情況ヲ調査中ナルカ該地ノ調査終了次第安東ニ派遣シ該関稅務司ト合同シテ中韓境界ノ密輸情況ヲ詳細調査シ適當ノ弁法ヲ設ケテ整頓ニ資シ稅収ヲ保ツヘシ該監督擬スル処ノ鴨綠江内ニ武裝小蒸汽船ヲ設ケ岸上ニ巡緝隊ヲ組織スルコトハ莫大ノ費用ヲ要スルコトナルモ而モ稅収ニ裨益スル処少カラス考慮ノ価値アリト復タ該總稅務司ノ申請ニ依ルニ該稅務司貝洲ヲ各関巡緝事務專員ニ命

ノ件了承朝鮮總督府ニ照会候処今般同府政務總監ヨリ別紙写ノ通回答有之候条御了知相成度候也

(別紙)

稅第八六号

昭和四年十二月七日

朝鮮總督府政務總監伯爵 兒玉 秀雄

拓務次官侯爵 小村 欣一殿

新義州安東間密輸入ニ関スル件

首題ノ件ニ関シ御照会ノ趣了承新義州仕出水路輸出貨物ノ安東ニ於ケル密輸入ハ本年二月支那輸入新稅率ノ實施以來漸増ノ情勢アルニ付テハ所轄新義州稅関ニ於テモ國際信義維持ノ必要ニ鑑ミ密輸入容疑貨物ノ夜間ニ於ケル積出ヲ認メサル方針ヲ執ル等現ニ極力取締ノ方法ヲ講シ居レルモ今後尙一層關係官庁トノ協調連絡ヲ密ニシ以テ密輸入阻止ノ徹底ヲ期スル様適當措置スヘキ旨同稅関長宛通牒致置候条御了知相成度此段及回答候也

シ委任狀ヲ發給シ置キタルニ就キ各關係地方長官及各監督ハ各種便宜ヲ与ヘラレ進行ニ便セシメラレタシト依ツテ貴會ニ照会スルニ依リ各地方長官ニ轉令シテ便宜ヲ与ヘラレタシト該省政府遵照スヘシト該県遵照スヘシ  
本信写送附先 在支公使 奉天、上海各總領事、南京領事、関東長官

編注「ペント」の「ト」を削除する書き込み訂正あり。

139 昭和4年12月13日 小村拓務次官より 吉田外務次官宛

安東、新義州間密輸入に關して新義州稅関の密輸取締りに協力する旨の報告について

朝一第八五九号

昭和四年十二月十三日

拓務次官侯爵 小村 欣一〔印〕

外務次官 吉田 茂殿

新義州安東間密輸入ニ関スル件

八月十五日附亜二機密第一二二号ヲ以テ御照会相成候首題

140 昭和4年12月18日 在安東宇佐美領事より 幣原外務大臣宛

總稅務司派遣の安東、新義州間密輸調査員との会談について

機密第三九一号

(12月23日接受)

昭和四年十二月十八日

在安東 領事 宇佐美 珍彦〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

安東密輸入取締方ニ関スル件

支那各地密輸入狀況視察ノ為總稅務司ヨリ調査員ヲ派遣スルコト、ナリタル次第ハ本月十日附機密第三八一号拙信ヲ以テ報告ノ通りナル処右調査員稅務司「ベル」(Lt. Col. F. Hayley Bell) ハ香港ヨリ上海、長崎及京城ヲ經テ本月十一日当地ニ到着シ十二日以来兩三回本官ヲ來訪シテ当地密輸入取締ニ付種々懇談ヲナシ更ニ新義州稅関長ヲモ往訪シテ同問題ニ付會談スル所アリ今尙当地ニ滞在シテ種々調査中ナルカ同人ハ一兩日中ニ京城ニ赴キ本問題ニ付朝鮮總督府當局ト協議スヘク然ル後間島方面ノ狀況ヲ視察シテ引返シ大連、旅順ニ赴キテ關東州ノ狀況ヲ視察シ兼ネテ関東庁

当局トモ協議スヘキ意嚮ナル趣ナリ

右本官トノ会谈ニ於テハ本官ヨリ帝國政府ノ本件取締ニ關スル方針及当地ニ於テ現ニ我方ノ執リツ、アル措置ニ付説明ヲ与ヘタル処右我方ノ態度ニ対シテハ感謝シ最近ニ於テ安東海關ノ関稅收入ノ増加シツ、アルハ事實ニシテ喜バシキ現象ナリト述ヘタルカ他方支那海關トシテモ之カ取締ノ為何等カノ措置ヲ講スル要アリトテ種々具体的方法ニ付協議アリタルニ依リ本官ハ当地ニ於ケル鐵道附屬地ノ存在ヨリ來ル特殊且複雑ナル事情ヲ篤ト説明シ置キタリ其ノ際「ベル」ノ述ヘタル具体的方法ノ主ナルモノ左ノ如シ

(イ) 武装税関吏ノ搭乘セル巡邏船ヲ設ケ江上ニ於テ取締ヲ行ハシムルコト

「ベル」ノ談ニ依レハ密輸入ノ取締不徹底ナルハ要スルニ海關ニ実力無キカ為ナリトノ見解ニテ同人カ総稅務司ヨリ命令セラレタル調査事項中ニハ海關ニ実力附与ノ問題ヲ包含シ居リ同人トシテモ之ニ付具体案ヲ作成スル意嚮ノ由ナルカ右ニ関シ安東附屬地先鴨綠江上ハ日本側ニ於テハ全部之ヲ日本ノ行政權内ニ在ルモノト解スルヤ將又其ノ場合右ノ如キ武装巡邏船ノ活動ヲ

ル能ハサルコトヲ指摘シタル処「ベル」モ此ノ方法ノ良策ナラサルコトハ充分了解シ居レリト述ヘテ本案ヲ固持セス

(ハ) 新義州朝鮮税関構内ニ安東海關出張所ヲ設ケ新義州税関カ同地ニ於テ密輸出検査ヲ行フ貨物ニ付テハ安東海關出張員カ同時ニ同所ニ於テ輸入検査ヲ行ヒ輸入税ヲ徵收スルコト

「ベル」カ本案ヲ考量シツ、アルハ安東ニ密輸入セラ、貨物モ新義州ニ於テハ輸出手続ヲ經居ルカ故ニ同地ニ於テ同時ニ輸入手續ヲ行フコト、セバ密輸入ヲ防止シ得ヘシト思考スルニ基クモノニシテ「ベル」ノ談ニ依レバ香港ニ於テハ既ニ支那海關出張所設置ニ同意シタル趣ナルカ本官ハ之ニ対シ此ノ方法カ豫期ノ如キ結果ヲ齎スヘキヤ將又之カ実行上如何ナル困難アリヤハ充分研究ヲ要スヘキモ仮リニ実行ストセハ日支兩國政府間ノ協定ニ依ラサルヘカラサルニ付中央政府ノ同意ヲ要シ之カ為ニハ相当ノ時日ヲ要スヘキ旨ヲ答ヘ置キタリ尙本件ニ付テハ「ベル」等新義州井上税関長往訪ノ際ニモ之ニ言及シタル由ナルカ井上税関長ハ其ノ

認メラル、ヤト問ヒタルニ依リ本官ハ日本官憲ニ於テハ江上國境線ニ至ル迄附屬地行政權カ江上ニモ及フモノト解シ居ル次第ニシテ過去ニ於テモ附屬地先江上ニ於ケル支那側武力行使ノ為事端ヲ起シタルコトアルヲ以テ海關カ此ノ区域ニ武力ヲ行使スルコトハ少クトモ妥當ニアラスト思考スル旨ヲ説明シタル処「ベル」モ之ヲ了解シ当地ノ特殊ノ事情ニ顧ミ附屬地外ハ別ナルモ右ノ如キ事端ヲ醸シ易キ区域ニ於テ武力ヲ行使スルコトハ之ヲ思ヒ止マルヘシト答ヘタリ

(ロ) 安東ヨリ先ノ適當ナル駅ニ税関ヲ新設シ安東ヨリ來ル鐵道貨物ヲ検査スルコト

「ベル」ノ考ニテハ安東ニ密輸入セラル、貨物ハ鐵道ニ依ラスシテ一旦附屬地内ニ搬入セラレタル上安東駅ヨリ鐵道ニ依リ他地方ニ輸送セラル、モノナルカ故ニ安東ノ先キニ今一ツ税関ヲ設ケ検査ヲ行ハシ密輸入ヲ防止シ得ヘシトナスモノナルカ本官ヨリ右ハ正當ノ手續ヲ經タル者ニ不當ノ苦痛ヲ与ヘ鐵道運輸ニモ支障ヲ生スルヲ以テ到底同意シ難キ所ナルノミナラス此ノ方法ニ依リテハ安東ニ於テ消費セラル、密輸入品ヲ取締

實際ノ經驗ニ鑑ミルニ外國ノ領域ニ於テハ關稅法ノ適用ナキ為脱稅行為ヲ処罰スルコトヲ得サル關係上右ノ方法ハ密輸入防止ノ目的ヲ達セサルノミナラス却テ脱稅行為ヲ繁カラシムルノ弊アル旨ヲ説明シ支那ノ利益ヨリ見テ本案ニ不賛成ノ旨ヲ私見トシテ述ヘ置キタル趣ナリ

(ニ) 附屬地ニ於ケル支那税関援助及保護ノ為日本警察ヨリ之ヲ專務トスル警官(例ヘハ十名位)ヲ配置シ之カ經費ハ支那海關ニ於テ支弁スルコト

右ニ関スル「ベル」ノ意嚮ハ支那海關カ附屬地ニ於テ武力ヲ使用スルコト能ハストセハ勢ヒ日本官憲ノ実力ヲ借ラサルヘカラサル処現在ニ於テモ日本警察ノ保護及援助ヲ受ケ得ルトハ雖モ實際ノ事情ハ海關側ノ希望通りニ行カサルモノアルヲ以テ寧ロ請願巡查ノ如ク自己ノ費用ヲ以テ税関專務ノ警官ノ配置ヲ受ケ事實上之ヲ自己ノ意ニ從ヒ使用シ得ル如キ制度ヲ設クルニ若カストナスニ在リ本官ハ右ノ如キ方法カ可能ナリヤ否ヤハ充分研究ヲ要スヘキモ我方トシテハ能フ限り援助ヲ与フル意嚮ニシテ江岸ノ取締ヲモ行ヒ居ル次第ナルヲ



以テ海関ニ於テ密輸入者ノ暴行等ノ為保護ヲ要スル場合ニハ我方警察ニ通知アラハ警察ニ於テ充分保護ヲ与フルコト勿論ナルカ故ニ特ニ右ノ如キ制度ヲ設クル必要モ無カルヘシト答ヘタルカ「ベル」ハ日本警察ノ保護モ必要起リテヨリ之ヲ要求シ居リテハ間ニ合ハサルコト多キヲ以テ海関ニ於テ常時警察ノ援助ヲ受ケ居ルコト、ナサバルヘカラス要スルニ現在ニ在リテハ海関カ実力ヲ有セサル為密輸入者等ヨリ輕侮セラレ居ル状態ナルヲ以テ海関ニ実力ノ後援ヲ与フルコト絶対必要ナリ而シテ附属地内ニ於テ支那ノ実力ヲ使用シ得ストセハ日本ノ警察力ヲ借ルノ外ナキ次第ナルヲ以テ其ノ形式ハ間ハサルモ實際ニ於テ日本警察力ノ完全ナル後援保護ヲ希望ストノ趣旨ヲ繰返シ強調セリ

右ノ外「ベル」ハ尚新義州税関ニ於テ水路ニ依リ輸出セムトスル者ニ対シ鉄道ニテ輸出スヘキヲ命シ又安東側ニ於テハ鉄道カ税関ノ検査ヲ経ルニ非スンハ鉄道貨物ヲ発送セサルト同様日本官憲ニ於テ附属地内ニ輸入セラル、貨物ニ対シ税関ノ手続ヲ経サレハ附属地内ニ搬入スルコトヲ許サバルコト、セラレ度トノ希望ヲモ述ヘタルカ本官ハ之ニ対シ

右ハ法規上ニ明定セラレ居ラサルヲ以テ或ハ不満足ト認メラル、ヤモ図ラレサルモ實際ハ新義州税関及安東日本警察ニ於テ或ハ関係者ニ戒告シ或ハ江岸ノ監視ヲ行フ等能フ限リノ方法ヲ以テ右趣旨ノ實現ニ努力シ既ニ實際上相当其ノ効果ヲ挙げツ、アル次第ヲ説明シ尚日本政府トシテハ密輸入ノ如キ不正ノ方法ニ依リ対支貿易ノ進展ヲ期シ得ルモノニアラサルコトヲ充分確信シ居リ從テ過般之カ取締ノ方針ヲ定メ目下当地ニ於テ実行シツ、アル措置ヲ試ムルコト、ナリタルモノニシテ若シ現在ノ方法ニシテ尚不充分ナルコト明カトナル場合ニハ日本政府ニ於テモ他ノ可能ナル方法ニ付考慮スルニ吝ナラサルヘシト信ス他方支那海関トシテ取締ノ為新タナル措置ヲ攻究セラル、コトハ至極結構ナルモ当地ハ他地方ト異リ複雑ナル關係アルヲ以テ充分此ノ点ヲ考慮ニ入レラレ度兎ニ角日本政府カ取締ノ方針ニ出テ日本官憲ニ於テ能フ限リノ援助ヲ為スコト、ナリタル以上支那海関ニ於テモ之ニ呼応シ真ニ取締ノ方針ニ出テラル、ナラハ是以上前記ノ如キ特別ノ措置ヲ俟タスシテ密輸入防止ノ目的ヲ達シ得ヘシト信スル旨ヲ述ヘ置キタリ然レトモ「ベル」ハ前記具体的方法中<sup>(編注三)</sup>タケハ如何ニカシテ実行シ

度キ考ナルモノ、如ク之カ為京城及旅順ニ於テ朝鮮總督府当局及関東庁当局トモ協議スル意嚮ヲ有シ居リ從テ其ノ結果ニ依リテハ更ニ改メテ我方ニ提議シ来ルヤモ図リ難キニ付右ニ関スル本省ノ御意嚮等豫メ心得置クヘキコトアラハ御回示相成様致度

尚支那側取締ニ付「ベル」ノ語ル所ニ依レハ安東海関吏ヲ増加シ且江岸監視所ヲ増設スル意嚮アリ又附属地外ニ於テハ必要ニ応シ武力ヲモ使用シテ完全ニ取締ヲ行フ方針ナル趣ナリ

右報告旁々申進ス  
本信写送附先 在支公使、在奉天、上海、間島各總領事、在南京領事、朝鮮總督、関東長官。

編注一 「密輸出」の「密」の削除訂正あり。

編注二 「如キ」の後に「好」の書き込み訂正あり。

編注三 「(ハ)」の後に「及(ニ)」の書き込み訂正あり。

141 昭和4年12月23日

在奉天森島總領事代理より  
幣原外務大臣宛

東亜勸業公司の韓僑に対する融資状況に対し  
一部韓僑の不満について  
機密公第一〇七四号 (12月27日接受)

昭和四年十二月二十三日

在奉天

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
總領事代理 森島 守人〔印〕

東亜勸業株式会社ニ対スル一部鮮人ノ輿論ニ関スル件  
本件ニ関シ当館警察情報別紙写ノ通何等御参考迄送付ス  
右報告ス  
本信写送付先 満鉄会社 朝鮮總督

(別紙)

東亜勸業株式会社ニ対スル一部鮮人ノ輿論ニ関スル件

最近朝鮮内ヨリ満洲開発ノ雄志ヲ抱キ貴重ナル担保物件ヲ持ツテ此レカ金融ヲ得満洲ニ於ケル企業ヲ試ミントシ続々来奉スルモノ多キニ達シタルカ資金融通ノ為当地東亜勸業株式会社ニ赴キ事業計画ノ一切ヲ披露シ担保物件提供ノ上

金融方ヲ申込メハ当係員（金融部長）ハ言ヲ左右ニ托シ時  
日ノ遷延会社方針トノ相違前貸金ノ未回収又既ニ貸出ヲ承  
認セル金額ノ出渡リ等種々ナル口実ヲ以テ立派ナ担保物ア  
ル者ニ対シテモ貸出ヲ忌避シ滿洲ニ於ケル朝鮮人ノ産業発  
展ヲ阻害スルコト多々アリ既ニ契約ノ下ニ資金貸出承諾ヲ  
為セル者ニ対シテモ資金出渡リノ為事業経営上時機ヲ失シ  
中途ニ於テ廃業ノ止ムナキニ至ラシメタル実例モアリ東亜  
勸業カ特ニ在滿鮮人ノ産業助成資金融通滿蒙開発ノ使命ヲ  
一部負ヒ朝鮮總督府ヨリ年四十万円關東庁ヨリ年二十万円  
計六十万円ノ補助金ヲ仰クコトニナリ居ルカ何等朝鮮人産  
業助成ノ為資金貸出ヲセルコトナク羊頭狗肉ヲ売ル策ヲ弄  
シ朝鮮人ノ為ニ有利ニ使フヘキ金ハ会社自体ノ缺損ヲ補フ  
ノミニシテ何等元来ノ使命遂行ニ使用セル前例ナシ（例ア  
リトスルモ極小範圍ニ亘リ帳簿面ヲ誤魔化スタケノ口実タ  
ケ設ケアリ）会社創立当時ヨリ今日ニ至ル間朝鮮人ノ産業  
助成ノ名目ノ下ニ受ケタル補助金ハ金百六十万円ニ達スル  
カ其ノ内實際朝鮮人ノ事業ニ貸付ケタル額ハ僅カ六万円程  
度ニ過ス百万円ノ使途ニ付キ甚タ疑問アリ從來此ノ勸業会  
社トノ貸借關係ヲ持チ事業ヲ經營シ来リシ当地民天公司羅

關機外第三四四号

（昭和5年1月8日接受）

昭和四年十二月二十八日

關東長官 太田政弘〔印〕

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

州界ニ於ケル密輸入ニ關スル件

本件密輸入取締ニ關シ大連税関側ト打合ノ上普蘭店民政支  
署長ヲシテ嚴重之カ取締勵行ニ着手セシメタル次第ハ往電  
外第一〇二号ヲ以テ申進ノ通ニ有之候処其ノ後右状況ヲ内  
査スルニ当業者ニ於テハ日本官憲力嚴重ナル取締ヲ勵行ス  
ルニ於テハ到底密輸入行ノ餘地ナク此上ハ断念セサルヘカ

景錫、金河鍾薛元植等ハ会社ノ不誠意ノ為メ事業一切ハ中  
途ニ解散ノ止ムナキニ至リシ事實アリ其ノ経緯及会社金融  
部長タルモノノ一般鮮人ニ対スル不理解ノタメ事業ノ蹉跌  
ヲ来タラシメタル其ノ原因等ニ付キ一般社会ニ訴ヘルト共  
ニ政府当局ニ迄「パンフレット」ヲ提出スル意向アル見込  
ナリ然シテ最近十万円、二十万円、六万円ノ資金融通方申  
込ミニ対シテモ担保物鑑定迄為シ置キ立派ニ合格セルモノ  
ニ対シテモ徒ラニ時日ヲ遷延シテ貸出ヲ行ハス其他係員ニ  
無誠意極マル言動及態度アリトシテ之ヲ憤慨シ全然手ヲ切  
リタル事實モアリ斯ノ如キ無誠意社員ノ態度及会社ノ以前  
不正貸出ノ裏面ヲ暴露セシメ社員ノ改造ヲ為ササルヘカラ  
ストシ此等ノ分子モ前記民天公司派ト合シ東亜勸業会社ニ  
対スル無誠意ナル態度ヲ批難攻撃シ一般輿論ヲ喚起スルト  
共ニ朝鮮總督府其他關係当局者ニ陳情スルト敦囑キ居ル趣  
ナリ

142 昭和4年12月28日

太田關東長官より  
幣原外務大臣宛

關東州における密輸入取締りは効果ありとの報告

ラスト為シ十二月二十一日既ニ到着セル貨物ハ夫々同地海  
関出張所ニ関稅ヲ支払ヒ汽車便ニテ北送シ或ハ大連ノ荷送  
人ニ逆送シ他ハ同地ニ於テ販売又ハ荷主側ト処分方法ヲ商  
議中ニシテ又既ニ契約済未着貨物ニ対シテハ何レモ発送中  
止方ヲ打合ス等今後引続キ密輸入企圖スルカ如キモノ皆無  
ノ模様ニ有之候為御參考此段報告申進候也

本信写送付先 在支公使、奉天、安東、牛莊、上海、南京  
各（総）領事